コンピュータミシン

取扱説明書

CPS54／CPS56シリーズ

brother

必ずお読みください

1 ぬう前の準備

ぬう前に必要な準備を説明します。

2 ぬい方の基本

基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

必要に応じてお読みください

3 いろいろなぬい方

いろいろなぬい方とその使い方を説明します。

4 付録

ミシンのお手入れと困ったときの対処方法などを紹介します。



● ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
● 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

付属品を確認してください

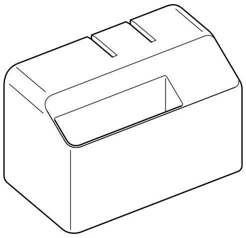
箱をあけたら、まず以下の付属品が揃っているか確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

付属品

箱の中には以下のものが入っています。

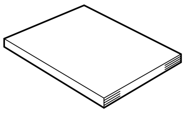
■ **本体・ハードケース**

ミシン本体です。ミシンを使用しないときは、ケースに入れて収納してください。（部品コード：XC2360-151）



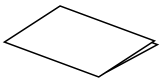
■ **取扱説明書**

本書です。大切に保管してください。（部品コード：XC4664-051）



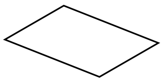
■ **早見表（下糸の準備／上糸の通し方）**

下糸の準備から上糸を通すまでの手順が確認できます。（部品コード：XC4501-051）



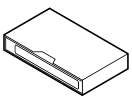
■ **早見表（ミシンの設定／模様の選択）**

ミシンの設定と模様の選択の手順が確認できます。（部品コード：XC4588-051）



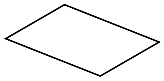
■ **取扱説明ビデオ**

ミシンの基本的な使い方をビデオで紹介しています。（部品コード：XC4503-051）



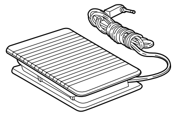
■ **保証書**

ミシンを修理するときなどに必要です。大切に保管してください。



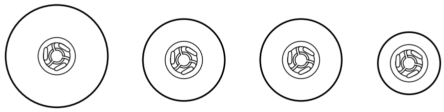
■ **フットコントローラー**

ミシンを足で操作するときに使用します。（部品コード：XC1158-051）



■ **糸こま押え**

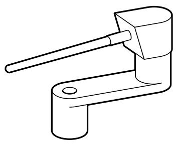
上糸をセットするときに使用します。糸こまの大きさによって［大］［中］［小］を使い分けます。（部品コード：［大］130012-054，［中］X55260-153，［小］130013-154）



● 糸こま押え［中］は、購入時にミシンの糸たて棒にセットされています。

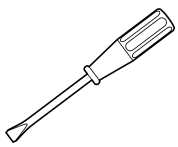
■ **補助糸たて棒**

2本針を使用するときに、下糸巻き軸に差し込んで 2 色目の糸こまをたてます。（部品コード：XC4654-051）



■ **ドライバー**

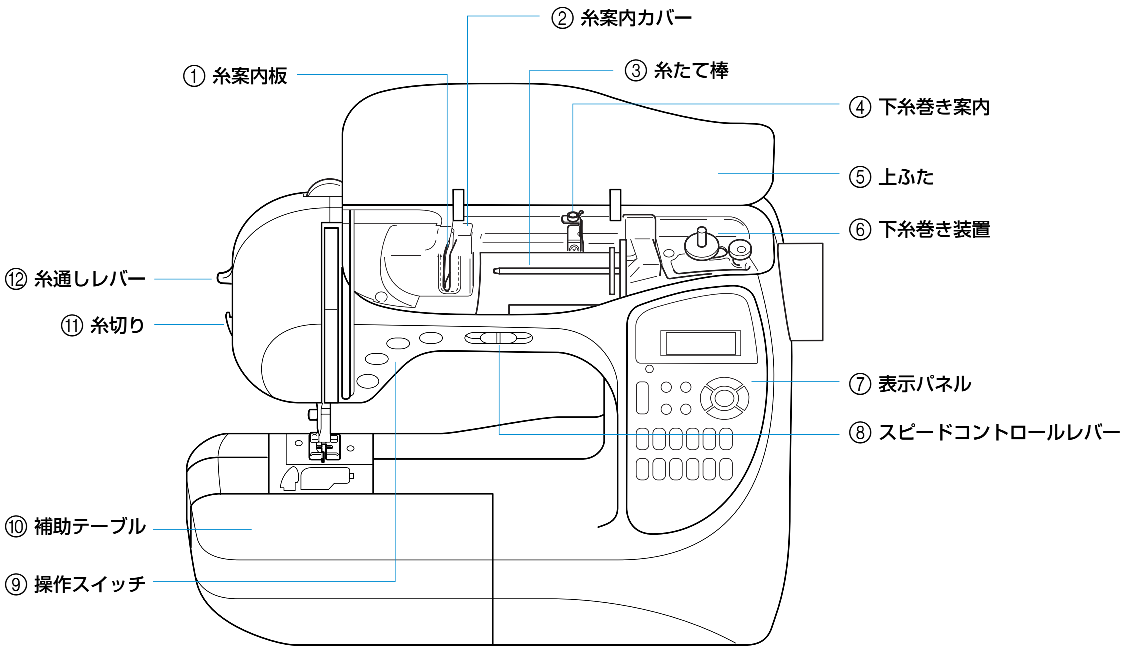
ミシン針を交換するときなどに使用します。（部品コード：X55467-051）



各部の名前とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名前とはたらきを説明します。ミシンを使用する前に、よく読んで名前を覚えておきましょう。

前面



① 糸案内板／② 糸案内カバー
上糸を通すときに糸をかけます。

③ 糸たて棒
糸こまを差し込みます。

④ 下糸巻き案内
下糸をボビンに巻くときに糸をかけます。

⑤ 上ふた
このふたを開いて糸をセットします。

⑥ 下糸巻き装置
下糸をボビンに巻くときに使用します。

⑦ 表示パネル
ぬい方を選択します。（→表紙 E）

⑧ スピードコントロールレバー
ぬう速さを調節します。

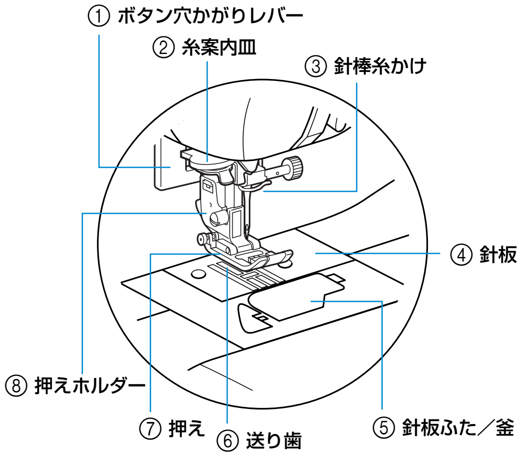
⑨ 操作スイッチ
ミシンをスタートさせたり、自動で糸を切るときに使用します。（→表紙 D）

⑩ 補助テーブル
この中に押えやボビンなどを収納します。袖口などの筒ものをぬうときは、ここを外します。

⑪ 糸切り
ここに引っかけて糸を切ります。

⑫ 糸通しレバー
針に糸を通すときに使用します。

針・押え部分



① ボタン穴かがりレバー

ボタン穴かがりやかんどめをするときに使用します。

② 糸案内皿

糸通し装置を使って針に糸を通すときに、ここに糸を通します。

③ 針棒糸かけ

上糸をかけます。

④ 針板

まっすぐにぬうための目盛りが付いています。

⑤ 針板ふた／釜

ここを開けて、釜にボビンをセットします。

⑥ 送り歯

ぬう方向に布地を送ります。

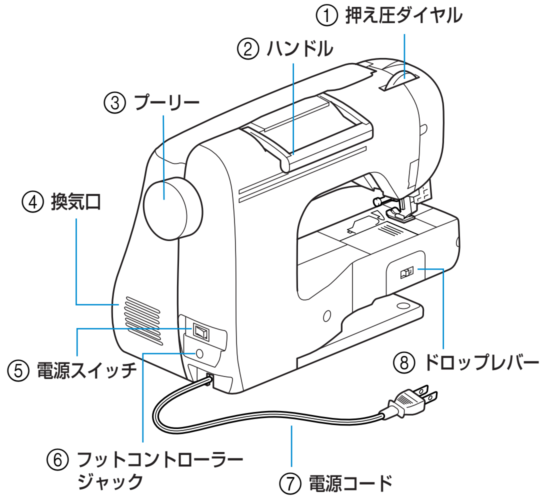
⑦ 押え

布地を押さえます。７種類の押えが付属しているので、ぬい方に合った押えをセットします。

⑧ 押えホルダー

押えを取り付けます。

右側面・背面



① 押え圧ダイヤル

布地を押さえる強さを調節します。

② ハンドル

ミシンを移動するときは、ここを持って持ち上げます。

③ プーリー

ぬい目を１針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。

④ 換気口

モーターの換気用の穴です。ミシンを設置するときは、ここをふさがないようにしてください。

⑤ 電源スイッチ

電源を入れるスイッチです。

⑥ フットコントローラージャック

ここにフットコントローラーのプラグを差し込みます。

⑦ 電源コード

家庭用電源コンセント（AC100V）に接続します。

⑧ ドロップレバー

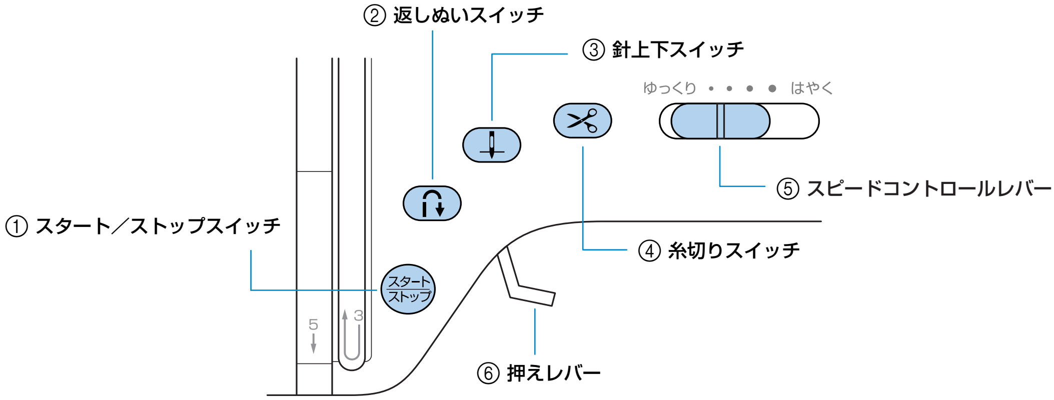
送り歯を下げるときに使用します。

お知らせ

● 表紙Ｂまたは表紙Ｄ･Ｅを開いた状態でページをめくっていくと､操作しながら各部の名前などが確認できます。

操作スイッチ

ミシンの基本的な操作が手もとでできます。



①**スタート／ストップスイッチ**

ミシンをスタートまたは停止します。ぬい始めとスイッチを押している間は、ゆっくりとぬいます。停止すると、針は下がった（布地に刺さった）状態で止まります。詳細は「ミシンをスタートさせる」（→P.51）で説明します。
ミシンの状態によって、スイッチの色が緑・赤・オレンジに点灯します。

緑：ミシンがスタートできる状態、またはぬっているとき
赤：ミシンがスタートできない状態のとき
オレンジ：下糸巻き軸が右側になっているとき

②**返しぬいスイッチ**

スイッチを押している間、返しぬいまたは止めぬいをします。返しぬいの場合はスイッチを押している間、逆方向にぬいます。止めぬいの場合は、同じ場所で3～5針ぬってから止まります。詳細は「ほつれ止めをする」（→P.53）で説明します。

③**針上下スイッチ**

針の位置を上または下に切り替えます。続けて押すと、1針ぬえます。

④**糸切りスイッチ**

ぬい終わったときにこのスイッチを押すと、上糸と下糸が切れます。詳細は「糸を切る」（→P.55）で説明します。

⑤**スピードコントロールレバー**

ミシンの進む速度を調節します。

⑥**押えレバー**

押えを上げ下げします。

注意

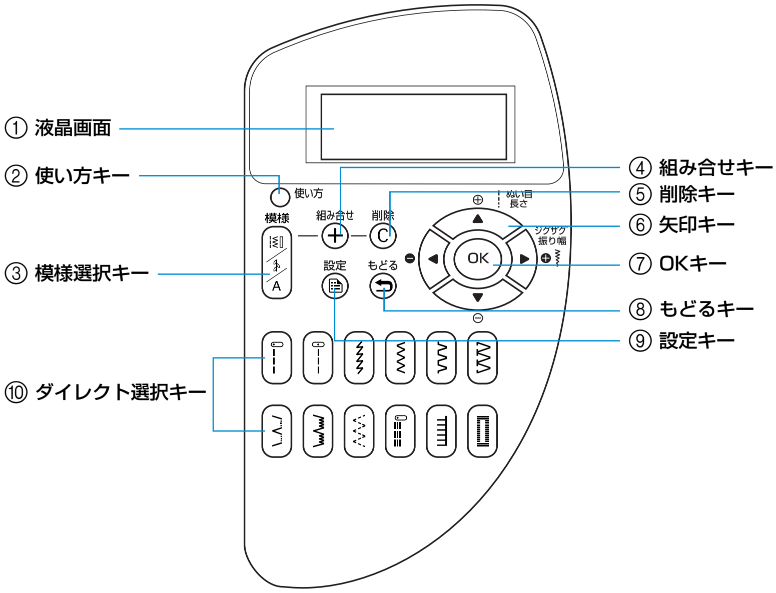
- **糸を切ったあとは、糸切り操作をくり返し行わないでください。針折れや糸がらみ、故障の原因となります。**

お願い

- 布地がない状態やミシンが動いているときは、糸切りスイッチを押さないでください。
- 30番以上の太い糸やナイロン糸など特殊な糸を切るときは、本体側面の糸切りを使用してください。詳細は「糸を切る」（→P.55）で説明します。

表示パネル

前面右側の表示パネルには、液晶画面とぬい方を設定するキーが付いています。



① 液晶画面

選択した模様の設定値や、間違えて操作したときのエラーメッセージなどが表示されます。以下の ② 〜 ⑨ のキーを使って項目を表示させたり設定したりします。詳細は「液晶画面の見方」（→P.16）で説明します。

② 使い方キー

使い方を確認するときに押します。上糸通し・下糸セット・下糸巻き・押え交換についての簡単な説明が表示されます。

③ 模様選択キー

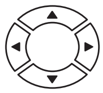
模様の種類を選択するときに押します。

④ 組み合せキー

文字や飾り模様を組み合わせてぬうときに、模様を追加します。

⑤ 削除キー

文字や飾り模様を組み合わせてぬうときに、追加した模様を削除します。

⑥ 矢印キー 

液晶画面に表示された項目を切り替えるときに、移動する方向のキーを押します。また、▼◀ は設定値を減らすとき、▲▶ は設定値を増やすときにも使用します。

⑦ OK キー

表示した項目を決定するときに押します。

⑧ もどるキー

液晶画面の表示を1つ前の表示にもどすときに押します。

⑨ 設定キー

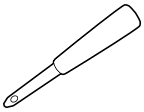
自動返しぬいなどのぬい方を設定したり、ブザー音の設定などをするときに押します。

⑩ ダイレクト選択キー

よく使う 12 の模様がキーで直接選択できます。詳細は「模様を選ぶ」（→P.69）で説明します。

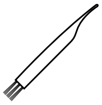
■ はとめ穴パンチ

はとめ穴をあけるときに使用します。（部品コード：135793-001）



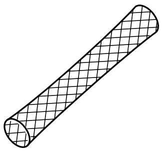
■ ミシンブラシ

釜などの細かい部分のほこりを取り除くときに使用します。（部品コード：X59476-051）



■ 糸こまネット

張りが強い糸をセットするときに使用します。（部品コード：XA5523-050）

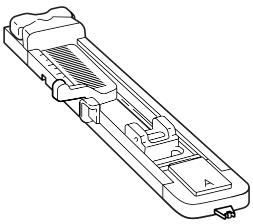


■ 押え（7 種）

ぬい方に合った押えが用意されています。押えには A・G・I・J・M・N・R の記号が記されています。

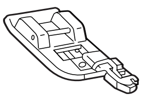
□ **ボタン穴かがり押え <A>**

（部品コード：XC2691-051）



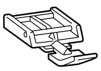
□ **たち目かがり押え <G>**

（部品コード：X51162-001）



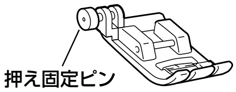
□ **片押え <I>**

（部品コード：X59370-051）



□ **ジグザグ押え <J>**

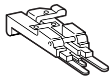
（部品コード：XC3021-051）



● 購入時は、押えホルダーに取り付けられています。

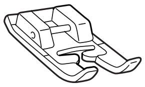
□ **ボタン付け押え <M>**

（部品コード：130489-001）



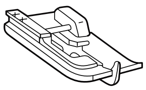
□ **模様ぬい押え <N>**

（部品コード：X53840-301）



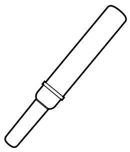
□ **まつりぬい押え <R>**

（部品コード：X56409-001）



■ リッパー

ぬい目をほどいたり、ボタン穴を切り開くときに使用します。（部品コード：X54243-001）



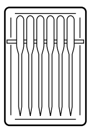
■ ボビン

下糸を巻いて使用します。本機専用のものが 4 個付属しています。そのうちの 1 個は、購入時に釜にセットされています。（部品コード：X80309-002 ［5 個セット］）



■ ミシン針（HA × 1）

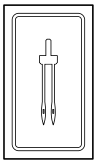
4 種類（計 6 本）の針が付属しています。糸の太さや布地によって使い分けます。
詳細は「針の種類と使い分け」（→P.36）で説明します。（部品コード：XC1096-051）



黄	#11（2本）
赤	#14（2本）
緑	#16（1本）
ニット用金	#11（1本）

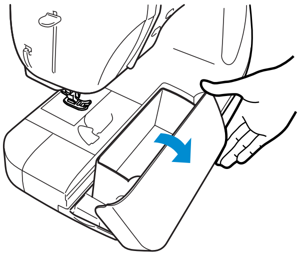
■ 2 本針

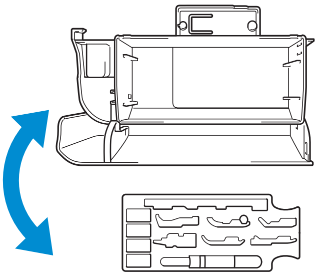
2色の糸を同時に使用して、平行に模様をぬうときに使用します。（部品コード：X59296-001）



■ トレイ

補助テーブルの中にセットし、押え、リッパー、ボビンを収納します。（部品コード：XC4489-051）

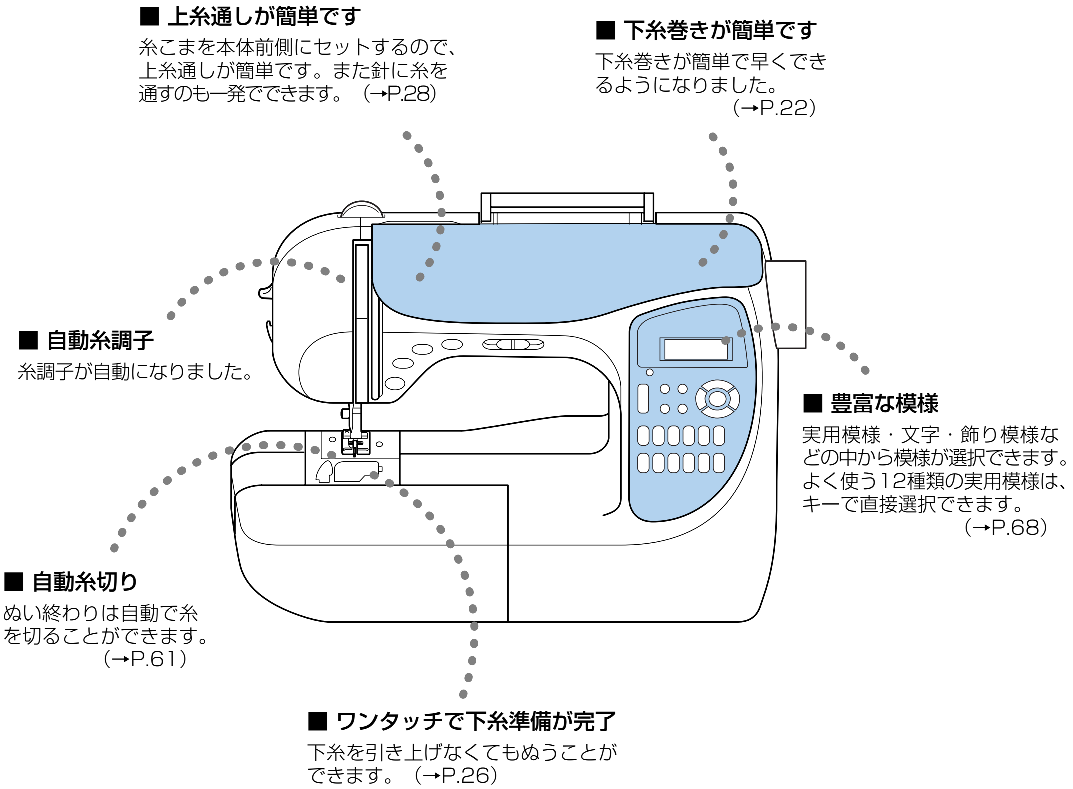




はじめに

このたびは、当社の製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」（→ P.7）をよくお読みいただき、この取扱説明書をご覧になり各機能の正しい使い方を十分にご理解の上、末永くご愛用ください。
また本書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

製品の特長



もくじ

安全にお使いいただくために

本書および本機で使われている表示や絵文字は、本機を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。

表示	意味
⚠ 警告	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	● この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

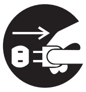
本書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。


特定しない禁止事項

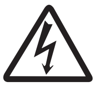

分解してはいけません


水に濡らしてはいけません


特定しない義務行為


電源プラグを抜いてください


特定しない危険通告


感電の危険があります


火災の危険があります


やけどの危険があります

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことがらを守ってください。

警告

● 一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



● 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。

- ミシンのそばを離れるとき
- ミシンを使用したあと
- 運転中に停電したとき
- 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
- 雷が鳴りはじめたとき



注意

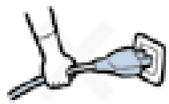
● 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。



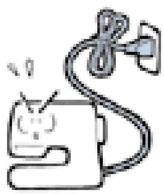
● 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



● 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。



● 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。



⚠ 注意

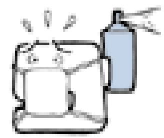
● 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。



● 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は０～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの皮膜が溶けて火災・感電の原因となります。



● スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。



● ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。



● ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から30cm以上離してお使いください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。



● ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



● 換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。



注意

● ミシン本体の重さは約8kgあります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。



● ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、ケガの原因となります。



● ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとケガ・故障の原因となります。



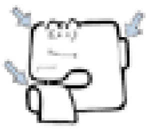
● お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・ケガの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご依頼ください。



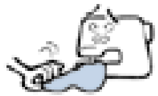
● 取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。



● ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。



● 縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。



● 針の下などに指を入れないでください。ケガをするおそれがあります。



● 上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。



注意

● 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。



● 万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



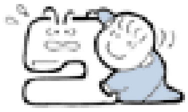
● 万一、煙が出ている、変な臭いがする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「ミシン119番」フリーダイヤル0120-340-233にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。



● ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。



● お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がケガをしないよう十分注意してください。



お願い

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
  This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
  職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 本書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 本書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

1 ぬう前の準備

ここでは、ぬう前に必要な準備を説明します。

電源を入れましょう

ミシンの電源を入れます。

電源に関する注意

電源について気をつけなければいけないことを説明します。

警告

- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
  - ミシンのそばを離れるとき
  - ミシンを使用したあと
  - 運転中に停電したとき
  - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
  - 雷が鳴りはじめたとき

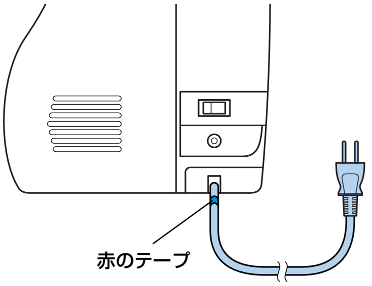
注意

- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お近くの販売店または「ミシン 119 番」フリーダイヤル 0120-340-233 にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源を入れる

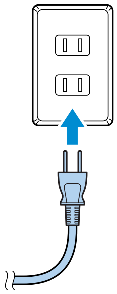
1 本体右側面から電源コードを引き出します。

電源プラグを持って引っ張ってください。

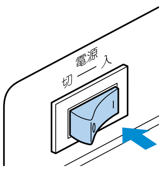


- 電源コードの端には、赤のテープが巻いてあります。この印が見えたら、電源コードをそれ以上引き出さないでください。

2 電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



3 本体右側面の電源スイッチの右側（ I 側）を押します。



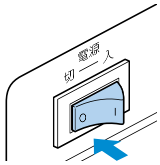
▷ 電源が入り、手もとランプと液晶画面が点灯します。

電源を切る

ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。

1 ミシンが止まっていることを確認します。

2 本体右側面の電源スイッチの左側（○側）を押します。



▷ 電源が切れ、ランプが消えます。

3 電源プラグをコンセントから抜きます。

電源プラグを持って抜いてください。

4 電源コードを 1 ～ 5cm ほど引いてから手を離します。

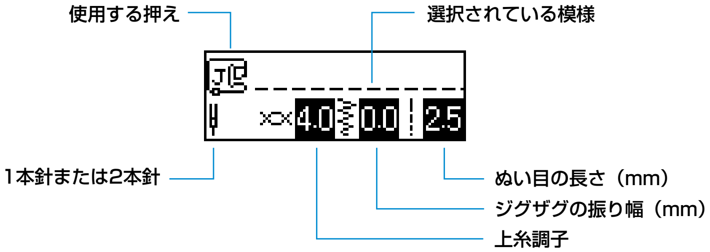
▷ 電源コードが本体に収納されます。

お願い

- 電源を切ると、模様の設定は消去されます。
- 運転中に停電が発生したときは、電源スイッチを切ってから電源プラグを抜いてください。再度ミシンを動かす場合は、手順に従って正しく操作してください。

液晶画面の見方

本体前面右側の液晶画面には、選択した模様の設定値や、まちがえて操作したときのエラーメッセージなどが表示されます。
電源を入れると液晶画面が点灯し、次の画面が表示されます。



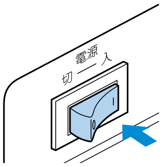
お知らせ

- 操作をまちがえたときに表示されるメッセージについては、「エラーメッセージ」（→P.136）を参照してください。

ミシンの使い方を調べるとき

押え交換・上糸通し・下糸巻き・下糸セットの簡単な説明を、液晶画面に表示することができます。

1 電源を入れます。

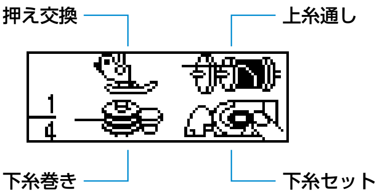


▷ 液晶画面が点灯します。

2 表示パネルの使い方キーを押します。

▷ ミシンの使い方画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶（矢印キー）を押して、表示する項目を反転表示させせます。



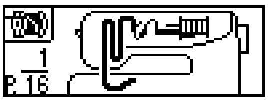
4 (OK)（OK キー）を押します。

▷ 選択した項目の最初の説明画面が表示されます。

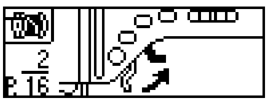
5 ▼ を押して次の画面に切り替えます。

▲ を押すと前の画面にもどります。

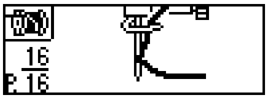
［例］上糸通し



▲ ▼



⋮



6 見終わったら、(OK)（OK キー）を押します。

▷ 最初の画面にもどります。

お願い

● 各項目の詳しい説明は、本書のそれぞれのページを参照してください。

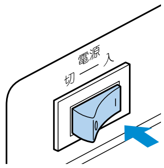
ミシンの設定を変更する

ミシンの動作やぬい方の設定ができます。

設定の変え方

設定を変更するときの基本的な操作を説明します。

1 電源を入れます。

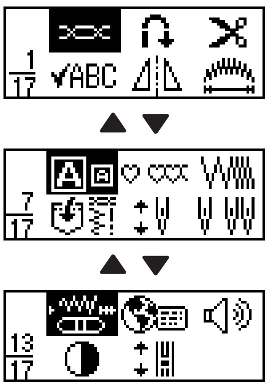


▶ 液晶画面が点灯します。

2 表示パネルの （設定キー）を押します。

▶ 設定画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ （矢印キー）を押し、設定する項目を反転表示させます。



4 OK （OK キー）を押します。

▶ 選択した項目の設定画面が表示されます。

5 ▲▼◀▶ （矢印キー）を押して、設定を変更します。

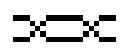
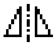
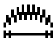
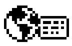
▶ 設定が変更されます。

6 OK （OK キー）を押します。

▶ 最初の画面にもどります。

■ 設定項目一覧

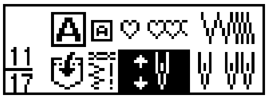
設定できる内容を紹介します。各項目の詳細は、それぞれのページを参照してください。

機能	表示	内容	参照ページ
糸調子		糸調子を調節します。	P.56
自動止めぬい		自動止めぬいを設定します。	P.60
自動糸切り		プログラム糸切りを設定します。	P.61
確認		組み合わせた模様を確認します。	P.115
左右反転		模様の左右を反転します。	P.119
模様の長さ		サテンステッチの長さを変更します。	P.118
大きさ		模様の大きさの大・小を切り替えます。	P.116
連続／単独ぬい		模様を1回だけぬうか、連続してくり返しぬうか設定します。	P.114
模様の密度		模様の密度を変更します。	P.117
設定記憶		調節した模様の糸調子・幅・長さの値を登録しておくことができます。	P.63
針位置		ミシンを止めたときの針の停止位置を変更します。	P.20
2本針		2本針の設定をします。	P.32
振り幅コントロール		スピードコントロールレバーでジグザグの振り幅を変更できるように設定します。	P.95
言語		液晶画面に表示する言語を切り替えます。	P.21
ブザー		操作音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。	P.138
画面の調整		画面の明るさを調節します。	P.20
模様調整縦		模様の前後方向の補正をします。	P.121

針停止位置の変更

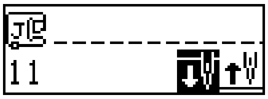
購入時は、ミシンを止めたときに針が布地に刺さった状態で止まるように設定されています。針が上がった状態でミシンが止まるように、設定を変更することができます。

1 表示パネルの （設定キー）を押し、▲▼◀▶（矢印キー）を押して を反転表示させます。

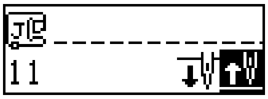


2 （OK キー）を押します。

▷ 針位置を変更する画面が表示されます。



3 ▶ を押して を反転表示させます。
◀ を押すと、 にもどります。



▷ 針が上で止まるように設定されます。

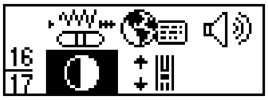
4 （OK キー）を押します。

▷ 最初の画面にもどります。

画面の明るさを調節する

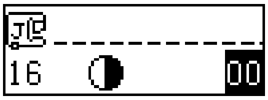
液晶画面の明るさを調節します。

1 表示パネルの （設定キー）を押し、▲▼◀▶（矢印キー）を押して を反転表示させます。

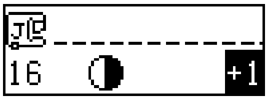


2 （OK キー）を押します。

▷ 明るさを設定する画面が表示されます。



3 明るくするときは ◀（−）、暗くするときは ▶（+）を押します。



▷ 画面の明るさが変わります。

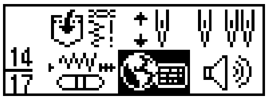
4 （OK キー）を押します。

▷ 最初の画面にもどります。

表示言語を切り替えるとき

液晶画面に表示する言語を切り替えることができます。購入時は、日本語に設定されています。

1 **表示パネルの（設定キー）を押し、▲▼◀▶（矢印キー）を押して を反転表示させます。**

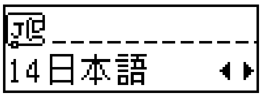


2 **（OK キー）を押します。**

▷ 言語を選択する画面が表示されます。

3 **◀ または ▶ を押して、使用する言語を表示します。**

日本語／英語／ドイツ語／フランス語／イタリア語／オランダ語／スペイン語／デンマーク語／ノルウェー語／スウェーデン語／フィンランド語／ポルトガル語／ロシア語／韓国語／その他から選択できます。



▷ 表示言語が設定されます。

4 **（OK キー）を押します。**

▷ 最初の画面にもどります。

下糸をセットしましょう

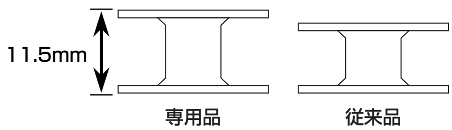
下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

ボビンに関する注意

ボビンに関して気をつけなければいけないことを説明します。

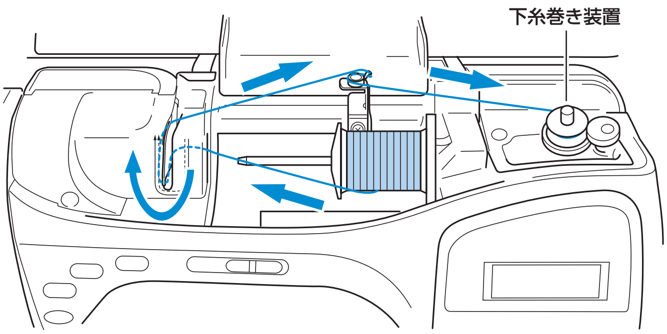
注意

- **必ず専用ボビン（部品コード：X80309-002）を使用してください。他のボビンを使用すると、ケガ・故障の原因となります。**
- **付属のボビンは本機専用のものです。従来品を使用すると、正しく動作しません。必ず付属品、または専用ボビン（部品コード：X80309-002）を使用してください。**



下糸を巻く

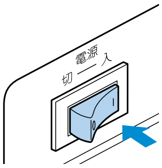
下糸用の糸をボビンに巻きます。糸とボビンを用意してください。



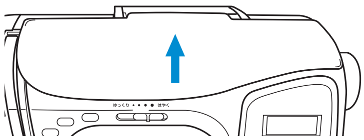
お知らせ

- 下糸を巻くときの糸を通す順番が、本体に点線で示されています。そちらもあわせて見てください。

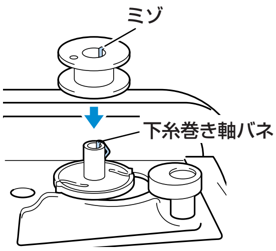
1 **電源を入れます。**



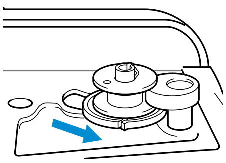
2 **上ふたを上に開けます。**



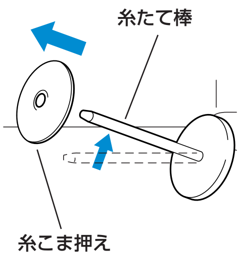
3 **ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせて、ボビンを軸に差し込みます。**



4 **軸にセットしたボビンを右側に押します。**

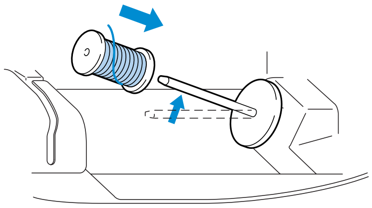


5 **糸たて棒に差し込んである糸こま押えを抜きます。**



6 **下糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。**

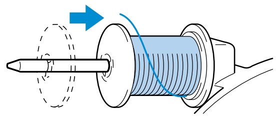
糸こまを横にして、下側から手前に糸が出る向きにして差し込みます。



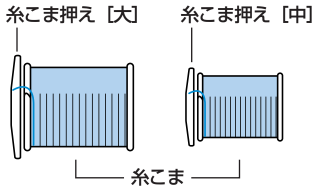
● 正しい向きにセットしないと、糸たて棒に糸がからまることがあります。

7 **糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。**

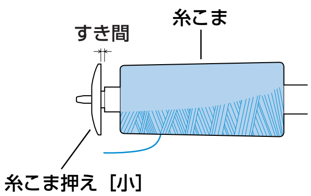
糸こま押えは、丸みをおびている面を左側にして、糸こまが糸たて棒の右端までいくように右いっぱいまで差し込みます。



● 糸こま押えは［大］［中］［小］の３種付属しています。糸こまの直径より大きい糸こま押えを使用してください。購入時は、糸たて棒に糸こま押え［中］がセットされています。

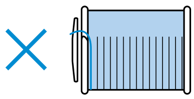


● 綾巻き（チーズ巻き）の糸こまを使用するときは、糸こま押え［小］を使用し、糸こまから少し離してセットします。

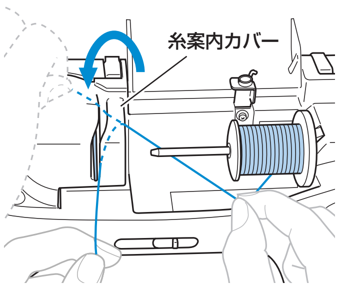


注意

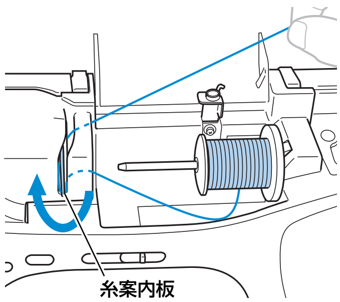
- 糸こまの向きや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- 糸こま押え［大］［中］［小］は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。



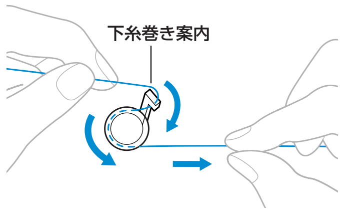
8 糸こまを右手で押さえながら左手で糸を引き出し、糸案内カバーの後ろ側から手前に糸をかけます。

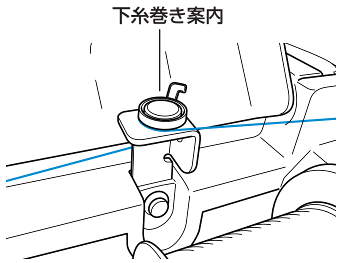


9 糸案内板の右側から下を通して糸をかけます。

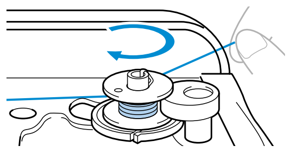


10 糸を右に引いて下糸巻き案内の凸部に向こう側から糸をかけ、皿の間に左回りに糸をかけます。

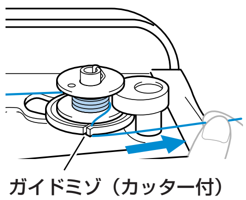




11 下糸巻き案内にかけた糸を左手で押さえ、引き出した糸を右手でボビンに時計回りに４～５回巻き付けます。



12 糸の端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて、右に引きます。

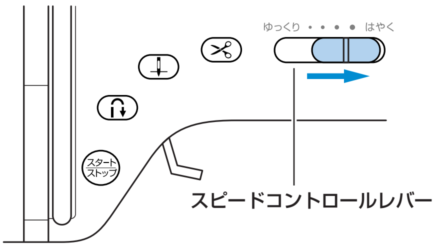


▶ 糸が適切な長さで切れます。

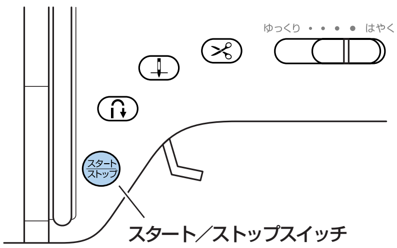
注意

● 必ず前ページの方法で糸を切ってください。ガイドミゾのカッターで糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

13 スピードコントロールレバーを右（はやく）に動かします。



14 （スタート／ストップスイッチ）を1 回押します。



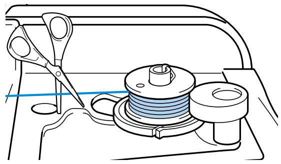
▶ ボビンが回転し、下糸巻きがスタートします。

▶ 巻き終わると、ボビンの回転が止まります。

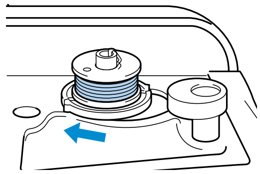
15 （スタート／ストップスイッチ）を1 回押します。

▶ ミシンがストップします。

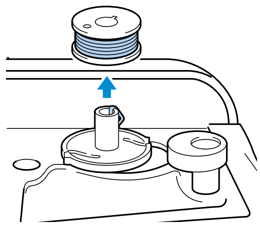
16 巻き終わりの糸をはさみで切ります。



17 下糸巻き軸を左にもどします。



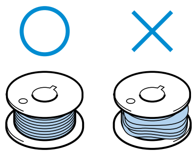
18 ボビンを軸から外します。



19 スピードコントロールレバーをもとの位置にもどします。

注意

● 下糸は正しく巻かれたものを使用してください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



お知らせ

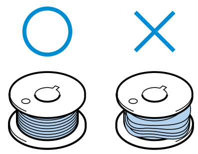
● 下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたりプーリーを回すと、「ガチャ」という音がすることがありますが、故障ではありません。

下糸をセットする

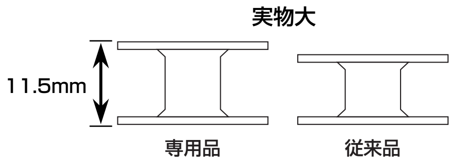
下糸を巻いたボビンを釜にセットします。

⚠ 注意

- 下糸は正しく巻かれたものを使用してください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



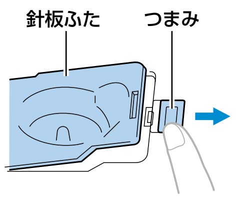
- 付属のボビンは本機専用のものです。従来品を使用すると、正しく動作しません。必ず付属品、または専用ボビン（部品コード：X80309-002）を使用してください。



お知らせ

- ボビンをセットする方向が、釜周辺に刻印されています。そちらもあわせて見てください。

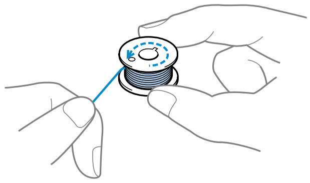
1 針板ふたの右側にあるつまみを右に動かします。



▶ 針板ふたが開きます。

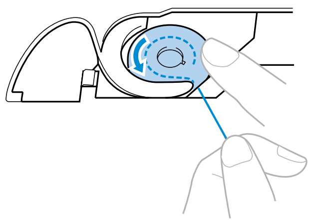
2 針板ふたを取り外します。

3 右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。



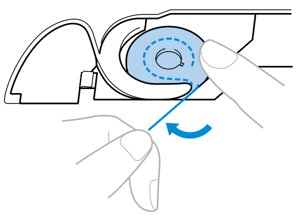
- ボビンを落とさないように注意してください。

4 糸が左巻きになるようにして、右手でボビンを釜に入れます。

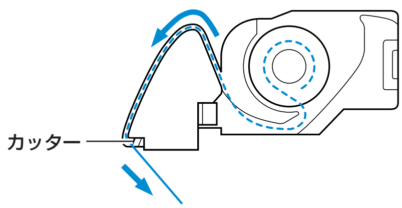


- 糸の方向に注意してください。

5 右手でボビンを軽く押さえ、左手で糸を図のように引っかけます。



6 図のようにミゾにそって糸を通し、手前に引きます。



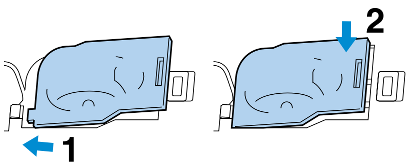
▶ カッターで糸が切れます。

注意

● ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

7 針板ふたをもとにもどします。

針板ふたの左下の部分を本体に差し込んでから、右側を上から押します。



▶ 下糸のセットが完了します。

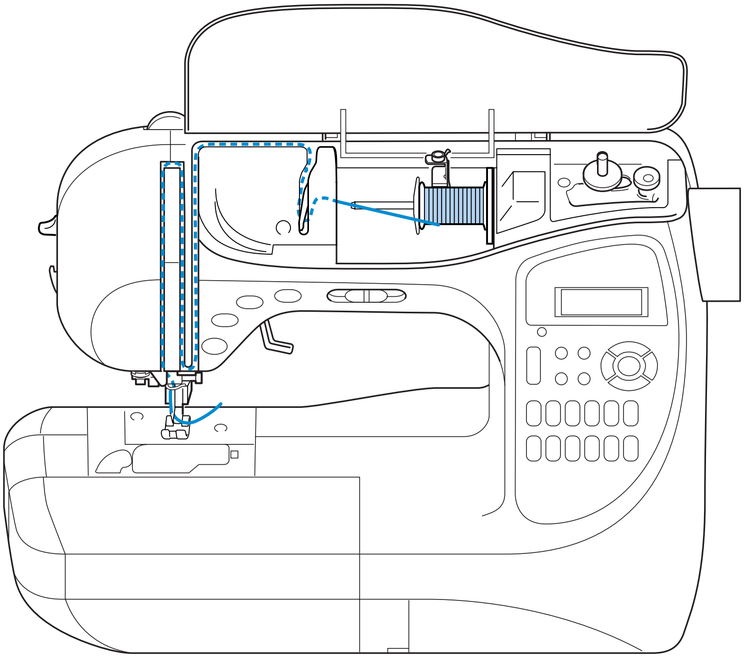
次に上糸を通します。「上糸を通しましょう」（→次ページ）に進みます。

お知らせ

● 下糸は引き出さずに、このままぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、上糸を通してから「下糸を引き出してからぬうとき」（→ P.35）を参照してください。

上糸を通しましょう

上糸用の糸をセットし、針に糸を通します。



⚠ 注意

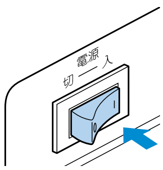
● 上糸通しは指示に従って、正しく行ってください。糸が正しく通されていない場合、糸がからんで針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

お知らせ

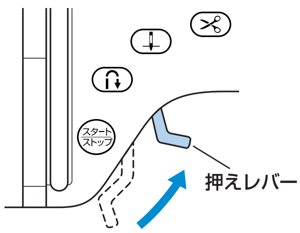
● 上糸を通す順番が、本体に実線（—）で示されています。そちらもあわせて見てください。

上糸を通す

1 電源を入れます。



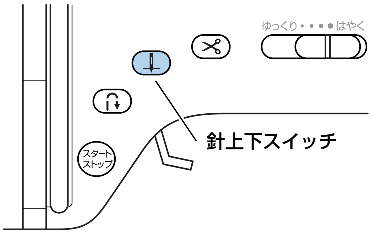
2 押えレバーを上げます。



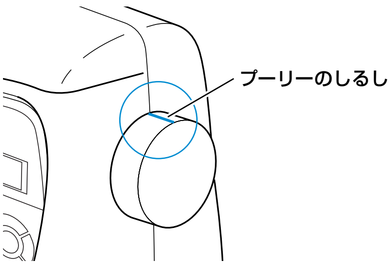
▶ 押えが上がります。

● 押えが下がっていると、上糸を通すことができません。

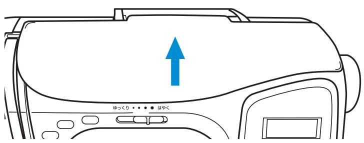
3 （針上下スイッチ）を１回または２回押して、針を上に上げます。



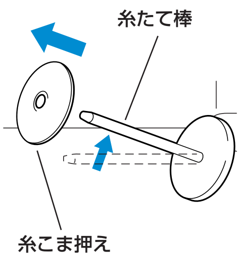
● 針が正しく上に上がっていない場合、上糸を通すことができません。プーリーのしるしが下図のように上にきている状態が、正しい位置です。この位置にきていないときは、必ず針上下スイッチで針を上に上げてから、以降の操作をしてください。



4 上ふたを上に開けます。

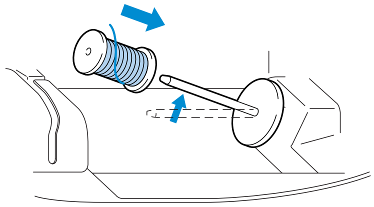


5 糸たて棒に差し込んである糸こま押えを抜きます。



6 上糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。

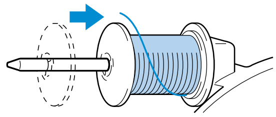
糸こまを横にして、下側から手前に糸が出る向きにして差し込みます。



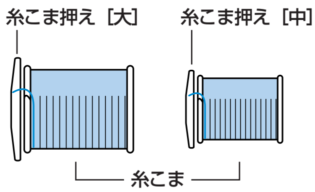
● 正しい向きにセットしないと、糸たて棒に糸がからまることがあります。

7 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

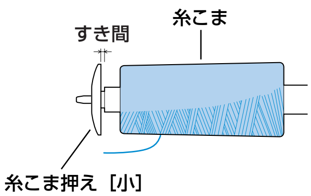
糸こま押えは、丸みをおびている面を左側にして、糸こまが糸たて棒の右端までいくように右いっぱいまで差し込みます。



● 糸こま押えは［大］［中］［小］の３種付属しています。糸こまの直径より大きい糸こま押えを使用してください。購入時は、糸たて棒に糸こま押え［中］がセットされています。

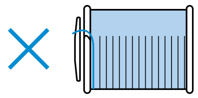


● 綾巻き（チーズ巻き）の糸こまを使用するときは、糸こま押え［小］を使用し、糸こまから少し離してセットします。

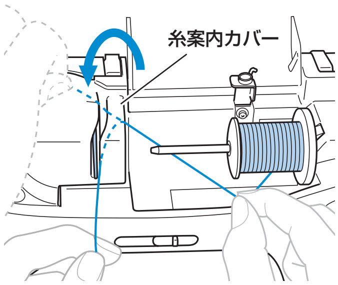


注意

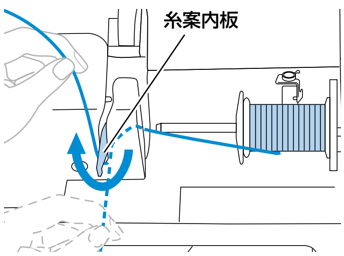
- 糸こまの向きや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- 糸こま押え［大］［中］［小］は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。



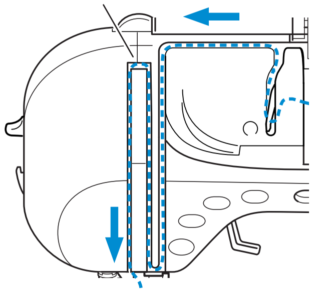
8 糸こまを右手で押さえながら左手で糸を引き出し、糸案内カバーの後ろから手前に糸をかけます。



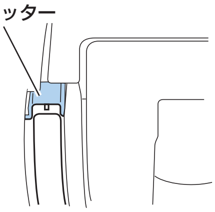
9 糸案内板の右側から下を通して糸をかけます。



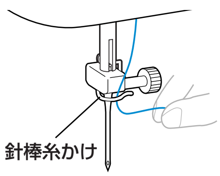
10 糸案内板に引っかけた糸を右手で押さえ、ミゾにそって上→左→下→上→下の順に糸を通します。



このとき押えが下がっていると図のシャッターが閉まった状態になるため、上糸を通すことができません。必ず押えを上げてシャッターが開いている状態で上糸を通してください。



11 針の根もとにある針棒糸かけに糸をかけます。

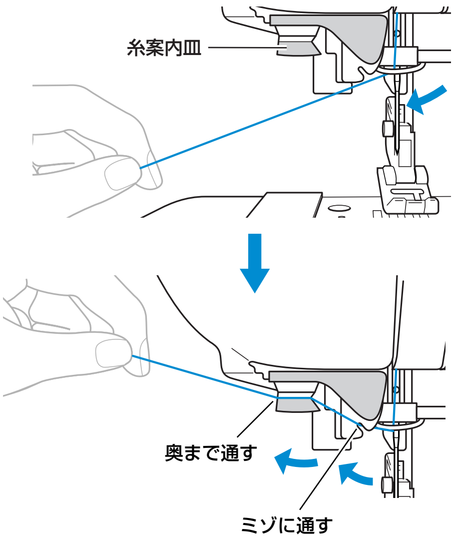


このあと、糸通し装置を使って糸を針に通します。「針に糸を通す」（→次ページ）に進みます。

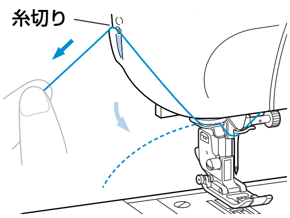
針に糸を通す

糸通し装置は 11 ～ 16 番のミシン針を使うときに使用できます。針についての詳細は「針の種類と使い分け」（→ P.36）で説明します。

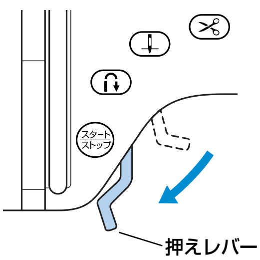
1 針棒糸かけにかけた糸の端を左に引き、糸案内皿の間に前から糸を通します。



2 本体左側面の糸切りに糸を引っかけて切ります。

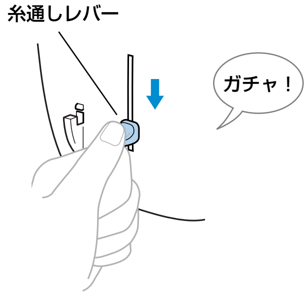


3 押えレバーを下げます。



▶ 押えが下がります。

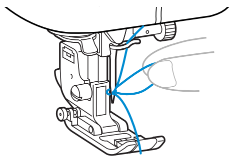
4 本体左側面の糸通しレバーを「ガチャ」と音がするまで下げます。



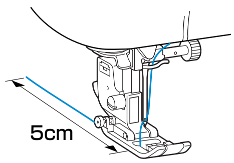
▶ 糸が針穴に通ります。

5 糸通しレバーから手を離します。

6 通った糸の輪の部分をゆっくりと引き、糸の端を引き出します。



7 押えレバーを上げ、糸の端を押えの間に通して後ろ側に5cmほど引き出します。



▶ 上糸のセットが完了します。

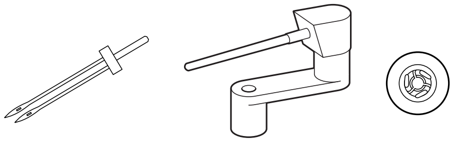
これで下糸と上糸の準備ができました。

お願い

- 針が正しく上に上がっていないと、糸通し装置で糸を通すことができません。必ず針上下スイッチで針を上に上げてから操作してください。
- 2本針が取り付けてあるときは、糸通し装置は使用できません。「2本針を使うとき」（→次ページ）を参照してください。

２本針を使うとき

２本針を使用すると、上糸を２色セットして模様を平行してぬうことができます。２色の上糸は、同質で太さが同じものを使用します。付属の２本針と補助糸たて棒、糸こま押えを用意します。
２本針が使用できる模様については、「模様設定一覧」（→ P.124）を参照してください。



⚠ 注意

- 2本針は、必ずブラザー専用2本針（部品コード：X59296-001）をご使用ください。その他の針を使用すると針折れや故障の原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

1 ２本針を取り付けます。

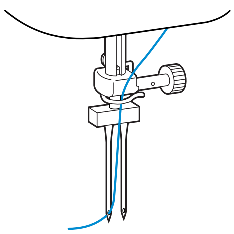
- 針の取り付け方は、「針を交換する」（→ P.37）で説明します。

2 模様の左側の上糸を通します。

- 「上糸を通す」（→ P.28）を参照してください。

3 ２本針の左の穴に、手で糸を通します。

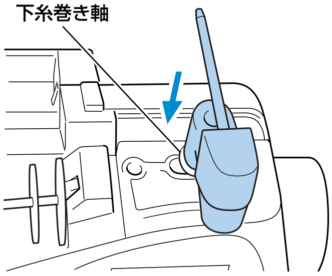
手前から向こう側に通します。



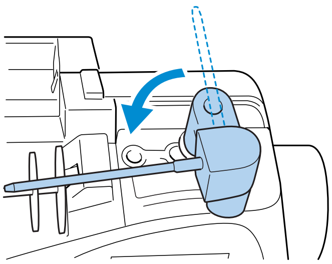
- 糸通し装置は使用できません。2本針が取り付けられているときに糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。

4 下糸巻き軸に補助糸たて棒を差し込みます。

下糸巻き軸に対して垂直になるように差し込みます。

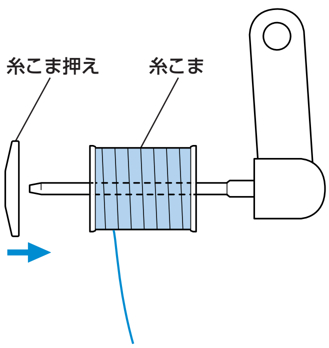


5 糸たて棒を真横に倒します。

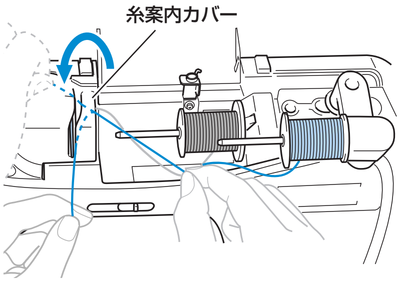


6 模様の右側の上糸の糸こまと糸こま押えを補助糸たて棒に差し込みます。

糸こまの下側から手前に糸が出る向きにします。

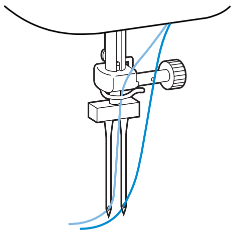


7 **左側の上糸と同様に上糸を通します。**



8 **針棒糸かけに糸をかけずに、2 本針の右の穴に、手で糸を通します。**

手前から向こう側に通します。



- 糸通し装置は使用できません。2本針が取り付けられているときに糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。

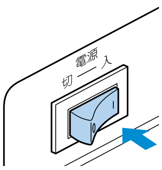
9 **ジグザグ押え <J> を取り付けます。**

- 押えの交換の仕方は、「押えを交換する」（→ P.39）で説明します。

注意

- **2 本針を使用するときは、必ずジグザグ押え <J> を使用しください。針折れや故障の原因となります。**

10 **電源を入れます。**

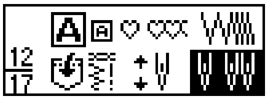


▶ 液晶画面が点灯します。

11 **表示パネルの （設定キー）を押します。**

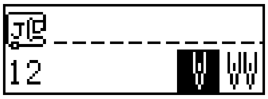
▶ 設定画面が表示されます。

12 **▲▼◀▶（矢印キー）を押して、 を反転表示させます。**



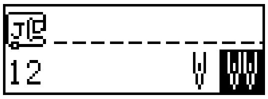
13 **（OK キー）を押します。**

▶ 2 本針の設定をする画面が表示されます。



14 **▶ を押して を反転表示させます。**

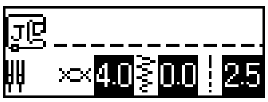
◀ を押すと、 にもどります。



▶ 2 本針が使えるようになります。

15 **（OK キー）を押します。**

▶ 最初の画面にもどり、画面左に が表示されます。



- 電源を切っても、2本針の設定は解除されません。

注意

- **2本針を使用するときは、必ず2 本針の設定をしてください。設定を行わずに使用すると、針折れや故障の原因となります。**

16 模様を選択します。

- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」（→P.68）で説明します。
- 2本針が使える模様については、「模様設定一覧」（→P.124）を参照してください。

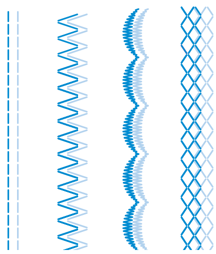
注意

- **2本針を使用するときは、必ず正しい模様を選択してください。2本針が使用できない模様を使用すると、針折れや故障の原因となります。**

17 ミシンをスタートさせます。

- ミシンのスタートの手順は、「ミシンをスタートさせる」（→P.51）で説明します。

▷ 模様が平行してぬわれます。



お願い

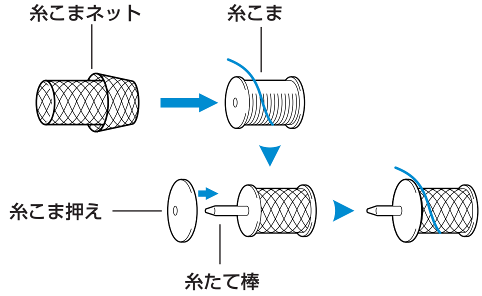
- ぬう方向を変えるときは、（針上下スイッチ）を押して針を布地から抜いてから押えを上げ、布地を回転させます。

注意

- **布地に 2 本針が刺さったまま布地を回転させると、針折れや故障の原因となります。**

張りが強い糸を使うとき

ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットします。
ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。



下糸を引き出してからぬうとき

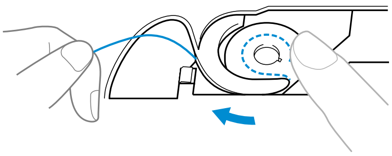
ギャザーやフリーモーションキルトをぬう場合など、あらかじめ下糸を引き出しておくときは、以下の操作を行います。

1 ボビンを釜に入れます。

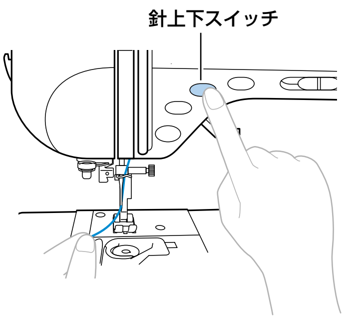
● 「下糸をセットする」の ❶ ～ ❺ （→ P.26）を参照してください。

2 引き出した糸をミゾにそって通します。

このとき、カッターで糸を切らないでください。

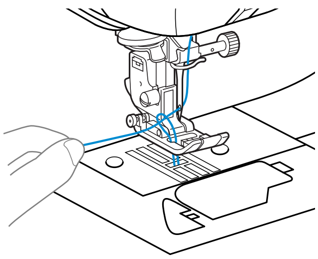


3 左手で上糸を軽く持ち、（針上下スイッチ）を2回押して針を上に上げます。

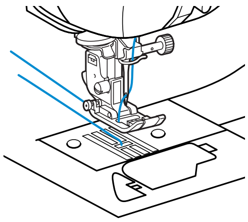


▶ 下糸が針穴から輪になって引き出されます。

4 上糸をゆっくりと上に引き、下糸を引き出します。

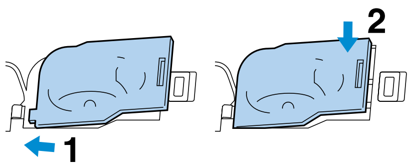


5 下糸を5cmほど引き出し、上糸とそろえて押えの下を通します。



6 針板ふたをもとにもどします。

針板ふたの左下の部分を本体に差し込んでから、右側を上から押します。



針を交換するには

ここでは、ミシン針について説明します。

針に関する注意

針を取り扱うときの注意を説明します。以下の注意を守らないと、針が折れて飛び散るなど非常に危険です。よく読んで必ず守ってください。

注意

- **針は必ず家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。その他の針を使用すると、針折れや故障の原因となります。**
- **曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。**

針の種類と使い分け

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。次の表を参考にして、布地に合った糸と針を選んでください。

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の種類
		種類	太さ	
普通地	ブロード	カタン糸	60～80	11～14
	タフタ	合繊糸		
	フラノ ギャバジン	絹糸	50～80	
薄地	ローン	カタン糸	60～80	9～11
	ジョーゼット	合繊糸		
	ポーラ	絹糸	50～80	
厚地	デニム	カタン糸	30～50	14～16
	コーデュロイ	合繊糸	50	
	ツィード	絹糸		
のびる布地	ジャージ	ニット用糸	50～60	ゴールデン針 11～14
	トリコット			
ほつれやすい布地		カタン糸	50～80	9～14
		合繊糸		
		絹糸		
ステッチ糸の場合		合繊糸	30	14～16
		絹糸		

お知らせ

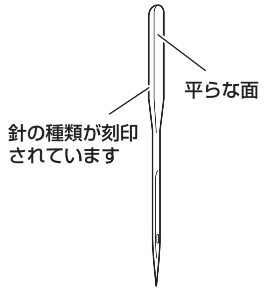
- 糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ゴールデン針は伸縮性のある布地や目がとびやすい布地に使用します。
- ナイロン透明糸は、布地や糸にかかわらず14～16番の針を使用してください。
- 購入時は、11番の針がミシンに取り付けられています。

注意

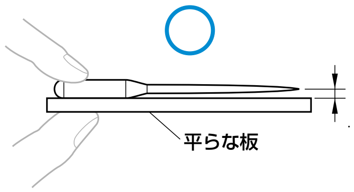
- **布地と糸と針の組み合わせは、左記の表に従ってください。組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地（デニム等）を細い針（9～11番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。また、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因にもなります。**

正しい針の見分け方

針が曲がった状態で使用すると、途中で折れてしまうことがあり非常に危険です。
使用する前に、針の平らな面を平らな板に合わせ、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。

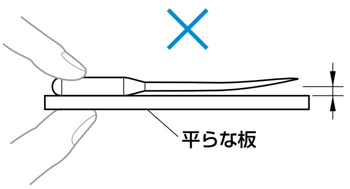


■ **良い針**



■ **悪い針**

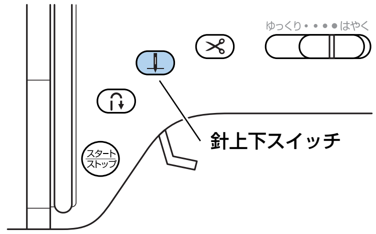
すき間が平行でない場合は、針が曲がっています。その針は使用しないでください。



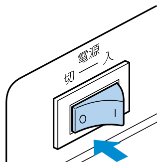
針を交換する

針を交換します。「正しい針の見分け方」で確認した良い針と、付属のドライバーを用意してください。

1 （針上下スイッチ）を１回または２回押し、針を上に上げます。



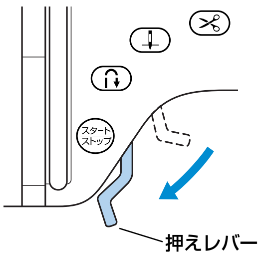
2 電源を切ります。



注意

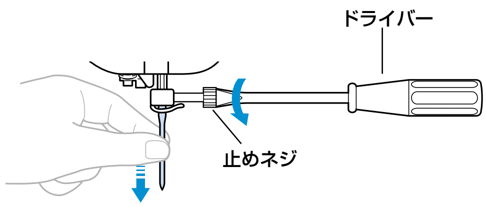
● 針の交換は、必ず電源スイッチを切って行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

3 押えレバーを下げます。

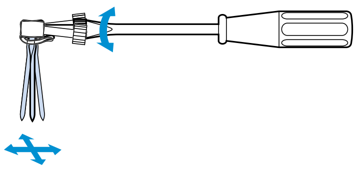


4 針の止めネジをゆるめ、針を抜きます。

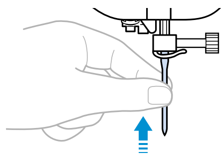
左手で針を持ちながら、右手でドライバーを手前に回します。



● 止めネジをゆるめたりしめたりするときに、無理な力を加えないようにしてください。故障の原因となります。

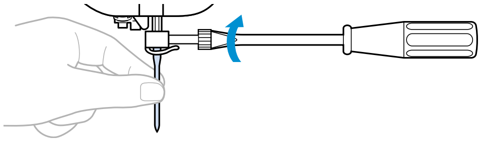


5 新しい針の平らな面を後ろ側に向けて、針棒のストッパーにあたるまで差し込みます。

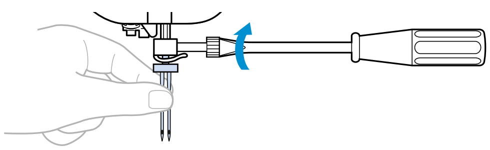


6 針を左手で押さえたまま、止めネジをしめます。

ドライバーを奥側に回します。



2 本針を取り付ける場合も同様に行います。



注意

● 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、止めネジを付属のドライバーで確実にしめてください。針が十分に差し込まれていなかったり、ネジのしめ方がゆるいと、針折れや故障の原因となります。

押えを交換するには

押えとは、布が浮かないように押さえる部品のことをいいます。

押えに関する注意

押えについて気をつけなければいけないことを説明します。

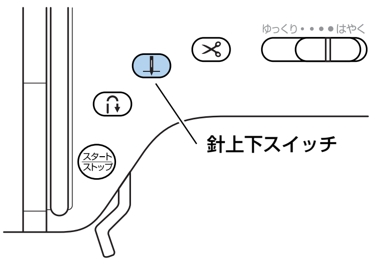
注意

- **模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。**
- **押えは必ず本機専用の押えを使用してください。その他の押えを使用すると、ケガ・故障の原因となります。**

押えを交換する

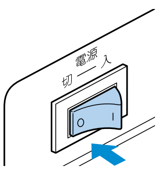
押えの取り外し方と取り付け方を説明します。
別売のサイドカッター押え <S> の取り付け方は、「サイドカッター押えを使ったたち目かがり」（→ P.73）を参照してください。

1 （針上下スイッチ）を１回または２回押し、針を上に上げます。



▶ 針が上に上がります。

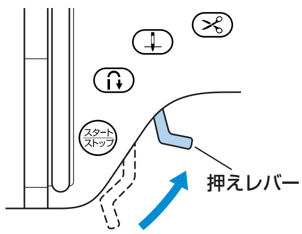
2 電源を切ります。



注意

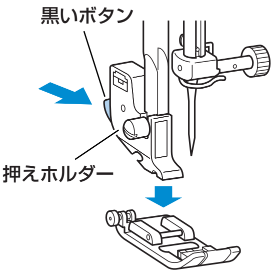
- **押えの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。**

3 押えレバーを上げます。



▶ 押えが上がります。

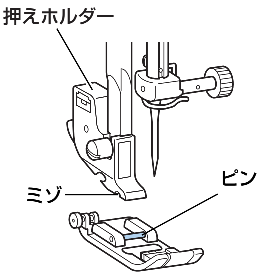
4 **押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。**



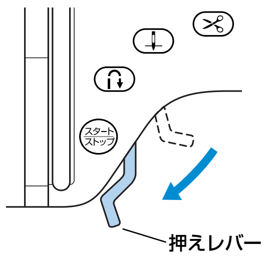
▶ 押えが押えホルダーから外れます。

5 **取り付ける押えのピンの部分と押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。**

押えに記されているA・G・I・J・M・N・Rの押え記号が読める向きに置きます。

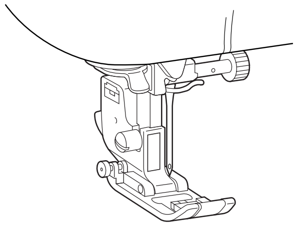


6 **押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。**



▶ 押えが取り付けられます。

7 **押えレバーを上げて、押えが取り付けられていることを確認します。**



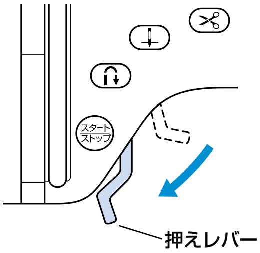
お願い

- 模様を選ぶと、使用する押えが液晶画面に表示されます。取り付けた押えと合っているか確認してから、ぬい始めてください。もし取り付けた押えがまちがっていた場合は、いったん電源を切ってから正しい押えを取り付け、再度模様を選び直してください。
  - ボタン穴かがり押え <A>
  - たち目かがり押え <G>
  - ジグザグ押え <J>
  - ボタン付け押え <M>
  - 模様ぬい押え <N>
  - まつりぬい押え <R>
  - サイドカッター押え <S>
- 模様と押えの組み合わせは、「模様設定一覧」(→P.124)を参照してください。

押えの圧力を調節する

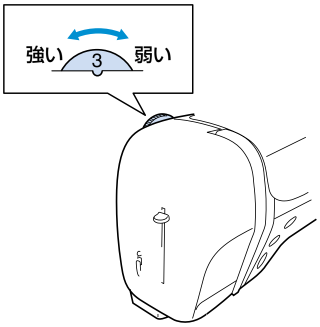
押えが布地を押さえる強さを調節できます。

1 押えレバーを下げます。



2 本体背面の押え圧ダイヤルを回します。

ダイヤルの目盛りは１（弱い）～４（強い）まであります。右に回す（数字が小さくなる）と弱くなり、左に回す（数字が大きくなる）と強くなります。



3 ぬい終わったら、３（標準）にもどしておきます。

押えホルダーを外すとき

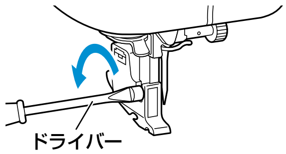
お手入れをするときやキルト押えなどを取り付けるときは、押えホルダーを外します。付属のドライバーを用意します。

■ 押えホルダーを外す

1 押えを外します。

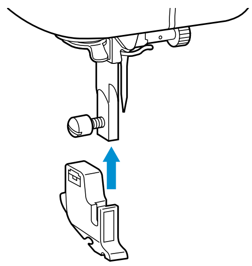
- 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

2 ドライバーを奥側に回して押えホルダーのネジをゆるめます。

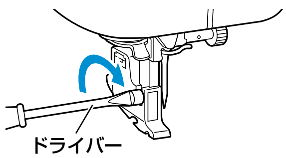


■ 押えホルダーを取り付ける

1 押えホルダーを押え棒の左側と下側に合わせます。



2 押えホルダーを右手で押さえ、左手でドライバーを手前に回してネジをしめます。

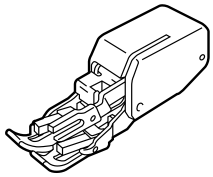


お願い

- 押えホルダーが正しく取り付けられていないと、正しい糸調子にならないことがあります。

ウォーキングフットを使用するとき

別売のウォーキングフットは、送り歯と押えに付いている歯ではさみ込みながら布地を送ります。ビニールや皮などのすべりにくい布地や、キルティングやベルベットなどのぬいずれしやすい布地をぬうときに使用します。
別売のウォーキングフットと付属のドライバーを用意します。

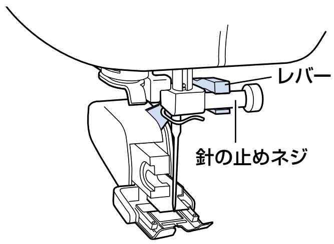


■ ウォーキングフットを取り付ける

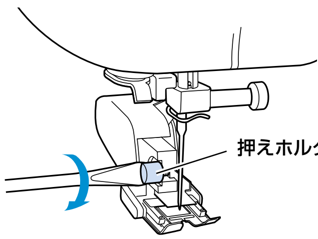
1 押えホルダーを外します。

- 「押えホルダーを外すとき」（→前ページ）を参照してください。

2 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針の止めネジをはさみます。



3 押えレバーを下げ、押えホルダーのネジを差し込んで、ドライバーでしめます。



⚠ 注意

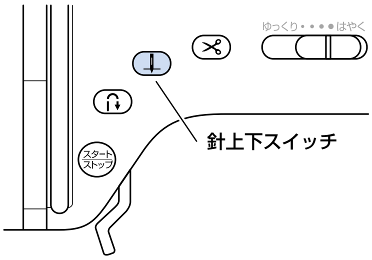
- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

お願い

- ウォーキングフットを使用してぬうときは、速さをゆっくり～中速にしてぬってください。

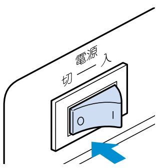
■ ウォーキングフットを外す

1 （針上下スイッチ）を１回または２回押し、針を上に上げます。

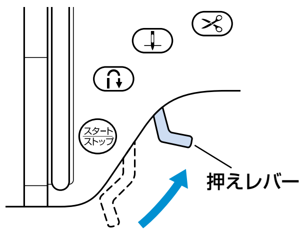


▷ 針が上に上がります。

2 電源を切ります。

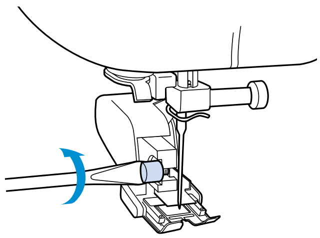


3 押えレバーを上げます。



▷ 押えが上がります。

4 ドライバーでネジをゆるめ、ウォーキングフットを外します。



5 押えホルダーを取り付けます。

- 「押えホルダーを外すとき」（→P.41）を参照してください。

お知らせ

- ウォーキングフットが使用できる模様は、止めぬい用の直線とジグザグのみです。「模様設定一覧」（→P.124）を参照してください。

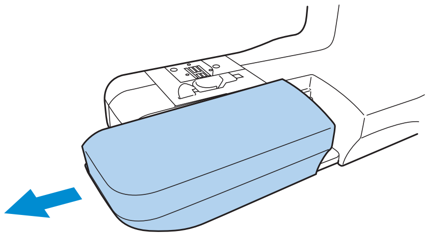
筒ものや大きいものをぬうとき

筒ものや大きいものをぬうときは、補助テーブルを外します。

筒ものをぬうとき

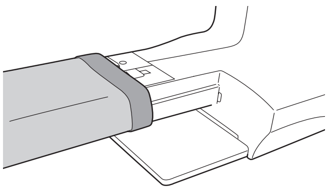
そで口やズボンのすそなどの筒状になっているところをぬうときは、フリーアームにすると便利です。

1 補助テーブルを左に引きます。



▷ 補助テーブルが外れてフリーアームの状態になります。

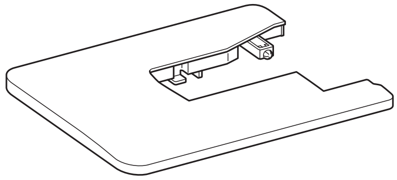
2 ぬうところをアーム部分に通して外側からぬいます。



3 フリーアームを使い終わったら、補助テーブルをもとにもどします。

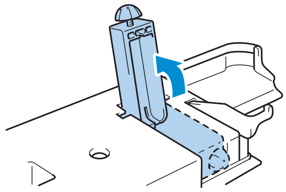
大きいものをぬうとき

大きいものをぬうときは、別売のワイドテーブルを使用すると作業がしやすくなります。

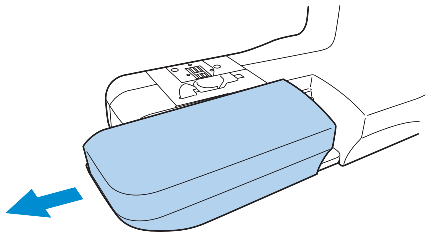


1 ワイドテーブル裏面の脚を立てます。

４本の脚を「カチッ」と音がするまで引き上げます。



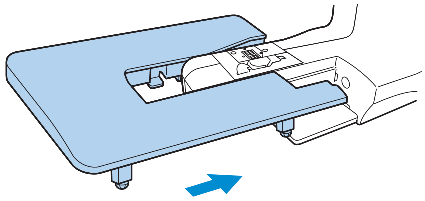
2 補助テーブルを左に引きます。



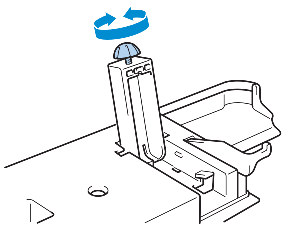
▷ 補助テーブルが外れてフリーアームの状態になります。

❸ ワイドテーブルを取り付けます。

水平にして、奥まではめます。



❹ 脚の下についているネジを回して高さを調節します。

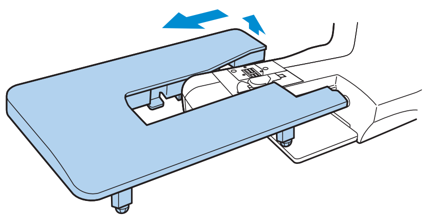


⚠ 注意

● ワイドテーブルを取り付けたままミシンを移動しないでください。破損やケガの原因となります。

❺ 使い終わったら、ワイドテーブルを外します。

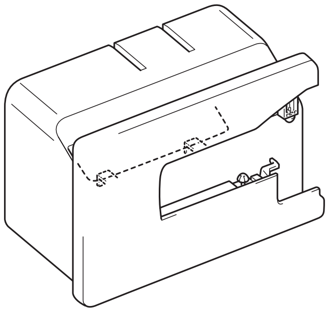
ワイドテーブルを少し持ち上げながら左に引きます。



❻ 補助テーブルをもとにもどします。

お知らせ

● ワイドテーブルは脚を収納した状態で、ハードケースに引っかけて保管することができます。



2 ぬい方の基本

ここでは、基本のぬい方と上手にぬうコツなどを説明します。

ぬってみましょう

ここでは、基本のぬい方を説明します。
ミシンをかける前に、注意事項を説明します。

注意

- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針、プーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。
- 縫製中は布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。ケガ・針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

ミシンかけの手順

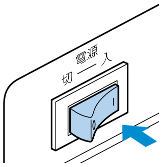
ミシンをかけるときの基本の手順は次のとおりです。

手順	説明
1 電源を入れる	ミシンの電源を入れます。 「電源を入れる」（→P.15）を参照してください。
2 模様を選ぶ	ぬう箇所に合わせて模様を選びます。 詳細は「模様を選ぶ」（→P.68）で説明します。
3 押えを取り付ける	模様に合った押えを取り付けます。 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。
4 布地をセットする	ぬう箇所をミシンにセットします。布地の表・裏や、ぬう順番に注意しましょう。 詳細は「布地をセットする」（→次ページ）で説明します。
5 スタート	ミシンをスタートさせます。 詳細は「ミシンをスタートさせる」（→P.51）で説明します。
6 糸切り	ぬい終わった糸を切ります。自動で切ることもできます。 詳細は「糸を切る」（→P.55）で説明します。

布地をセットする

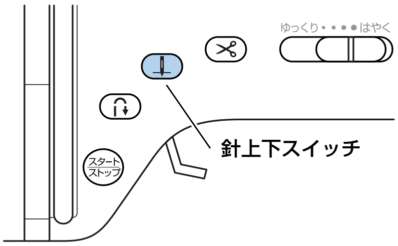
布地の表・裏や、ぬう順番に注意して布地をセットします。

1 電源を入れます。



このとき、模様は「直線［左］」が自動的に選択されます。

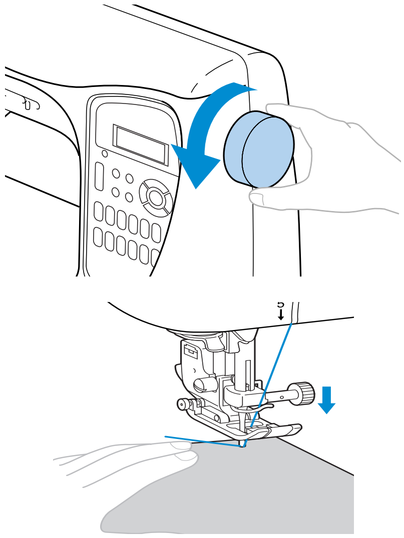
2 （針上下スイッチ）を１回または２回押し、針を上に上げます。



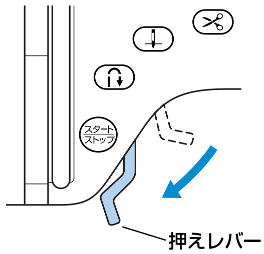
3 押えの下に布地を置きます。

- ぬいしろが右側になるように置くと、まっすぐにぬいやすく、余分な布地がじゃまになりません。

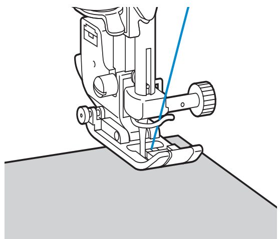
4 左手で糸と布地を押さえ、右手でプーリーを手前に回して布地に針を刺します。



5 押えレバーを下げます。



▷ 布地がセットできました。



お知らせ

- 押えが布地を押さえる強さを変更する場合は、「押えの圧力を調節する」（→P.41）を参照してください。

ミシンをスタートさせる

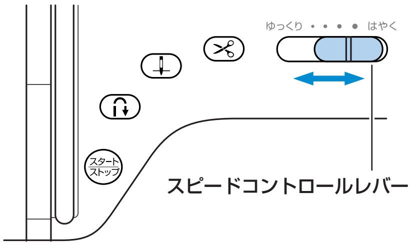
準備ができたら、ミシンをスタートさせます。
ミシンをスタートさせるには､指で操作する方法と､フットコントローラーを使って足で操作する方法があります。

■ 指で操作する

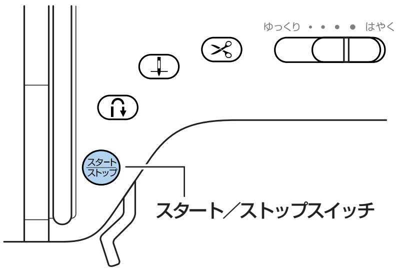
操作スイッチの スタート/ストップ （スタート／ストップスイッチ）を押して操作します。

1 スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

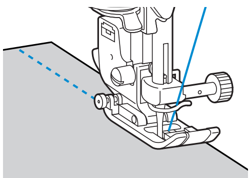
左に動かすと遅く､右に動かすと速くなります。



2 スタート/ストップ （スタート／ストップスイッチ）を1回押します。



▶ ミシンがスタートします。



● スタート直後とスタート／ストップスイッチを押し続けている間は、ゆっくり進みます。

3 ぬい終わりまで進んだら、もう一度 スタート/ストップ（スタート／ストップスイッチ）を1回押します。

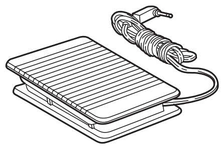
▶ 針が下がった（布地に刺さった）状態でミシンが止まります。

4 ぬい終わったら、針を上げて糸を切ります。

● 「糸を切る」（→ P.55）で説明します。

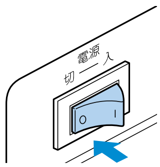
■ 足で操作する

付属のフットコントローラーを使って足で操作します。



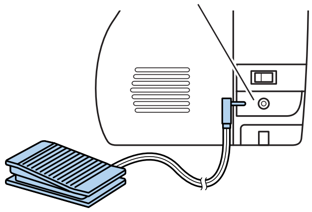
1 電源を切ります。

フットコントローラーを接続するときに、誤ってミシンが動作しないよう、必ず電源を切っておきます。

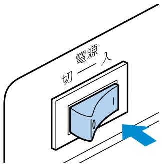


2 本体右側面のフットコントローラージャックに､フットコントローラーのプラグを差し込みます。

フットコントローラージャック

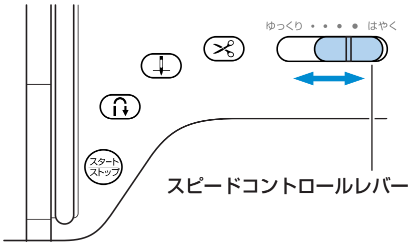


③ 電源を入れます。



④ スピードコントロールレバーを左右に動かして、速度を調節します。

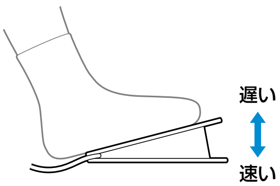
左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。



● スピードコントロールレバーで設定した速度が、フットコントローラーの最高速度になります。

⑤ ぬう準備ができたら、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。

深く踏み込むと速く、浅く踏むと遅くなります。



● 強く踏むとミシンが速く進んでしまうので注意してください。

▶ ミシンがスタートします。

⑥ ぬい終わりまで進んだら、踏むのをやめます。

▶ 針が下がった（布地に刺さった）状態でミシンが止まります。

⑦ ぬい終わったら、針を上げて糸を切ります。

● 「糸を切る」（→ P.55）で説明します。

お知らせ

- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、操作スイッチのスタート／ストップスイッチは使用できません。
- ミシンを止めると、針は下がった状態になります。ミシンを止めたときに針が上になるように設定を変更することもできます。詳細は「針停止位置の変更」（→ P.20）を参照してください。

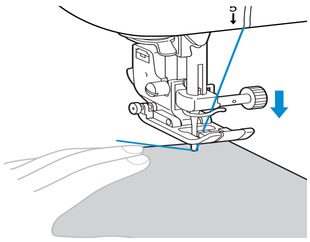
注意

- **フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災・感電の原因となります。**
- **フットコントローラーの上に物を置かないでください。ケガ・故障の原因となります。**
- **長期間使用しないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。火災・感電の原因となります。**

ほつれ止めをする

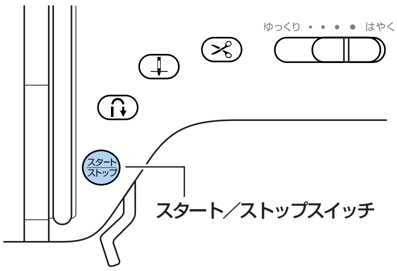
他のぬい目と重ならないところやあき止まりなどの直線ぬいのときに、糸の端がほつれないように返しぬいまたは止めぬいをします。

1 **ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。**



2 **（スタート／ストップスイッチ）を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。**

このとき、スタート／ストップスイッチを押したままにしておくと、ゆっくり進みます。

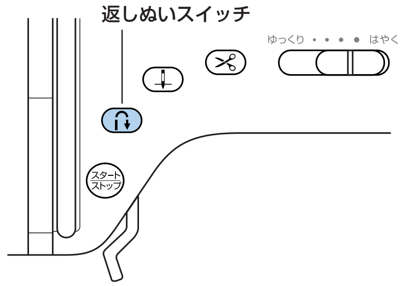


● スタートの手順は、「ミシンをスタートさせる」（→ P.51）を参照してください。

▶ ミシンがスタートします。

3 **3〜5針ほどぬったら、（返しぬいスイッチ）を押します。**

ぬい始めの位置にもどるまで返しぬいスイッチを押したままにします。



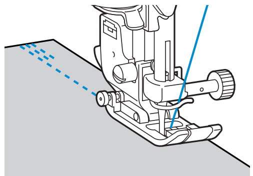
▶ 返しぬいスイッチを押している間、後ろに向かって針が進みます。

4 **ぬい始めの位置までもどったら、返しぬいスイッチから手を離します。**

▶ ミシンが止まります。

5 **（スタート／ストップスイッチ）を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。**

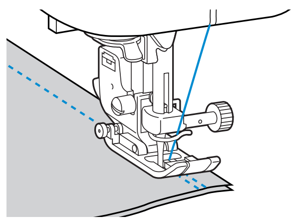
▶ 通常の向きに針が進みます。



6 **ぬい終わりまできたら、（返しぬいスイッチ）を押します。**

3〜5針もどるまで返しぬいスイッチを押したままにします。

▶ 返しぬいスイッチを押している間、後ろに向かって針が進みます。



7 **3～5針ほどぬったら、（返しぬいスイッチ）から手を離します。**

▶ ミシンが止まります。

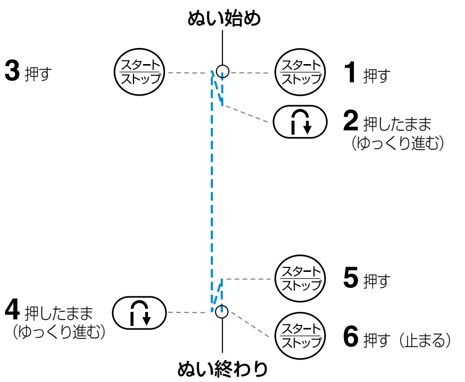
8 **（スタート／ストップスイッチ）を押すか、またはフットコントローラーを踏みます。**

このとき、スタート／ストップスイッチを押したままにしておくと、ゆっくり進みます。

▶ 通常の向きに針が進みます。

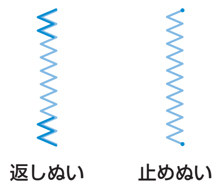
9 **ぬい終わりの位置まできたら、ミシンを止めます。**

スタート／ストップスイッチを押すか、フットコントローラーを踏むのをやめます。



■ **模様をぬうとき**

返しぬいの直線・ジグザグ以外の模様の場合に（返しぬいスイッチ）を押すと、止めぬいになります。止めぬいは、その位置で３～５針重なります。



お知らせ

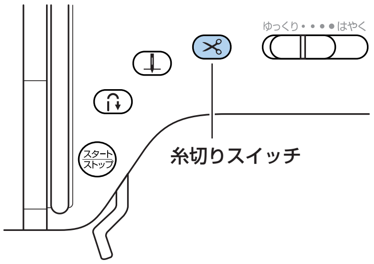
- 返しぬい／止めぬいのどちらになるかは、模様によって異なります。詳細は「模様設定一覧」（→P.124）を参照してください。

糸を切る

ぬい終わったら糸を切ります。糸を切るには、２つの方法があります。

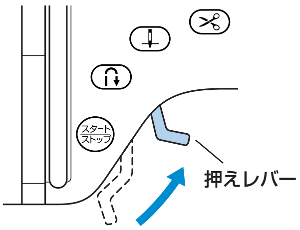
■ 糸切りスイッチ

① ぬい終わった位置で、 （糸切りスイッチ）を１回押します。



▶ 糸が切れ、針が上に上がります。

② 押えレバーを上に上げて、布地を取り出します。



⚠ 注 意

● **糸を切ったあとは、糸切り操作をくり返し行わないでください。針折れや糸がらみ、故障の原因となります。**

お願い

● 布地が押えの下にない状態やミシンが動いているときは、糸切りスイッチを押さないでください。このようなときに糸切りスイッチを押すと、故障の原因となります。

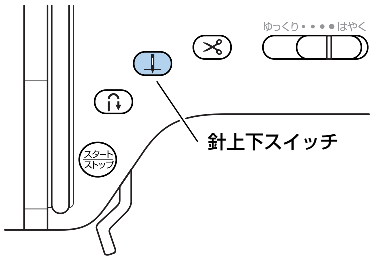
お知らせ

● ぬい終わったときに、自動的に糸を切るように設定することもできます。「自動で糸を切る」（→P.61）で説明します。

■ 糸切り

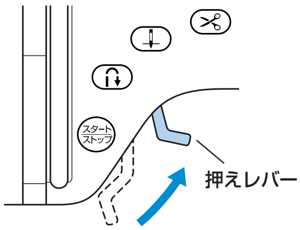
太さが30番以上の糸やナイロン糸、メタリック糸などの特殊な糸を使用しているときは、本体左側面の糸切りを使って糸を切ります。

① ぬい終わってミシンを止めたら、 （針上下スイッチ）を１回押します。

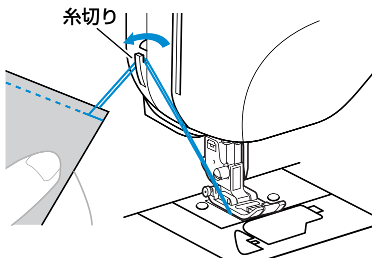


▶ 針が上に上がります。

② 押えレバーを上げます。



③ 布地を左に引き、本体左側面の糸切りに上糸と下糸を引っかけて切ります。



糸調子を調節する

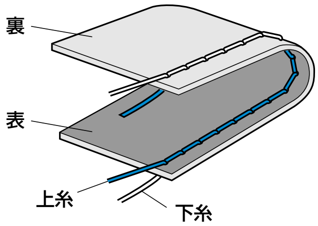
上糸と下糸の強さのバランス（糸調子）を調節します。

糸調子とは

「針の種類と使い分け」（→ P.36）で記載している組み合わせでぬった場合は、自動的に適切な糸調子になります。思い通りの糸調子にならないときや、特殊な糸や素材をぬう場合などは、上糸の調子を強く、または弱くして調節します。

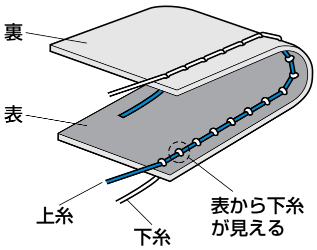
■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布の中央でまじわります。布地の表には上糸、裏には下糸だけが見える状態です。



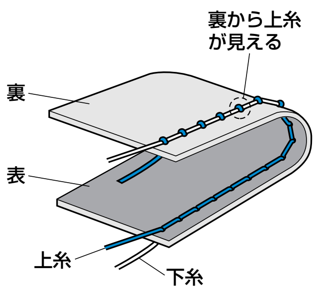
■ 上糸が強いとき

布地の表に下糸が見えている状態です。この場合は上糸を弱くします。



■ 上糸が弱いとき

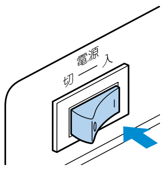
布地の裏に上糸が見えている状態です。この場合は上糸を強くします。



上糸の調子を変更する

表示パネルの液晶画面とキーを操作して設定します。

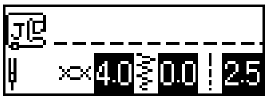
1 電源を入れます。



▷ 液晶画面が点灯します。

2 模様を選択します。

▷ 選択した模様の設定が表示されます。

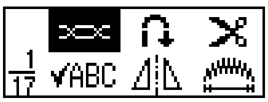


- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」（→P.69）で説明します。
- 模様を選んだ直後は、標準の値（数字が反転表示）になっています。

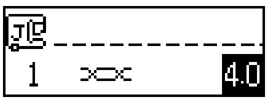
3 表示パネルの （設定キー）を押します。

▷ 設定画面が表示されます。

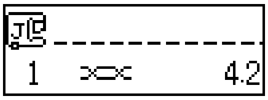
4 が反転表示されていることを確認し、OK （OKキー）を押します。



▷ 糸調子を設定する画面が表示されます。



5 弱くするときは ◀ （−）、強くするときは ▶ （＋）を押します。



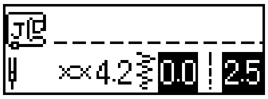
▷ 上糸の強さが変わります。

● 値を変更すると、数字の反転表示が消えます。

● この状態でぬうことができます。試しぬいをして糸調子を確認し、必要に応じて設定を変更してください。

6 OK （OK キー）を押します。

▷ 最初の画面にもどります。



お知らせ

● 標準の糸調子にもどすときは、反転表示される数字に変更します。
● 糸調子が簡単な操作で変更できるように設定することができます。「糸調子を簡単に変えたいとき」（→ P.137）を参照してください。
● 実用模様を選択したときに、いつも同じ値が設定されるように記憶させることができます。「模様の設定値を登録する」（→ P.63）で説明します。

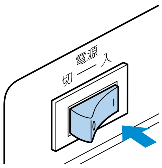
模様の幅と長さを調節する

実用模様のジグザグの振り幅（模様の幅）とぬい目の長さを調節できます。模様を選択すると、自動的に適切な幅と長さが設定されます。各模様で設定できる幅と長さの値は、「模様設定一覧」（→P.124）を参照してください。

模様の幅を調節する

ジグザグの振り幅を調節します。矢印キーで操作します。

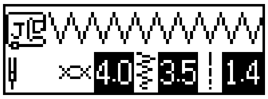
1 電源を入れます。



▷ 液晶画面が点灯します。

2 模様を選択します。

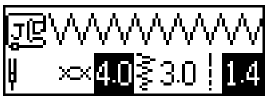
▷ 選択した模様の設定が表示されます。



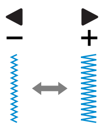
● 模様の選び方は、「模様を選ぶ」（→P.69）で説明します。

● 模様を選んだ直後は、標準の値（数字が反転表示）になっています。

3 幅をせまくするときは ◀（−）、広くするときは ▶（＋）を押します。



▷ 模様の幅が変わります。



● 値を変更すると、数字の反転表示が消えます。

お知らせ

● 標準の幅にもどすときは、反転表示される数字に変更します。
● 模様が直線（直線［左］、三重ぬい、しつけなど）のときに模様の幅を変更すると、針の位置が調節できます。幅を広くすると針位置が右になり、せまくすると左になります。
● ぬいながら模様の幅を変えるときは、スピードコントロールレバーで操作できるように設定することができます。「サテンぬい」（→P.98）を参照してください。
● 実用模様を選択したときに、いつも同じ値が設定されるように記憶させることができます。「模様の設定値を登録する」（→P.63）で説明します。

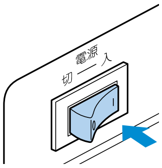
注意

● **振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

ぬい目の長さを調節する

ぬい目の長さを調節します。矢印キーで操作します。

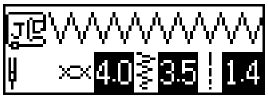
1 電源を入れます。



▷ 液晶画面が点灯します。

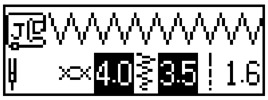
2 模様を選択します。

▷ 選択した模様の設定が表示されます。

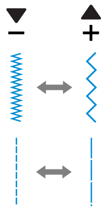


- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」（→P.69）で説明します。
- 模様を選んだ直後は、標準の値（数字が反転表示）になっています。

3 長さ短くするときは ▼（－）、長くするときは ▲（＋）を押します。



▷ ぬい目の長さが変わります。



- 値を変更すると、数字の反転表示が消えます。

お知らせ

- 標準の長さにもどすときは、反転表示される数字に変更します。
- 実用模様を選択したときに、いつも同じ値が設定されるように記憶させることができます。「模様の設定値を登録する」（→P.63）で説明します。

注意

- **ぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さを長くしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

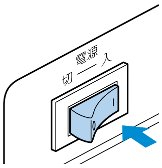
便利な機能

ここでは、覚えておくと役に立つ機能について説明します。

自動で止めぬいをする

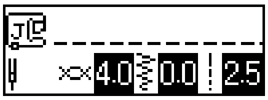
ぬい始めとぬい終わりに、自動で止めぬいまたは返しぬいをするように設定します。
模様によって、止めぬいか返しぬいかが異なります。どちらが設定されるかは、「模様設定一覧」（→ P.124）を参照してください。

1 **電源を入れます。**



▷ 液晶画面が点灯します。

2 **模様を選びます。**

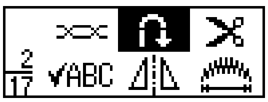


● 模様の選び方は、「模様を選ぶ」（→P.69）で説明します。

3 **表示パネルの （設定キー）を押します。**

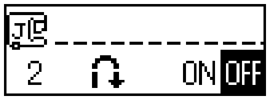
▷ 設定画面が表示されます。

4 **▲▼◀▶（矢印キー）を押して、 を反転表示させます。**



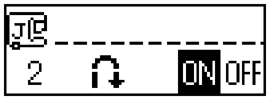
5 **OK （OK キー）を押します。**

▷ 止めぬいを設定する画面が表示されます。



6 **◀ を押して ON を反転表示させます。**

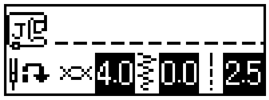
▶ を押すと、OFF にもどります。



▷ 自動止めぬいが設定されます。

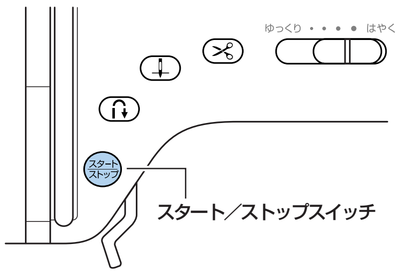
7 **OK （OK キー）を押します。**

▷ 最初の画面にもどり、画面左に が表示されます。



● 電源を切ると、自動止めぬいの設定は解除されます。

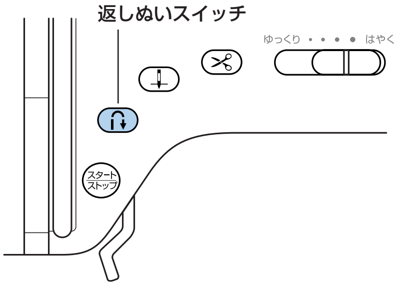
8 **布地をセットし、スタート ストップ （スタート／ストップスイッチ）を 1 回押します。**



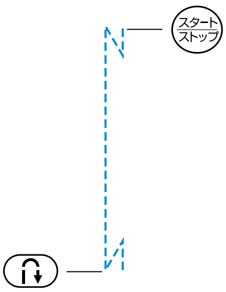
▷ 止めぬいまたは返しぬいをしてから、ぬい始めます。

9 **ぬい終わりの位置まできたら、(返しぬいスイッチ)を１回押します。**

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。



▶ 止めぬいまたは返しぬいをしてから、ミシンが止まります。



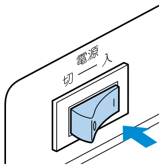
お知らせ

● ぬっている途中で、スタート／ストップスイッチを押したときは、止めぬいまたは返しぬいは行われません。ぬい終わりで返しぬいスイッチを押してください。

自動で糸を切る

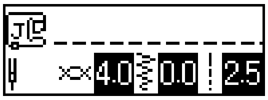
ぬい終わりで自動で糸を切るように設定します。これを「プログラム糸切り」といいます。
プログラム糸切りを設定すると、自動止めぬいも一緒に設定されます。ボタン穴かがりやかんどめを選択したときなどに設定すると便利です。

1 **電源を入れます。**



▶ 液晶画面が点灯します。

2 **模様を選びます。**

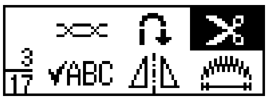


● 模様の選び方は、「模様を選ぶ」(→P.69)で説明します。

3 **表示パネルの (設定キー)を押します。**

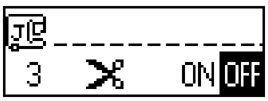
▶ 設定画面が表示されます。

4 **▲▼◀▶(矢印キー)を押して、 を反転表示させます。**



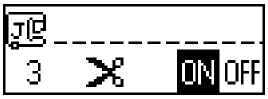
5 **OK (OKキー)を押します。**

▶ プログラム糸切りを設定する画面が表示されます。



6 **◀ を押して ON を反転表示させます。**

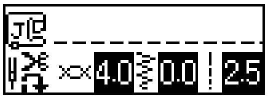
▶ を押すと、OFF にもどります。



▷ プログラム糸切りが設定されます。

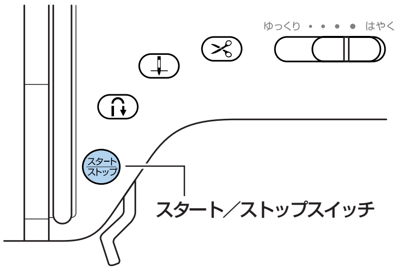
7 **（OK キー）を押します。**

▷ 最初の画面にもどり、画面左に が表示されます。



● 電源を切ると、プログラム糸切りの設定は解除されます。

8 **布地をセットし、（スタート／ストップスイッチ）を 1 回押します。**

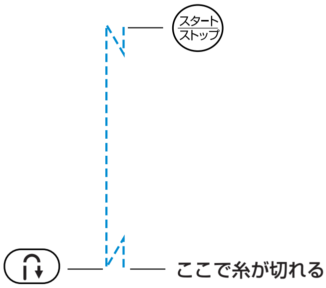


▷ 止めぬいまたは返しぬいをしてから、ぬい始めます。

9 **ぬい終わりの位置まできたら、（返しぬいスイッチ）を 1 回押します。**

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

▷ 止めぬいまたは返しぬいをしてから、ミシンが止まって糸が切れます。



お知らせ

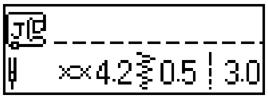
● ぬっている途中で、スタート／ストップスイッチを押したときは、止めぬいまたは返しぬい、糸切りは行われません。ぬい終わりで返しぬいスイッチを押してください。

模様の設定値を登録する

調節した模様の糸調子や幅・長さの値がいつも設定されるように、設定値を登録しておくことができます。実用模様ごとに、それぞれ設定値が登録できます。

1 模様を選択し、模様の糸調子、幅・長さを変更します。

幅を変更するときは ◀（−）／▶（+）、長さを変更するときは ▼（−）／▲（+）を押します。



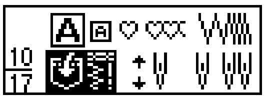
- 模様の選び方は、「模様を選ぶ」（→P.69）で説明します。
- 糸調子の変更は、「上糸の調子を変更する」（→P.56）を参照してください。

▷ 模様の幅または長さが変わります。

2 表示パネルの（設定キー）を押します。

▷ 設定画面が表示されます。

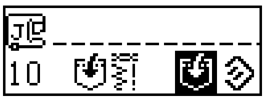
3 ▲▼◀▶（矢印キー）を押して、を反転表示させます。



4 OK（OK キー）を押します。

▷ 設定を登録する画面が表示されます。

5 が反転表示していることを確認し、OK（OK キー）を押します。



▷ 模様の幅と長さの値が登録されます。

お知らせ

- 次に同じ模様を選択すると、登録した値が最初に表示されます。
- 登録した値を取り消して出荷時の値にもどすときは、▶ を押して を反転表示させ、OK（OK キー）を押します。

上手にぬうコツ

ここでは、上手にぬうためのコツを説明します。ミシンかけをするときの参考にしてください。

試しぬいをする

本機は、布地に合わせて糸や針を選んで模様を選択すると、それに合わせて自動的に糸調子や模様の幅・長さが適切に設定されるようになっています。しかし、布の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しぬいをするようにしましょう。
試しぬいは、実際の布地のはぎれと糸を使用して、糸調子や模様の幅·長さを確認します。ぬい方や布を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうものと同じ状態で試しぬいをします。

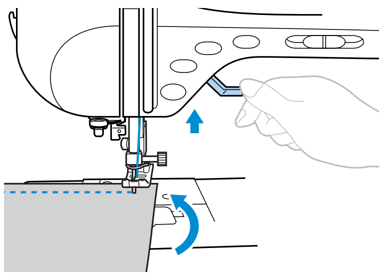
ぬう方向を変える

1 角までぬったら、ミシンを止めます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、（針上下スイッチ）を押します。

2 押えレバーを上げ､布を持って回します。

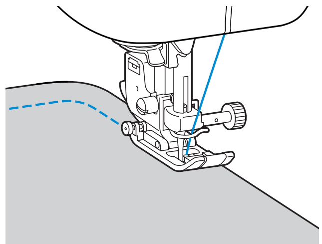
針位置を基点に回転させせます。



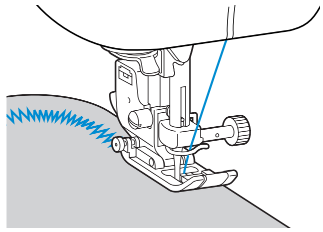
3 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

カーブをぬう

途中でミシンを止めながら、少しずつ向きを変えてぬいます。「ぬいしろの幅をそろえる」（→P.66）を参考にして､ぬいしろと平行になるようにぬいます。



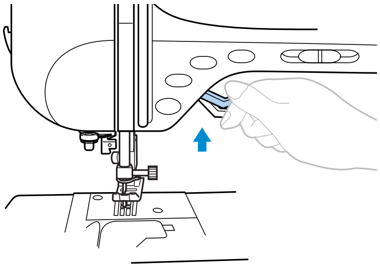
ジグザグ模様をぬうときは、ぬい目の長さを短めにするときれいに仕上がります。



厚い布地をぬう

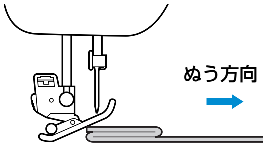
■ 押えの下に布地が入らないとき

押えレバーをさらに上に上げると、押えがもう一段階上がります。



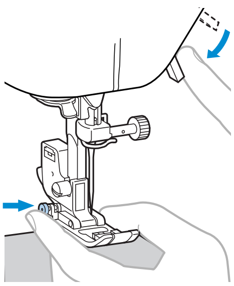
■ ぬい始めに段差があって布地が送らないとき

ジグザグ押え <J> には、押えを水平にする機能が付いています。

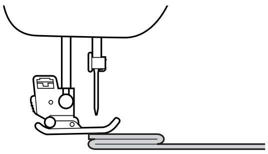


① **布地に段差があって送らない場合は、押えレバーをいったん上げます。**

② **ジグザグ押え<J>の左側の黒いボタンを押したまま、押えレバーを下げます。**



▷ 押えが水平になり、布地が送られるようになります。



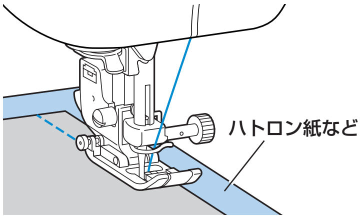
▷ ぬい進めると、押えはもとにもどります。

⚠ 注意

🚫 ● 6mm以上の厚物をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

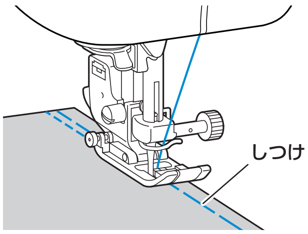
薄い布地をぬう

薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。
その場合は布地の下にハトロン紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙をやぶいて取り除きます。



伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。

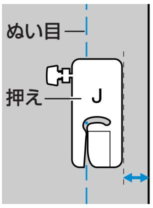


ぬいしろの幅をそろえる

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端か針板の目盛りを基準にしてぬいます。

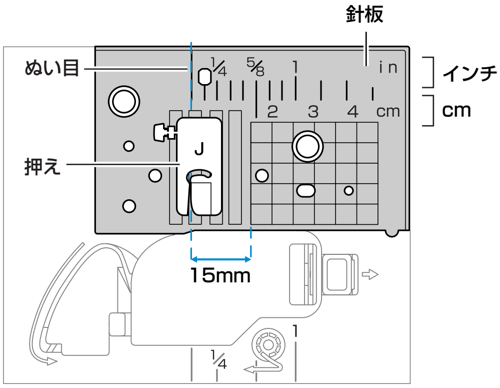
■ 押えを基準にする場合

押えの右端と布端が一定の幅で平行になるようにぬいます。



■ 針板を基準にする場合

針板には、直線［左］の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは 1/8 インチ（約 3mm）単位、下側の目盛りは 5mm 単位になっています。



3 いろいろなぬい方

ここでは、いろいろなぬい方とその使い方を説明します。

ぬい方を選びましょう

ぬう模様を選択します。

模様の種類

模様は、実用模様・飾り・サテンステッチ・クロスステッチ・飾りサテン・アルファベット３種類・ひらがな・カタカナ・漢字の 11 グループの模様があります。
模様の種類は、「模様設定一覧」（→P.124）を参照してください。

■ 実用模様

直線やたち目かがり、ボタン穴かがりなど、67 種類の実用模様があります。

■ 飾り

葉や花、ハートなど、31 種類の飾り模様があります。

■ サテンステッチ

16 種類のサテンステッチがあります。

■ クロスステッチ

5 種類のクロスステッチがあります。

■ 飾りサテン

10 種類の飾りサテンがあります。

■ アルファベット（ゴシック体）

ゴシック体のアルファベットや記号、数字など 55 文字あります。

■ アルファベット（筆記体）

筆記体のアルファベットや記号、数字など55文字あります。

■ アルファベット（アウトライン）

アウトライン（白抜き文字）のアルファベットや記号、数字など 55 文字あります。

■ ひらがな

ひらがなや記号、数字など 98 文字あります。

■ カタカナ

カタカナや記号、数字など 98 文字あります。

■ 漢字

漢字や記号、数字など 43 文字あります。

模様を選ぶ

表示パネルのキーで液晶画面を操作して、模様を選択します。実用模様のうち、よく使用する 12 模様は、表示パネルのダイレクト選択キーで直接選択ができます。
電源を入れた直後は、(直線［左］) が選択されています。

1 使用する模様を決めます。

● 「模様の種類」(→前ページ) を参照してください。

2 選んだ模様に合った押えを用意します。

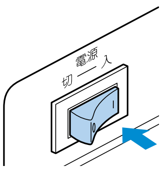
押えは補助テーブルのトレーに収納されています。

● 各模様で使用する押えは、「模様設定一覧」(→ P.124) を参照してください。

3 押えを取り付けます。

● 「押えを交換する」(→ P.39) を参照してください。

4 電源を入れます。



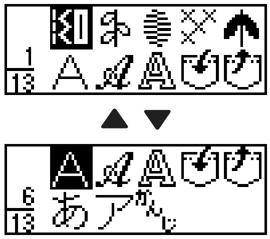
▶ 液晶画面に「直線［左］」が表示されます。

5 表示パネルの (模様選択キー) を押します。

ダイレクト選択キーの模様を選ぶときは、模様のキーを押します。
⑩ に進みます。

▶ 模様のグループを選ぶ画面が表示されます。

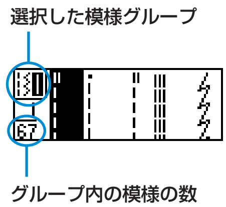
6 ▲▼◀▶ (矢印キー) を押して、選ぶ模様のグループを反転表示させます。



7 (OK キー) を押します。

▶ 模様を選ぶ画面が表示されます。

■ **画面の見方**



● グループを選び直すときは、(もどるキー) を押します。

8 ▲▼◀▶ (矢印キー) を押して、選ぶ模様を反転表示させます。

▲ で前の画面、▼ で次の画面が表示されます。

9 (OK キー) を押します。

▶ 模様が選択され、模様の設定値が表示されます。

10 必要に応じて、自動止めぬいやぬい目の長さなどを調節します。

● 各模様の用途とぬい方は、次ページ以降を参照してください。

お願い

- 模様を選ぶと、使用する押えのマークが液晶ディスプレイに表示されます。取り付けた押えと合っているか確認してから、ぬい始めてください。もし取り付けた押えが間違っていた場合は、いったん電源を切ってから正しい押えを取り付け、もう一度模様を選び直してください。

お知らせ

- 模様のぬい目の幅や長さを調節する場合は、「ぬい目の幅と長さを調節する」（→P.58）を参照してください。

ぬいしろを始末する

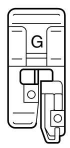
裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。たち目かがりに使用できる模様は、全部で15 模様あります。使用する押えごとにぬい方を説明します。

<G> 押えを使ったたち目かがり

たち目かがり押え <G> を使って、３模様のたち目かがりができます。

名称	模様	キー	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
				自動	手動	自動	手動	
たち目かがり	11		普通地・薄地のほつれ止め	3.5	2.5~5.0	2.0	1.0~4.0	G
	12		厚地・ほつれやすい布地のほつれ止め	5.0	2.5~5.0	2.5	1.0~4.0	
	13	–		5.0	3.5~5.0	2.5	1.0~4.0	

1 たち目かがり押え <G> を取り付けます。

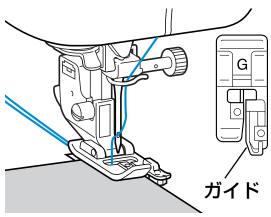


●「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

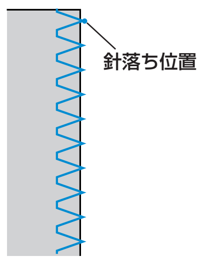
2 模様を選択します。

●「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

3 押えのガイドと布地の端が合うように布地をセットし、押えを下げます。



4 布地の端を押えのガイドにそわせてぬいます。



注意

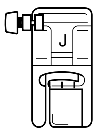
● 振り幅を調節したときはプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

<J> 押えを使ったたち目かがり

ジグザグ押え <J> を使って 7 模様のたち目かがりができます。

名称	模様	キー	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
				自動	手動	自動	手動	
ジグザグ［中］	7	―	通常のほつれ止め（中基線／返しぬい）	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	J
ジグザグ［右］	8		通常のほつれ止め（右基線／止めぬい）	3.5	2.5~5.0	1.4	0.3~4.0	
2点ジグザグ	9	―	厚地・伸びる布地のほつれ止め	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	
3点ジグザグ	10			5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	
たち目かがり	14	―	伸びる布地のほつれ止め	5.0	0.0~7.0	2.5	0.5~4.0	
	15	―	厚地・伸びる布地のほつれ止め	5.0	0.0~7.0	2.5	0.5~4.0	
	16	―	伸びる布地のほつれ止め	4.0	0.0~7.0	4.0	1.0~4.0	

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

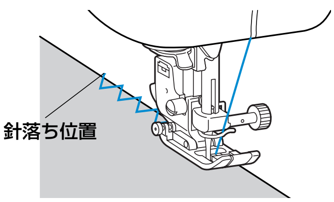


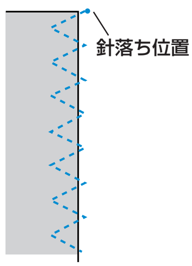
● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 模様を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

3 布端より少し外側に針を落としてぬいます。





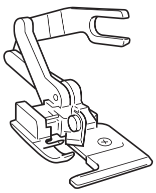
お知らせ

● 伸びる布地をぬうときは、押えの圧力を弱くするときれいにぬえます。「押えの圧力を調節する」（→P.41）を参照してください。

サイドカッター押えを使ったたち目かがり

別売のサイドカッター押えを使って、布地の端を切りながらぬいしろを始末することができます。5 模様のたち目かがりができます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
たち目かがり	63	布地を切りながら直線ぬい	0.0	0.0~2.5	2.5	0.2~5.0	S
	64	布地を切りながらジグザグ	3.5	3.5~5.0	1.4	0.0~4.0	
	65	布地を切りながら薄地・普通地のほつれ止め	3.5	3.5~5.0	2.0	1.0~4.0	
	66	布地を切りながら厚地のほつれ止め	5.0	3.5~5.0	2.5	1.0~4.0	
	67	布地を切りながら厚地のほつれ止め	5.0	3.5~5.0	2.5	1.0~4.0	



1 押えを外します。

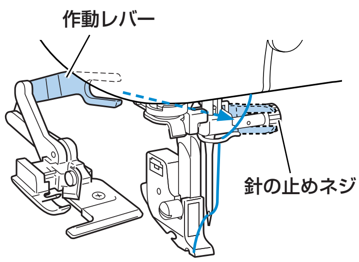
● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

2 押えレバーを下げ、手で針に糸を通します。

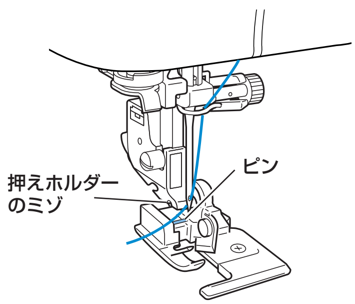
● 糸通し装置は使用できません。サイドカッター押えが取り付けられているときに糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。

3 押えレバーを上げます。

4 サイドカッター押えの作動レバーのふたまた部分で、針の止めネジをはさみます。



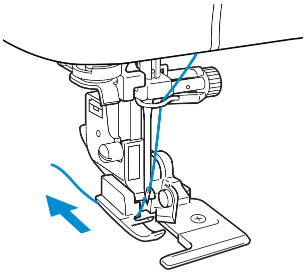
5 サイドカッター押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置にサイドカッター押えを置き、押えレバーをゆっくり下げます。



▶ サイドカッター押えが取り付けられます。

6 押えレバーを上げて、サイドカッター押えが取り付けられていることを確認します。

7 上糸はサイドカッター押えの下を通して、後ろ側に引き出します。



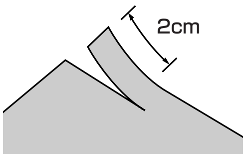
8 模様を選びます。

- 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

注意

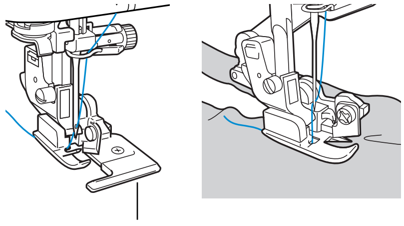
- **振り幅を調節したときは、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

9 布地のぬい始め部分に2cmの切り込みを入れます。



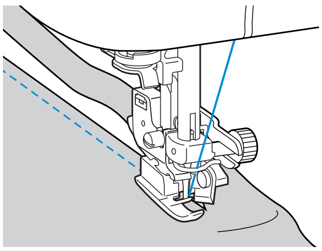
10 布地をセットします。

布地の切り込みを入れた部分を、サイドカッター押えのガイドプレートの上に置きます。



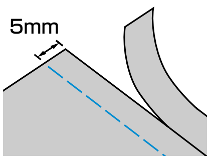
- 布地を正しく置かないと、布地が切れません。

11 押えレバーを下げ、ミシンをスタートさせます。



▶ ぬいしろが裁断されながらぬわれます。

- 模様を直線にしてぬった場合、ぬいしろは約5mmになります。



お知らせ

- サイドカッター押えで切れる布地の厚さは、13オンスデニム1枚程度までです。
- サイドカッター押えを使ったあとは、糸くずやほこりを取り除いてください。
- 布地が切れなくなってきたときは、サイドカッター押えの刃を少量の油を含ませた布でふいてください。

地ぬいをする

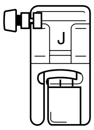
基本となる直線ぬいをします。直線ぬいは、次の５模様から選択します。

名称	模様	キー	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
				自動	手動	自動	手動	
しつけぬい	6	—	仮止め	0.0	0.0~7.0	–	–	J
直線［左］	1		地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（左基線／返しぬい）	0.0	0.0~7.0	2.5	0.2~5.0	J
直線［左］	2	—	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（左基線／止めぬい）	0.0	0.0~7.0	2.5	0.2~5.0	J
直線［中］	3		地ぬい、ギャザー、ピンタックなど（中基線／返しぬい）	–	–	2.5	0.2~5.0	J
三重ぬい	4		ぬい目を丈夫にしたいとき、伸びる布地のとき	0.0	0.0~7.0	2.5	1.5~4.0	J

しつけぬい

5mm の長さのぬい目でしつけぬいをします。

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



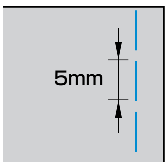
●「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

2 模様 6 を選択します。

●「模様を選ぶ」（→ P.69）を参照してください。

3 ミシンをスタートさせます。

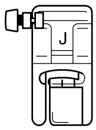
●「ミシンをスタートさせる」（→ P.51）を参照してください。



地ぬい

1 ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で止めます。

2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



●「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

3 模様を選択します。

●「模様を選ぶ」（→ P.69）を参照してください。

4 ぬい始めの位置に針を刺します。

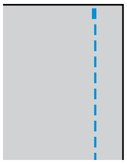
5 ミシンをスタートさせます。

● 「ミシンをスタートさせる」（→ P.51）を参照してください。

● 返しぬいをする場合は、「ほつれ止めをする」（→ P.53）を参照してください。

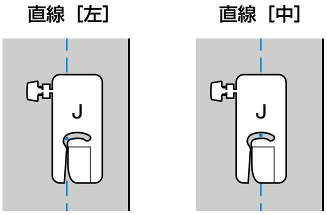
6 ぬい終わったら糸を切ります。

● 「糸を切る」（→ P.55）を参照してください。

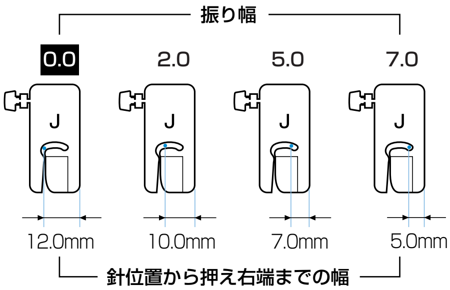


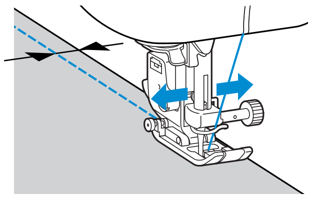
■ 針位置を変えるとき

直線［左］と直線［中］は、基線となる針位置が異なります。



直線［左］は、ジグザグの振り幅が標準の設定（0.0mm）のときに、針位置から押えの右端まで 12mm あります。振り幅を変更（0.0 ～ 7.0mm）すると、針位置が変えられます。振り幅を変更し、押えの右端と布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。





● 「模様の幅を調節する」（→ P.58）を参照してください。

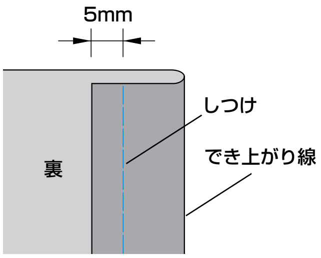
すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。まつりぬいは、次の２模様から選択します。

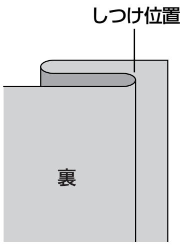
名称	模様	キー	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
				自動	手動	自動	手動	
まつりぬい	17		普通地のまつりぬい	0.0	3←〜3→	2.0	1.0〜3.5	R
	18		伸びる布地のまつりぬい	0.0	3←〜3→	2.0	1.0〜3.5	

以下の手順でまつりぬいをします。

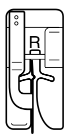
1 折りしろをでき上がり線で折り、布端から約５mm のところにしつけをします。



2 しつけをしたところから折り返し、布地の裏を上側にします。



3 まつりぬい押え <R> を取り付けます。

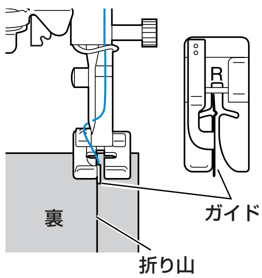


● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

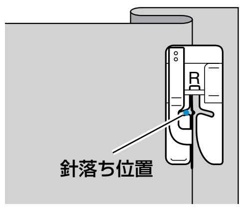
4 模様を選択します。

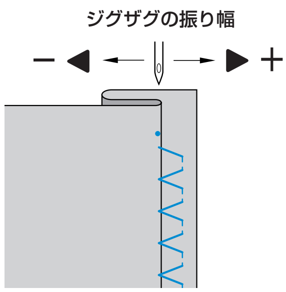
● 「模様を選ぶ」（→ P.69）を参照してください。

5 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。



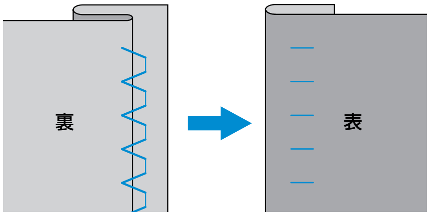
6 ジグザグの振り幅を変更し、針が折り山に少しかかる位置にします。





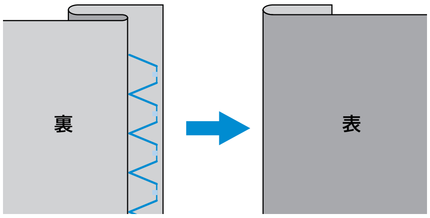
■ **針がかかりすぎているとき**

針が左側にいきすぎています。
矢印キーの ▶ を押して振り幅を減らし、針が折り山にわずかにかかるように調節します。



■ **針がかかっていないとき**

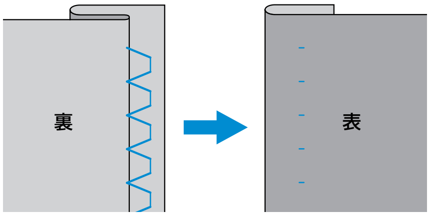
針が右側にいきすぎています。
矢印キーの ◀ を押して振り幅を増やし、針が折り山にわずかにかかるように調節します。



● 「模様の幅を調節する」（→P.58）を参照してください。

7 折り山に押えのガイドをそわせてぬいます。

8 しつけをほどき、布地を表に返します。



お知らせ

● 伸びる布地をぬうときは、押えの圧力を弱くするときれいにぬえます。「押えの圧力を調節する」（→P.41）を参照してください。

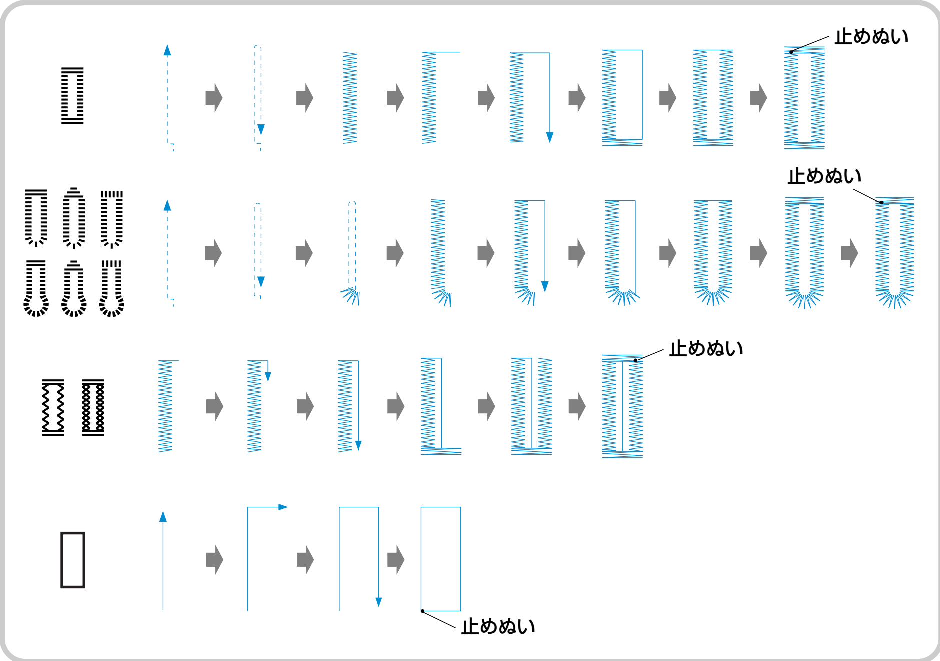
ボタン穴をかがる

ボタンホールを作って、ボタンを付けます。ボタン穴かがりは、10 模様から選択できます。

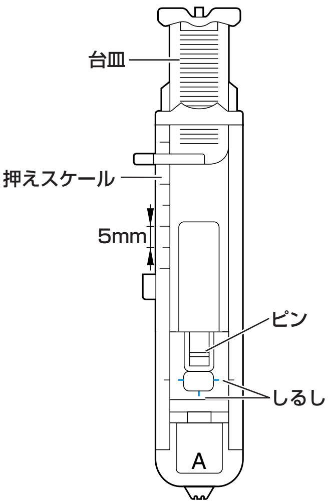
名称	模様	キー	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
				自動	手動	自動	手動	
ボタン穴かがり	42	ー	薄地・普通地のねむり穴、横穴	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	A
	43	ー	力がかかるところの横穴	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	
	44	ー	厚地の横穴	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	
	45	[icon]	張りのある素材の両止め用	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	
	46	ー	伸びる布地・編み地用	6.0	3.0~6.0	1.0	0.5~2.0	
	47	ー	伸びる布地用	6.0	3.0~6.0	1.5	1.0~3.0	
	48	ー	玉ぶち穴かがり（バウンドボタンホール）	5.0	0.0~6.0	2.0	0.2~4.0	
	49	ー	厚地・毛足の長い布地のはとめ穴	7.0	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0	
	50	ー	普通地・厚地のはとめ穴	7.0	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0	
	51	ー	厚地・毛足の長い布地の横穴	7.0	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0	
ボタン付け	55	ー	ボタン付け	3.5	2.5~4.5	–	–	M

ボタンホールを作る

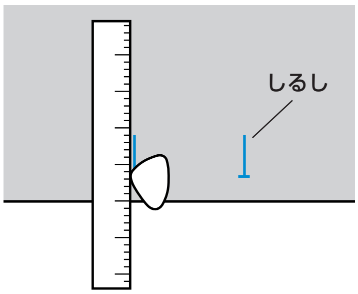
「ボタンの直径＋厚み」が約 28mm 以下のボタンホールが作れます。
ボタン穴かがりは、次の順で押えの手前から後ろに向かってぬわれます。



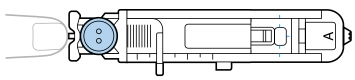
ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え<A>の各部の名称は次のとおりです。



1 **ボタン穴かがりをする位置にチャコペンなどでしるしを付けます。**

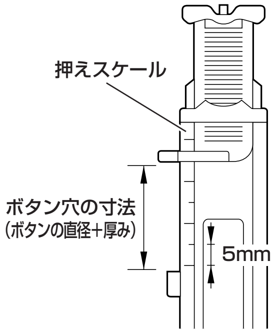


2 **ボタン穴かがり押え <A> の台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。**

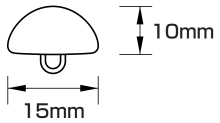


■ **ボタンが台皿にのらないとき**

「ボタンの直径＋厚み」を､押えスケールの目盛り（1目盛り 5mm）に合わせて、大きさを決めます。



例：直径 15mm、厚み 10mm のボタン
→スケールを 25mm に合わせる



▶ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

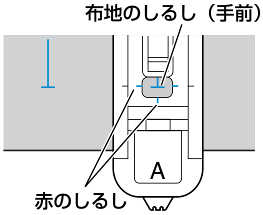
3 ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

4 模様を選択します。

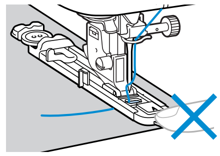
● 「模様を選ぶ」（→ P.69）を参照してください。

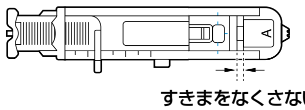
5 押えの赤のしるしと布地のしるしの手前側を合わせ、押えを下げます。



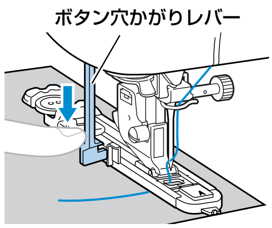
上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

● 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。ボタン穴かがりの大きさが正確にぬえません。

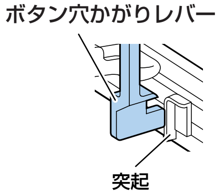




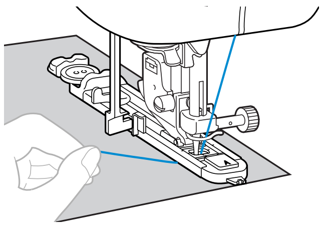
6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。

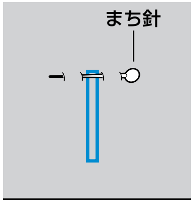


▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

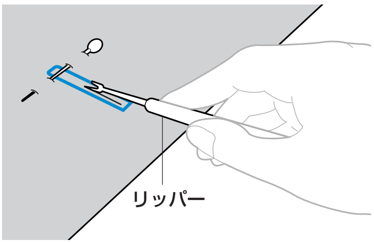
8 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

9 ボタン穴かがりレバーをもとにもどします。

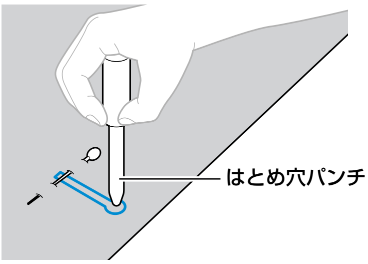
10 ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。



11 付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。



はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



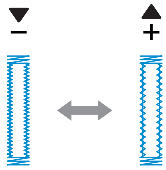
- はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いて穴をあけてください。

注意

- リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。

■ ぬい目のあらさを変えるとき

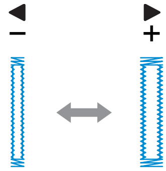
ぬい目の長さを調節します。



- 「ぬい目の長さを調節する」（→P.59）を参照してください。
- 厚地の場合などで布地が進まないときは、ぬい目をあらくします。

■ 振り幅を変えるとき

ジグザグの振り幅を調節します。



- 「模様の幅を調節する」（→P.58）を参照してください。

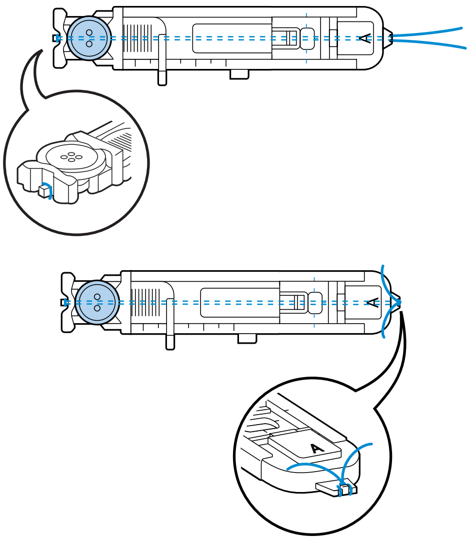
お知らせ

- ボタン穴かがりをするときは、ぬい目の長さや振り幅を確認するため、必ず試しぬいをしましょう。

■ 伸びる布地をぬうとき

伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、芯ひもを入れてぬいます。

1 ボタン穴かがり押え <A> の図の部分に芯ひもをかけ、芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。



2 ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

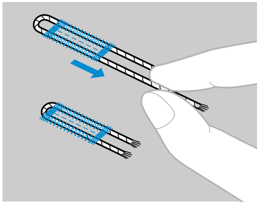
●「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

3 模様 46 または 47 を選択します。

4 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

5 押えレバーとボタン穴かがりレバーを下げて、ミシンをスタートさせます。

6 ぬい終わったら芯ひもを引いてたるみをなくします。

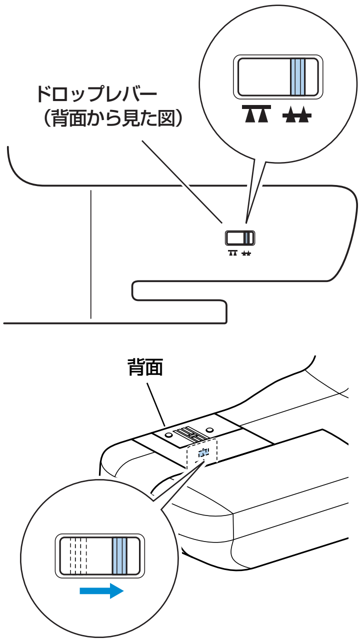


7 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

ボタンを付ける

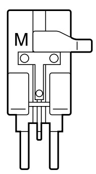
ボタンをぬい付けます。穴が２つまたは４つのボタンが付けられます。

1 押えレバーを上げ、本体背面下側にあるドロップレバーを正面から見て右側（　）に動かします。



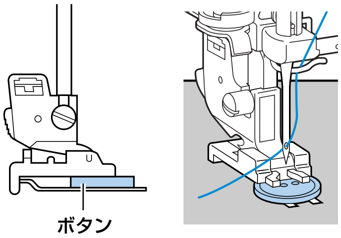
▷ 送り歯が下に下がります。

2 ボタン付け押え <M> を取り付けます。

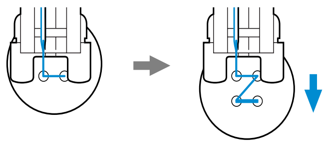


● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

3 ぬい付けるボタンをボタン付け押え<M>に取り付けます。



● 4つ穴のボタンを付けるときは、手前の穴を先にぬいます。手前の穴がぬい終わったら、ボタンをずらして後ろの穴に合わせ、もう一度ぬいます。



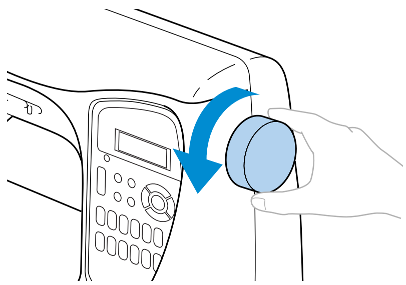
4 模様 55 を選択します。

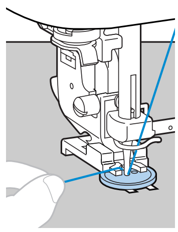
● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

● プログラム糸切りは設定しないでください。

5 プーリーを手前に回し、針がボタン穴に交互に入るか確認します。

ボタン穴の間隔に合わせて、振り幅を調節します。





⚠ 注意

- ぬう際には、ボタンに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

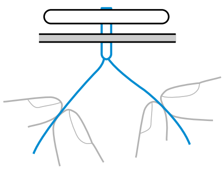
6 ミシンをスタートさせます。

▷ 自動的に止めぬいをしたあとに止まります。

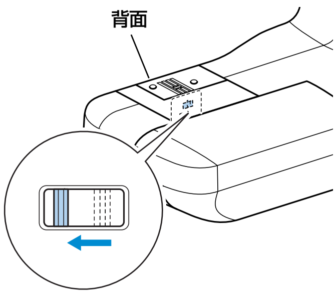
- 糸切りスイッチは使用しないでください。
- ボタンをしっかりと付けたいときは、ボタン付けの操作を２回くり返します。

7 ぬい終わりの上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結びます。

ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切ります。



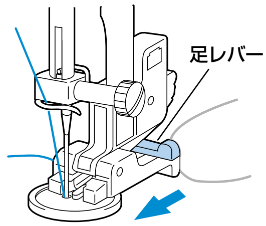
8 ボタン付けが終わったらドロップレバーを正面から見て左側（ ）に動かし、送り歯をもとにもどします。



■ 足を付けるとき

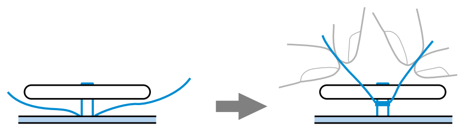
ボタンの付け根に足（糸足）付けるときは、ボタンと布の間にすき間をあけた状態でぬい、あとで手で巻き付けます。ボタンをしっかりと付けることができます。

1 ボタン付け押え <M> にボタンを取り付けたら、足レバーを手前に引きます。



2 ぬい終わったら上糸を長めに切り、ボタンと布の間の糸足に巻き付けて、ぬい始めの上糸と結びます。

ぬい始めとぬい終わりの下糸は、布地の裏側で結びます。



3 余分な糸を切ります。

ファスナーを付ける

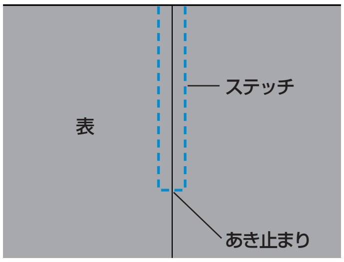
ファスナーをぬい付けます。

名称	模様	キー	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
				自動	手動	自動	手動	
直線［中］	3		ファスナー付け おとしミシンやピンタック	–	–	2.5	0.2~5.0	I

ファスナーの付け方によってぬい方が異なります。ここでは、つき合わせと片返しの場合のぬい方を説明します。

つき合わせ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。

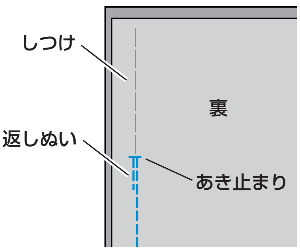


1. **ジグザグ押え<J>を取り付けて、あき止まりの位置まで地ぬいをします。**

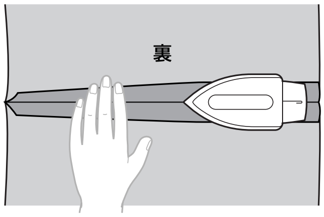
   布地は表どうしを合わせ、あき止まり部分は返しぬいをします。

   ● 「地ぬいをする」（→P.75）を参照してください。

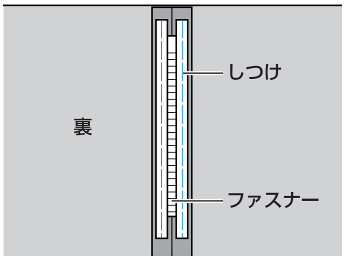
2. **ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。**



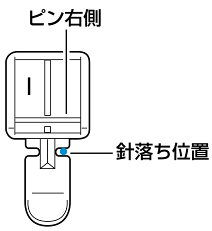
3. **ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。**



4. **ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。**



5. **片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。**



   ● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

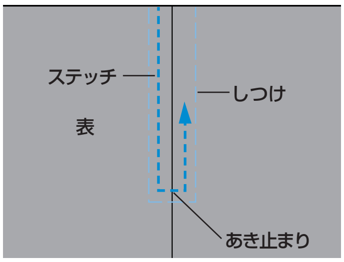
6 模様 3 を選択します。

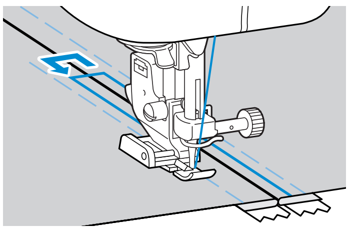
● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

⚠ 注意

● **片押え <I> を使用するときは、必ず直線［中］を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

7 布地の表からステッチをかけます。





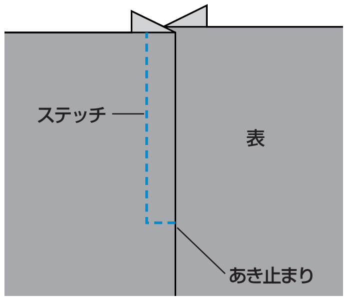
⚠ 注意

● **ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

8 しつけをほどきます。

片返し

布地の片側にステッチが入ります。脇あきや後ろあきのときに使用します。



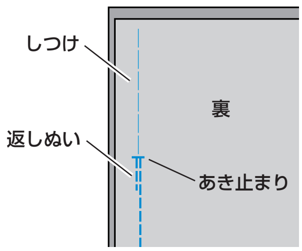
ここでは、図のように左側にステッチを入れる場合を例に説明します。

1 **ジグザグ押え <J> を取り付けて、あき止まりの位置まで地ぬいをします。**

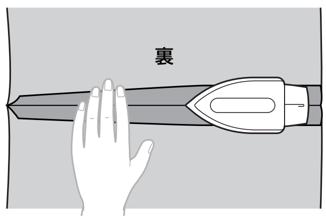
布地は表どうしを合わせ、あき止まり部分は返しぬいをします。

● 「地ぬいをする」（→P.75）を参照してください。

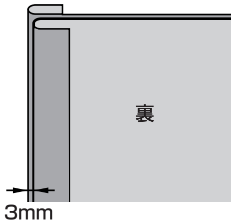
2 **ファスナーを付ける部分のでき上がり線にしつけをします。**



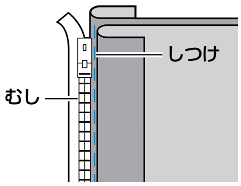
3 **ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。**



4 右側（ステッチが入らない方）のぬいしろを3mm出してアイロンをかけます。

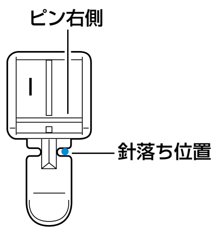


5 3mm出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で止めます。



6 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

例とは反対側をぬう場合は、左側のピンを取り付けます。



● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

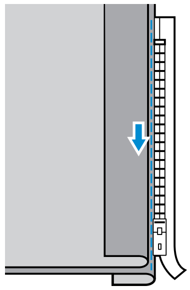
7 模様 3 を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

注意

● 片押え<I>を使用するときは、必ず直線［中］を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

8 3mm出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。

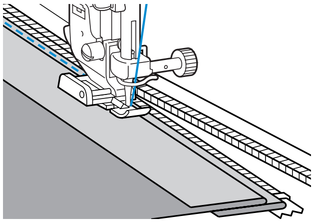


注意

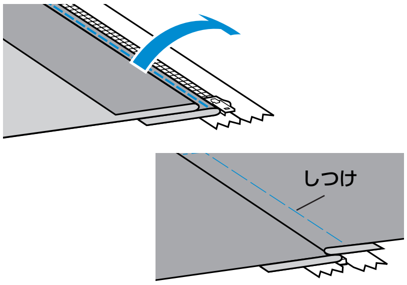
● ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

9 残り5cmほどまでぬったらいったんミシンを止めて針を下げたまま押えを上げます。

10 ファスナーを開いて続きをぬいます。

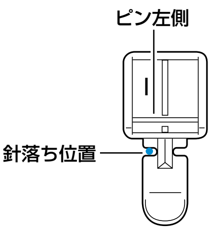


11 ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。



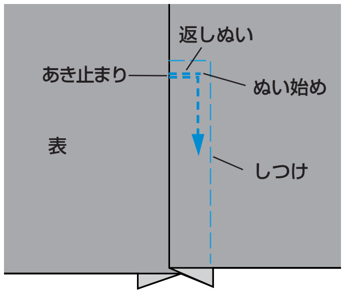
12 片押え <I> のピンの逆側を押えホルダーに取り付けます。

6 で右側に付けた場合は、左側に付け替えます。



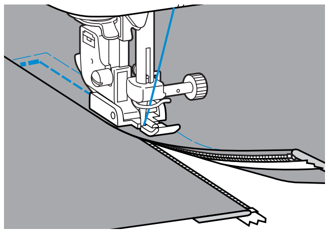
13 布地の表からステッチをかけます。

あき止まり側から返しぬいをし、押えの端をファスナーのむしにそわせてぬいます。



14 残り 5cm ほどまでぬったらいったんミシンを止め、針を下げたまま押えを上げます。

15 でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。



伸びる布地やゴムテープをぬう

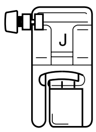
伸びる布地をぬったり、ゴムテープをぬい付けます。

名称	模様	キー	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
				自動	手動	自動	手動	
伸縮ぬい	5		伸びる布地	1.0	1.0~3.0	2.5	1.0~4.0	J
2点ジグザグ	9	–	ゴムテープ付け	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	J
3点ジグザグ	10		ゴムテープ付け	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	J
ゴムひもつけ	28	–	伸びる布地のゴムテープ付け	4.0	0.0~7.0	1.0	0.2~4.0	J

それぞれ以下の点に注意してぬってください。

伸縮ぬい

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

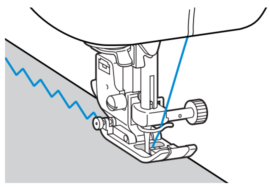


● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 模様 5 を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

3 布地を伸ばさないようにぬいます。

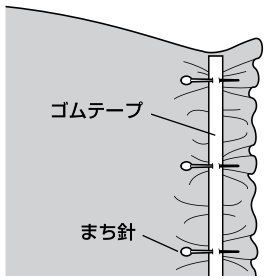


ゴムテープ付け

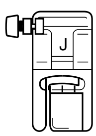
そで口やウエストなどにゴムテープをぬい付ける場合は、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

1 まち針で布地の裏側にゴムテープを止めます。

布地とゴムテープが均等になるように数か所止めます。



2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



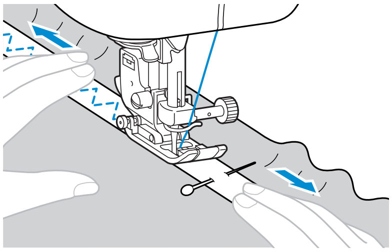
● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

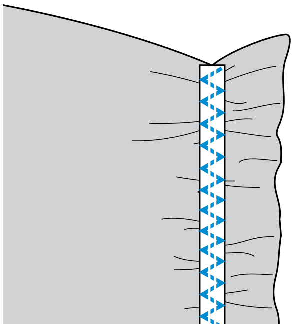
3 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。





注意

- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

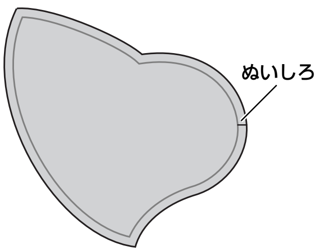
アップリケ／パッチワーク／キルトをぬう

アップリケやパッチワーク、キルトをぬうときに使用する模様について説明します。

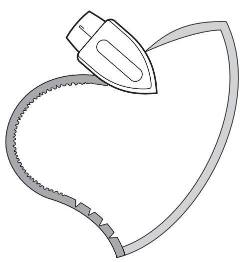
名称	模様	キー	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
				自動	手動	自動	手動	
ジグザグ	7	ー	アップリケ布のぬい付け（中基線／返しぬい）	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	J
	60	ー	アップリケキルト、フリーモーションキルト、サテンぬい	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	
アップリケ	19		アップリケ布のぬい付け	3.5	2.5~5.0	2.5	1.6~4.0	
	61	ー	アップリケ、バインディング	1.5	0.5~5.0	1.2	1.0~4.0	
ピーシング直線	57	ー	ピーシング用直線（押え右端から7mmのぬいしろ）	5.0	0.0~7.0	1.6	0.2~5.0	
	58	ー	ピーシング用直線（押え右端から7mmのぬいしろ）	2.0	0.0~7.0	1.6	0.2~5.0	
つき合わせ	22	ー	パッチワーク	4.0	0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	
	23	ー		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	
	24	ー		5.0	0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	
手ぬい風直線	59	ー	手ぬい風キルト直線	0.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	
キルティング模様	62	ー	キルトの背景ぬい	7.0	1.0~7.0	1.6	1.0~4.0	

アップリケ

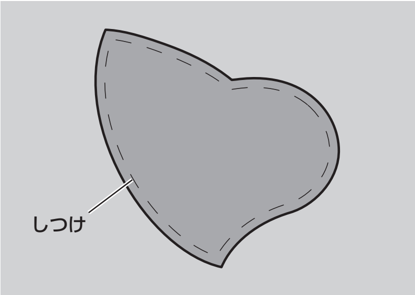
1 アップリケ布は３～5mmのぬいしろを付けて裁断します。

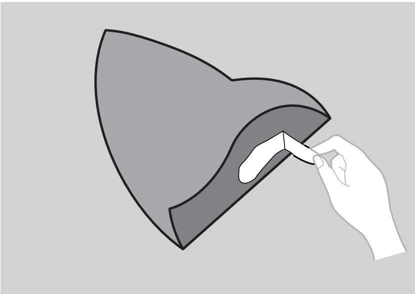


2 アップリケ布の裏に厚紙の型紙をあてて、アイロンででき上がり線を折ります。

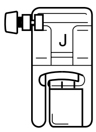


3 アップリケ布を表に返し、土台になる布にしつけまたはのりで止めます。





4 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

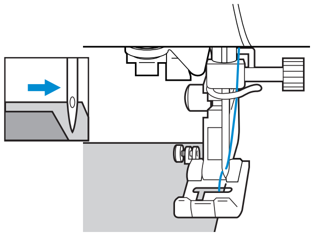


●「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

5 模様を選択します。

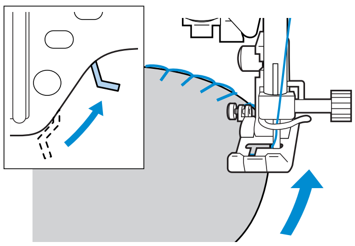
●「模様を選ぶ」（→ P.69）を参照してください。

6 プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。





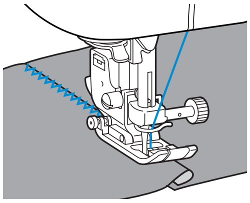
急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したまま、押えを上げて少しずつ方向を変えながらぬいます。

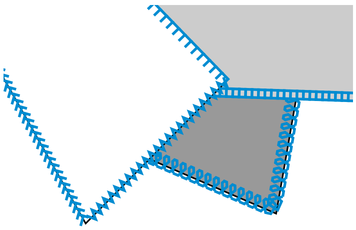


パッチワーク（クレイジーキルト）

1 上になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。

2 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。



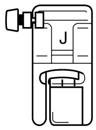


ピーシング

パッチワークで布と布（ピース）をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布には、すべて7.0mmのぬいしろを付けて裁断します。
ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から7.0mmのところをぬいます。

1 ピーシングする布のぬいしろを、しつけまたはまち針で止めます。

2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



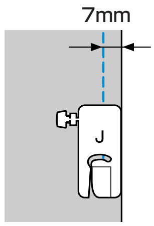
● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

3 模様 57 または 58 を選択します。

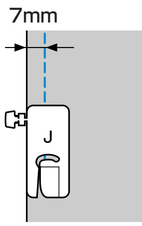
● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

4 布端を押えの端に合わせてぬいます。

■ **ぬいしろが右の場合**
押えの右端に布端を合わせ、57 の模様でぬいます。



■ **ぬいしろが左の場合**
押えの左端に布端を合わせ、58 の模様でぬいます。



お知らせ

- ぬいしろの幅を変更する（針位置を変更する）場合は、ジグザグの振り幅を調節します。「模様の幅を調節する」（→P.58）を参照してください。

キルティング

表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。別売のウォーキングフットやキルターを使用すると、きれいにぬうことができます。

1 キルティングする布をしつけで止めます。

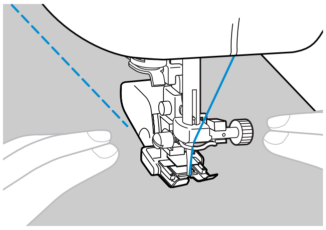
2 ウォーキングフットを取り付けます。

- 「ウォーキングフットを使用するとき」（→P.42）を参照してください。

3 模様を選択します。

- 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

4 押えの両側に手を置き、布をしっかりと張ってぬいます。

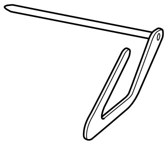


お願い

- ウォーキングフットを使用してぬうときは、速さをゆっくり〜中速にしてぬってください。

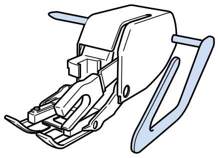
■ キルターを使用する

別売のキルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

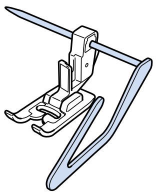


① ウォーキングフットまたは押えホルダーの穴に、キルターの棒を差し込みます。

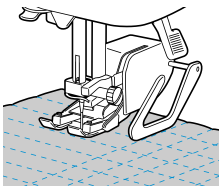
□ ウォーキングフット



□ 押えホルダー

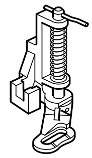


② ぬい終えたぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。



フリーモーションキルト

フリーモーションキルトをするときに、送り歯を下げて（ドロップフィード）布地をどの方向へも自由に動かせるようにします。
フリーモーションキルトをするときは、別売のキルト押えを使用します。



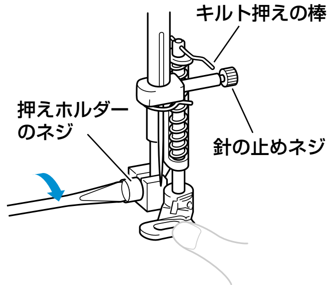
1 押えと押えホルダーを外します。

● 「押えホルダーを外すとき」を参照してください。（→ P.41）

2 キルト押えを押え棒の左側と下側に合わせます。

このときキルト押えの棒が、針の止めネジの上になるようにします。

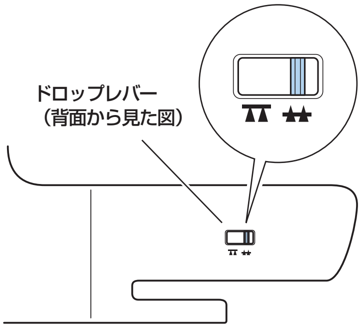
3 キルト押えを右手で押さえ、左手でドライバーを回して押えホルダーのネジをしめます。

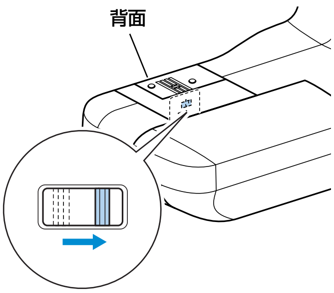


注意

● ネジは、付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

4 本体背面下側にあるドロップレバーを正面から見て右側（ ）に動かします。





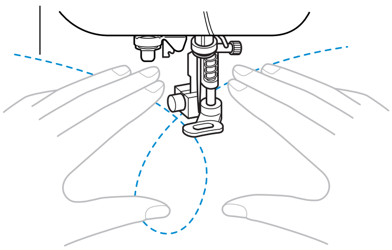
▶ 送り歯が下に下がります。

5 電源を入れ、模様を選択します。

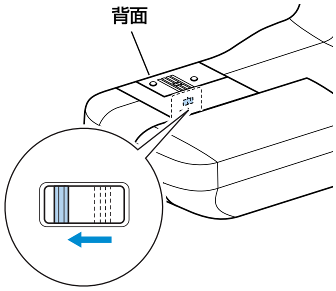
● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

6 両手で布地を張ってたるまないようにし、下絵をなぞるように布地を動かします。

ぬい始めとぬい終わりは、止めぬいをします。



7 ぬい終わったらドロップレバーを正面から見て左側（ ）に動かし、送り歯をもとにもどします。



● 通常は左側にしておきます。

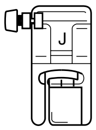
サテンぬい

サテン模様でジグザグの振り幅を変化させて、飾り模様をぬうことができます。スピードコントロールレバーの設定を変更して、振り幅の調節が手もとでできるようにします。ぬう速度は、フットコントローラーで調節します。

1 フットコントローラーを取り付けます。

● 「ミシンをスタートさせる」（→P.51）を参照してください。

2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

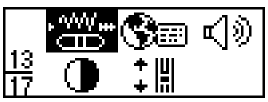


● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

3 電源を入れ、表示パネルの （設定キー）を押します。

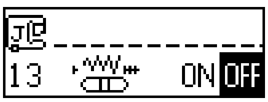
▷ 設定画面が表示されます。

4 ▲▼◀▶（矢印キー）を押して、 を反転表示させます。



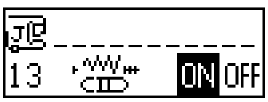
5 （OK キー）を押します。

▷ 振り幅コントロールを設定する画面が表示されます。



6 ◀ を押して ON を反転表示させます。

▶ を押すと、OFF にもどります。



▷ スピードコントロールレバーでジグザグの振り幅が変更できるようになります。

7 （OK キー）を押します。

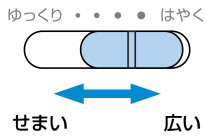
▷ 最初の画面にもどります。

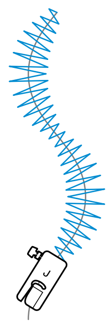
8 模様 60 を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

9 ぬいながらスピードコントロールレバーを動かして振り幅を調節します。

レバーを左に動かすと振り幅はせまくなり、右に動かすと広くなります。





● ぬう速度は、フットコントローラーで調節します。

10 ぬい終わったら、振り幅コントロールを OFF にもどします。

お知らせ

● ぬい目の長さを0.3～0.5mmに設定すると、きれいにぬうことができます。

丈夫にしたいところをぬう

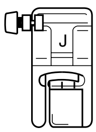
そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にしたり、ポケット口などのあき止まり部分を補強するときに使用します。

名称	模様	キー	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
				自動	手動	自動	手動	
三重ぬい	4		そでや股下などのぬい目を丈夫にする	0.0	0.0〜7.0	2.5	1.5〜4.0	J
かんどめ	54	ー	ポケット口などのあき止まりの補強	2.0	1.0〜3.0	0.4	0.3〜1.0	A
ダーニング	52	ー	普通地のつくろいぬい	7.0	2.5〜7.0	2.0	0.4〜2.5	
	53	ー	厚地のつくろいぬい	7.0	2.5〜7.0	2.0	0.4〜2.5	

三重ぬい

そでぐりや股ぐりなどぬい目を丈夫にしたいところをぬうときに用います。

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

2 模様 4 を選択します。

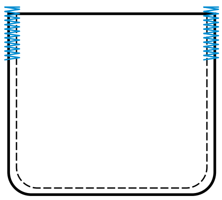
● 「模様を選ぶ」（→ P.69）を参照してください。

3 ミシンをスタートさせます。

● 「ミシンをスタートさせる」（→ P.51）を参照してください。

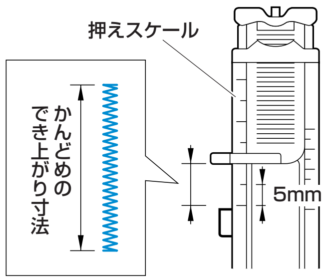
かんどめ

かんどめはポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに用います。
ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめぬいをする長さを決めます。

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り（1 目盛り 5mm）を合わせて、長さを決めます。



● 最大約 28mm のかんどめができます。

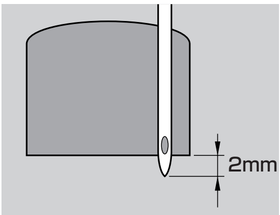
2 ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

3 模様 54 を選択します。

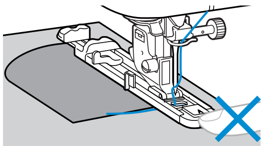
● 「模様を選ぶ」（→ P.69）を参照してください。

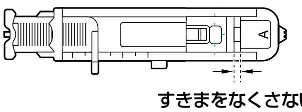
4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より 2mm 手前に針が刺さる位置で押えを下げます。



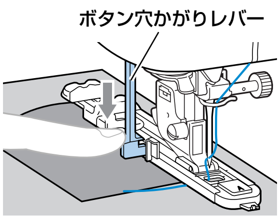
上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

● 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。かんどめの大きさが正確にぬえません。

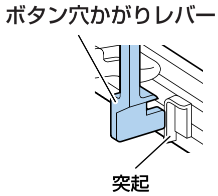




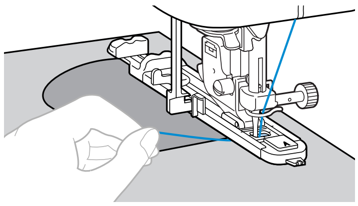
5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



6 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▷ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

7 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

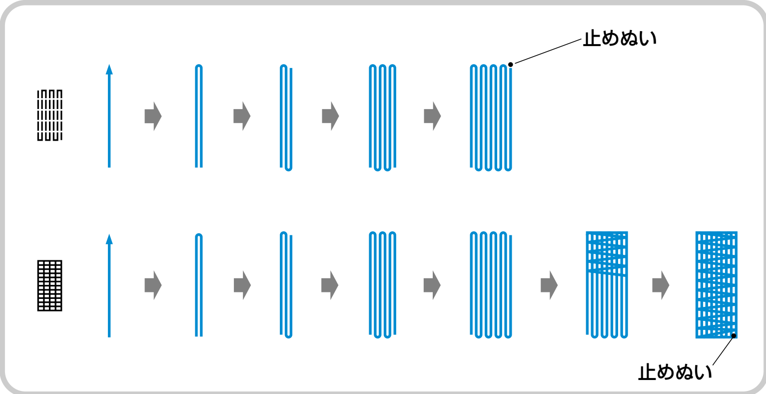
8 ボタン穴かがりレバーをもとにもどします。

お知らせ

● 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。「ぬい目の長さを調節する」（→ P.59）を参照してください。

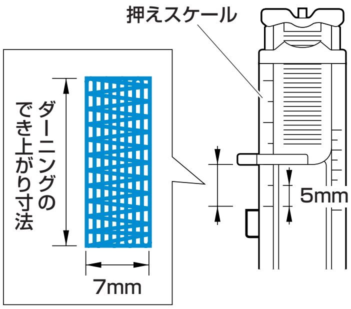
つくろいぬい（ダーニング）

布地がやぶれたときなどに、つくろいぬいをします。
ダーニングは、次の順でぬわれます。



1 **つくろいぬいをする長さを決めます。**

ボタン穴かがり押え<A>の押えスケールの目盛り（1 目盛り 5mm）を合わせて、長さを決めます。



● 最大約 28mm のダーニングができます。

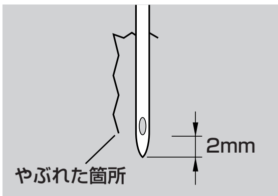
2 **ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。**

● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

3 **模様 52 または 53 を選択します。**

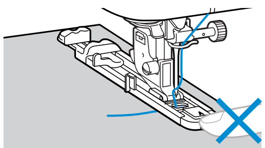
● 「模様を選ぶ」（→ P.69）を参照してください。

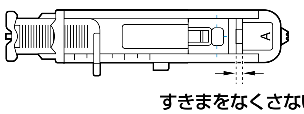
4 **ダーニングぬいをする範囲の 2mm 手前に針が刺さるように布地を置き、押えを下げます。**



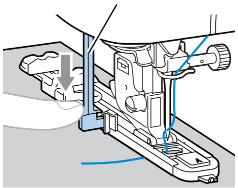
上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

● 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。ダーニングの大きさが正確にぬえません。

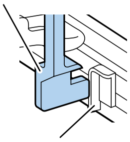




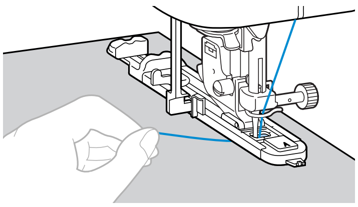
5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



6 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



▷ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

7 糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

8 ボタン穴かがりレバーをもとにもどします。

お知らせ

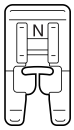
● 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く(ぬい目をあらく)します。「ぬい目の長さを調節する」(→ P.59)を参照してください。

はとめ穴を作る

ベルトの穴などに使用するはとめ穴（アイレット）を作ります。はとめ穴は、7mm · 6mm · 5mmの３つの大きさがあります。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
アイレット	56 ○	ベルトの穴かがりなど	7.0	7.0／6.0／5.0	7.0	7.0／6.0／5.0	N

1 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

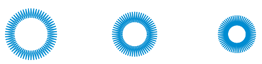


● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 模様 56 ○ を選択します。

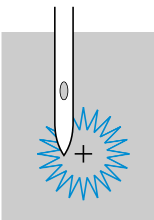
● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

3 ジグザグの振り幅、またはぬい目の長さのどちらかを調節して、穴の大きさを選びます。



● 「模様の幅と長さを調節する」（→P.58）を参照してください。

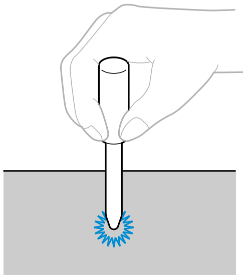
4 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。



5 ミシンをスタートさせます。

▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

6 付属のはとめ穴パンチで穴をあけます。



● はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いて穴をあけてください

お知らせ

● 細い糸でぬうと、ぬい目があらくなることがあります。その場合は、重ねて2回ぬうときれいにできあがります。

飾りぬいをする

いろいろな飾りぬいができます。

名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
ファゴティング	26	布地と布地の間を離してかがる	5.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	J
	27		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	
つき合わせ	22	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	
	23		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	
	24		5.0	0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	
シェルタック	20	シェルタック	4.0	0.0~7.0	2.5	0.2~4.0	
スモッキング	25	スモッキング	5.0	0.0~7.0	1.6	1.0~4.0	
	26		5.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	
	27		5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	
スカラップ	21	サテンスカラップ	5.0	2.5~7.0	0.5	0.1~1.0	N
飾りぬい	33	レース付け、ふち飾り、ヘアルームなど	3.5	1.5~7.0	2.5	1.6~4.0	
	34		6.0	1.5~7.0	3.0	1.5~4.0	
	35	薄地・普通地・平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	3.5	1.5~4.0	
	36		5.0	1.5~7.0	4.0	1.5~4.0	
	37		5.0	1.5~7.0	2.5	1.5~4.0	
	38		5.0	1.5~7.0	2.0	1.5~4.0	
	39	ふち飾り、リボン通し、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	3.0	1.5~4.0	
	40	ヘアルームなど	6.0	1.5~7.0	1.6	1.0~4.0	
	41		5.0	1.5~7.0	1.6	1.0~4.0	

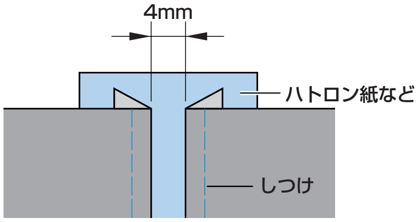
名称	模様	用途	振り幅		ぬい目の長さ		押え
			自動	手動	自動	手動	
飾りぬい	29	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	3.0	2.0~4.0	J
	30		4.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	
	31		5.5	0.0~7.0	1.6	1.0~4.0	
	32		5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	N

ファゴティング

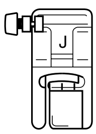
布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに用います。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。

2 ハトロン紙などの薄い紙に4mmの間隔をあけて、布地をしつけします。



3 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

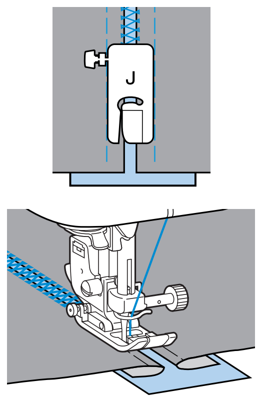
4 模様 26 または 27 を選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

5 ジグザグの振り幅を7.0mmに設定します。

● 「模様の幅を調節する」（→P.58）を参照してください。

6 押えの中心を布と布の中心に合わせてぬいます。

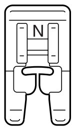


7 ぬい終わったら、紙をやぶいて取り除きます。

スカラップ

貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やハンカチのふち飾りなどに用います。

1 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

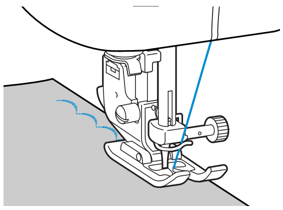


● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 模様 21  を選択します。

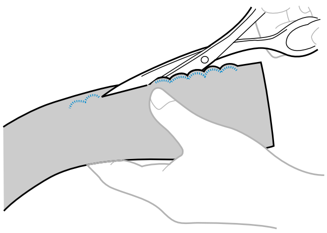
● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

3 模様が布端にかからないように、布端から少し離してぬいます。



● ぬう前に布地にアイロン用スプレーのりをかけておくと、きれいに仕上がります。

4 ぬい目にそって布端を切ります。

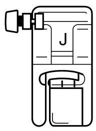


● 糸を切らないように注意してください。

スモッキング

ギャザーの上に模様や刺しゅうをした飾りぬいのことを「スモッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに用います。

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

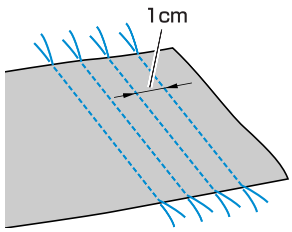


● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

2 直線を選択し、ぬい目の長さを4.0mm、糸調子を弱めにします。

● 「ぬい目の長さを調節する」（→P.59）、「上糸の調子を変更する」（→P.56）を参照してください。

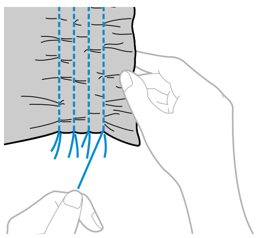
3 1cmの間隔をあけて、平行に数本ぬいます。



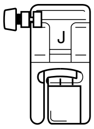
● 返しぬいと糸切りはしないでください。

4 下糸を引いてギャザーを寄せます。

アイロンでギャザーを整えておきます。



5 模様に合わせてジグザグ押え<J>を取り付けます。

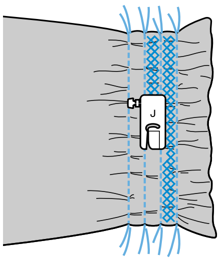


● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

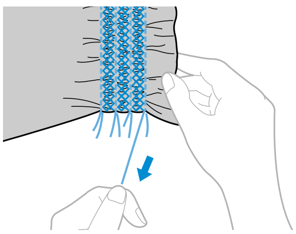
6 模様 25 または 26 、27 選択します。

● 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

7 直線ぬいの間をぬいます。



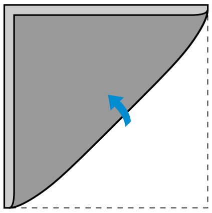
8 直線ぬいの糸を抜き取ります。



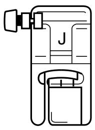
シェルタック

貝殻を並べたような連続したひだを作ることを「シェルタック」といいます。ふちどりや、ブラウスの胸もと、そで口の飾りなどに用います。薄地の布地を使用します。

1 布地をバイアスに折ります。



2 ジグザグ押え <J> を取り付けます。

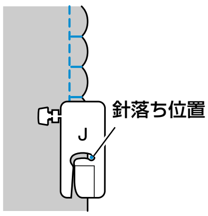


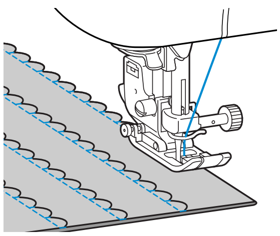
● 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

3 模様 20 を選択し、上糸を強めにします。

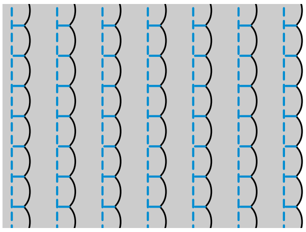
● 「模様を選ぶ」（→P.69）、「上糸の調子を変更する」（→P.56）を参照してください。

4 針が布端から少し外に落ちるようにぬいます。





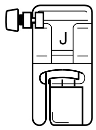
5 布地を開き、折り山を片側に倒してアイロンをかけます。



つき合わせ

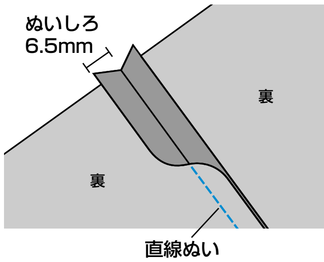
つき合わせたぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに用います。

1 ジグザグ押え <J> を取り付けます。



- 「押えを交換する」（→P.39）を参照してください。

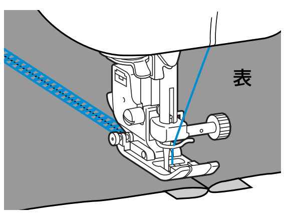
2 布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。



3 模様 22 または 23 、24 選択します。

- 「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

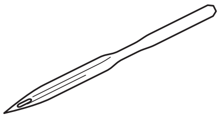
4 布地を表に返し、押えの中心と布と布の中心を合わせてぬいます。



ヘアルーム

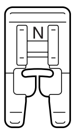
別売のウィングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテーブルクロスなどに用います。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

1 ウィングニードルを取り付けます。



- ウィングニードルは、130/705H 100/16 を使用してください。
- 針の取り付け方は、「針を交換する」(→P.38) を参照してください。
- ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に、手で糸を通してください。

2 模様ぬい押え <N> を取り付けます。



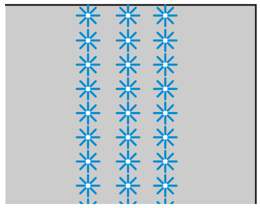
- 「押えを交換する」(→P.39) を参照してください。

3 模様を選択します。

模様は 33 . 34 . 35 . 36 . 37 . 38 . 39 . 40 . 41 が適しています。

- 「模様を選ぶ」(→P.69) を参照してください。
- ジグザグの振り幅は、6.0mm以下に設定してください。

4 ミシンをスタートさせます。



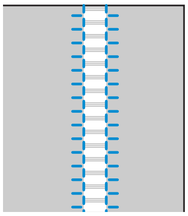
注意

- **ジグザグの振り幅は、6.0mm以下に設定してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**
- **ジグザグの振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

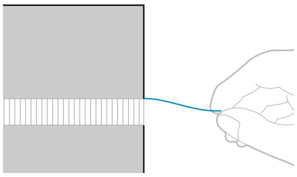
ヘアルームの一種で、部分的に糸を抜き取ってかがるぬい方を「ドロンワーク」といいます。織りがゆるい布を使うと、きれいに仕上がります。
ここではドロンワークのぬい方の例を2つ紹介します。

■ ドロンワーク（例 1）

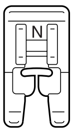
模様を左右反転させて、2 回ぬいます。



① 布地の織り糸を数本抜き取ります。

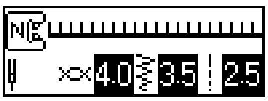


② 模様ぬい押え <N> を取り付けます。



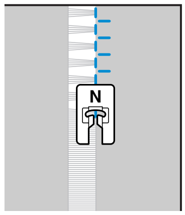
●「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

③ 模様 33 を選択します。



●「模様を選ぶ」（→ P.69）を参照してください。

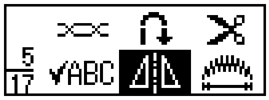
④ 布地の表から織り糸を抜いた右端をぬいます。



⑤ 表示パネルの （設定キー）を押します。

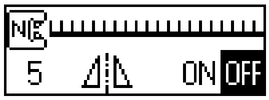
▶ 設定画面が表示されます。

⑥ ▲▼◀▶（矢印キー）を押して、 を反転表示させます。



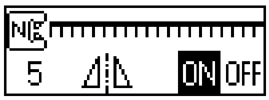
⑦ （OK キー）を押します。

▶ 模様の反転を設定する画面が表示されます。



⑧ ◀ を押して ON を反転表示させます。

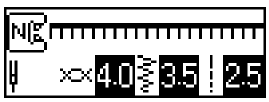
▶ を押すと、OFF にもどります。



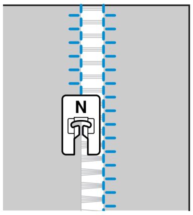
▶ 模様が反転します。

⑨ （OK キー）を押します。

▶ 最初の画面にもどります。

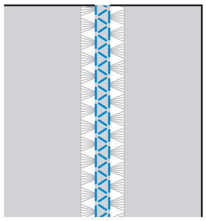


⑩ 模様が対象になるように、反対側をぬいます。

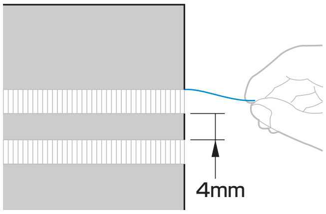


⑪ 模様の反転を OFF にもどします。

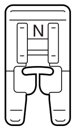
■ ドロンワーク（例 2）



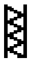
① 布地の織り糸を数本抜き取り、約 4mm の間隔をあけて、同様に抜き取ります。



② 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

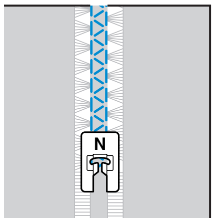


● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

③ 模様 36  選択します。

● 「模様を選ぶ」（→ P.69）を参照してください。

④ 抜き取った間の布地の中心をぬいます。



いろいろな模様をぬう

サテンステッチ、クロスステッチ、飾りサテンがぬえます。すべて、模様ぬい押え <N> を取り付けてぬいます。

模様をきれいにぬうには

きれいに模様を仕上げるために、以下の点に注意してください。

■ 布地

伸びる布地や薄地、織りがあらい布地は、裏に別売の接着芯を貼るか、またはトレーシングペーパーなどの薄い紙を布地の下に敷いてぬいます。サテンステッチをぬうときは、ぬい縮みやぬい詰まりが起きることがあるので、必ず接着芯を貼ってください。

■ 針・糸

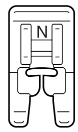
針は、薄地・普通地・伸びる布地のときは、ブラザー専用ゴールデン針、厚地のときは家庭用ミシン針（HA × 1）14番を使用します。糸は50～60番を使用します。

■ 試しぬい

布地の種類や厚さ、接着芯などによって模様がくずれることがあります。必ず試しぬいをしてください。また、ぬうときには布地がずれないように、手を添えてぬってください。

模様のぬい方

1 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

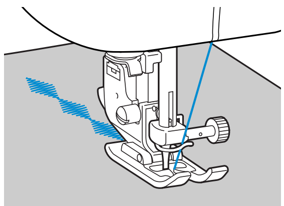


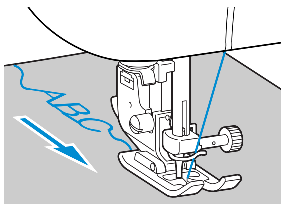
● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

2 模様を選択します。

● 「模様を選ぶ」の ④ ～ ⑨ （→ P.69）を参照してください。

3 ミシンをスタートさせます。





● 模様は矢印の方向にぬわれます。

4 止めぬいをします。

アルファベット・ひらがな・カタカナ・漢字の場合は、１文字ずつ自動的に止めぬいが行われます。

- 文字以外の模様をぬうときは、あらかじめ自動止めぬいを設定しておくと便利です。「自動で止めぬいをする」（→P.58）を参照してください。

5 **ぬい終わったら、ぬい始めの糸や模様の間の渡り糸をはさみで切ります。**

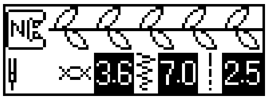


模様を組み合わせる

複数の模様を組み合わせてぬうことができます。

1 **1つめの模様を選択し、OK（OKキー）を押します。**

▶ 1つめの模様が選択され、液晶画面に表示されます。



- この時点でぬうと、ミシンを止めるまで1つの模様がくり返しぬわれます。

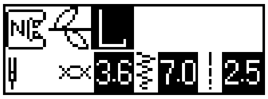
2 **表示パネルの ⊕（組み合わせキー）を押します。**

▶ 模様を選ぶ画面にもどります。

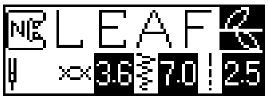
3 **次の模様を選択し、OK（OKキー）を押します。**

グループを変更するときは、（模様選択キー）を押します。
選んだ模様を取り消すときは、表示パネルの Ⓒ（削除キー）を押します。最後に選んだ模様が取り消されます。

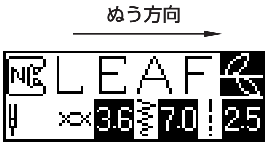
▶ 組み合わせた模様が液晶画面に表示されます。



4 **2 〜 3 をくり返します。**



5 模様が選択できたら、ミシンをスタートさせます。



▷ 液晶画面に表示された順番に、模様がぬわれます。



お知らせ

- 模様は 70 個まで組み合わせることができます。
- 実用模様のグループの一部は組み合わせられません。
- 複数の模様を組み合わせたときは、液晶画面に表示されたパターンがぬい終わると、ミシンは止まります。組み合わせたパターンをくり返してぬうときは、「模様をくり返しぬう」を参照してください。
- 組み合わせた模様を登録しておくことができます。「模様を登録する」（→ P.120）を参照してください。

模様をくり返しぬう

模様をくり返してぬうときは、以下の操作を行います。

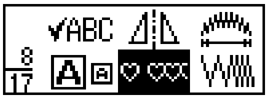
1 模様のパターンを指定します。

- 「模様を組み合わせる」（→前ページ）を参照してください。

2 表示パネルの （設定キー）を押します。

▷ 設定画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶（矢印キー）を押して、 を反転表示させます。



4 OK （OK キー）を押します。

▷ パターンのくり返しを設定する画面が表示されます。



5 ◀ を押して （連続）を反転表示させます。

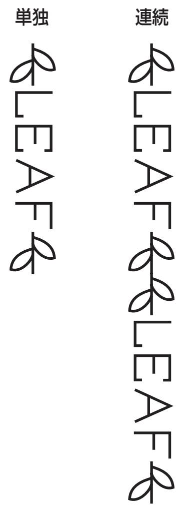
▶ を押すと、 （単独）にもどります。



▷ 指定したパターンがくり返してぬえるようになります。

6 OK （OK キー）を押します。

▷ 最初の画面にもどります。



お知らせ

- 連続に設定した場合、ミシンを止めるまでくり返しぬわれます。
- 電源を切ると、もとの設定にもどります。

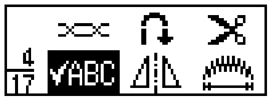
指定した模様を確認する

模様は 70 個まで組み合わせることができます。指定した模様が液晶画面に表示しきれないときは、以下の手順で模様を確認します。

1 表示パネルの (設定キー)を押します。

▶ 設定画面が表示されます。

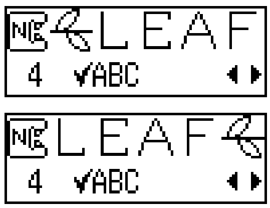
2 ▲▼◀▶（矢印キー）を押して、✓ABC を反転表示させます。



3 OK（OK キー）を押します。

▶ 模様を確認する画面が表示されます。

4 ◀ または ▶ を押して表示を切り替え、模様を確認します。



5 OK（OK キー）を押します。

▶ 最初の画面にもどります。

模様の大きさを変える

アルファベット（ゴシック体・アウトライン）・ひらがな・カタカナ・漢字は、模様の大きさを大／小に切り替えることができます。
その他の模様は、大きさが変更できません。

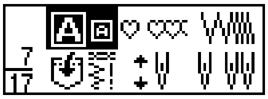
1 模様を選択します。

アルファベット（ゴシック体・アウトライン）・ひらがな・カタカナ・漢字のいずれかのグループの模様を選択します。

2 表示パネルの （設定キー）を押します。

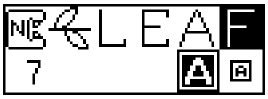
▷ 設定画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶（矢印キー）を押して、 を反転表示させます。



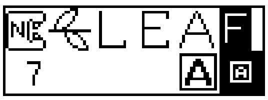
4 OK （OK キー）を押します。

▷ サイズを指定する画面が表示されます。



5 ◀ または ▶ を押してサイズを切り替えます。

は小さく、 は大きくなります。



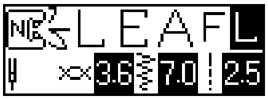
▷ 大きさが変更されます。

6 OK （OK キー）を押します。

▷ 最初の画面にもどります。

7 文字を選択します。

▷ 小の模様が選択されます。





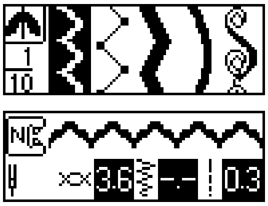
お知らせ

- 通常の大きさは大です。小に切り替えると、小の模様が連続して組み合わせられます。
- 複数の模様を組み合わせるときは、選択した模様ごとに大きさを指定します。

模様の密度を変える

飾りサテンを選んだ場合は、模様の密度を変えることができます。

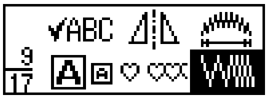
1 **飾りサテングループ の中から模様を選択します。**



2 **表示パネルの（設定キー）を押します。**

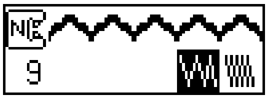
▶ 設定画面が表示されます。

3 **▲▼◀▶（矢印キー）を押して、を反転表示させます。**



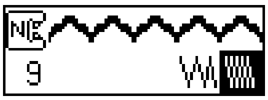
4 **OK（OK キー）を押します。**

▶ 密度を変更する画面が表示されます。



5 **◀ または ▶ を押して密度を切り替えます。**

はあらく、は細かくなります。



6 **OK（OK キー）を押します。**

▶ 最初の画面にもどり、飾りサテンの密度が変更されます。

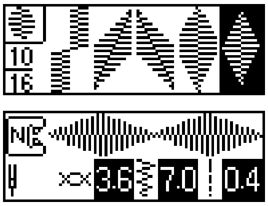
注意

● **密度を細かく設定すると、糸によってはぬいづまりが起こり、針が折れることがあります。**

模様の長さを変える

サテンステッチ１つ分の模様の長さを、５段階で変えることができます。

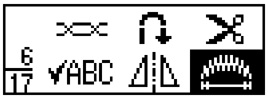
1 **サテンステッチグループ の中から模様を選択します。**



2 **表示パネルの （設定キー）を押します。**

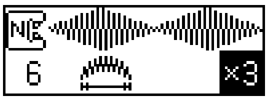
▷ 設定画面が表示されます。

3 **▲▼◀▶（矢印キー）を押して、 を反転表示させます。**



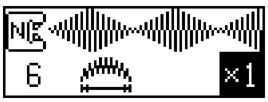
4 **（OK キー）を押します。**

▷ サテンステッチの長さを変更する画面が表示されます。



5 **◀ または ▶ を押して長さを切り替えます。**

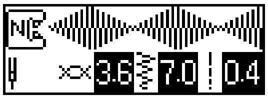
×1 ～ ×5 の範囲で指定できます。

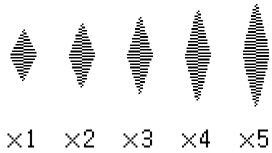


▷ サテンステッチの長さが変更されます。

6 **（OK キー）を押します。**

▷ 最初の画面にもどります。





模様を反転する

模様の左右を反転させることができます。

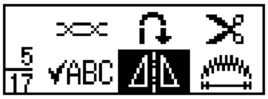
1 模様を選択します。

●「模様を選ぶ」（→P.69）を参照してください。

2 表示パネルの（設定キー）を押します。

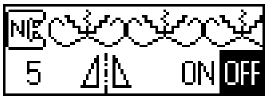
▷ 設定画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶（矢印キー）を押して、を反転表示させせます。



4 （OK キー）を押します。

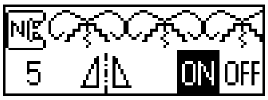
▷ 模様の反転を設定する画面が表示されます。



5 ◀ を押して ON を反転表示させせます。

▶ を押すと、OFF にもどります。

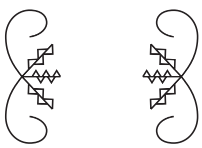
▷ 模様が反転します。



6 （OK キー）を押します。

▷ 最初の画面にもどります。

通常　　反転



お知らせ

● 実用模様の中の一部の模様も反転することができます。「ドロンワーク」（→P.110）を参照してください。
● 反転させた模様を組み合わせることもできます。



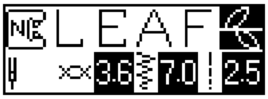
模様を登録する

組み合わせた模様を登録しておくことができます。登録した模様は電源を切っても消えないので、いつでも呼び出してぬうことができます。名前などを登録すると便利です。５つまで登録できます。

■ 模様の登録

1 登録する模様を組み合わせます。

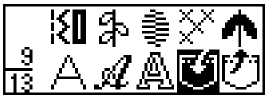
●「模様を組み合わせる」（→ P.113）を参照してください。



2 表示パネルの （模様選択キー）を押します。

▶ 模様のグループを選ぶ画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶（矢印キー）を押して、 を反転表示させます。

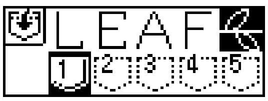


4 OK （OK キー）を押します。

▶ 記憶する場所（ポケット）を選択する画面が表示されます。

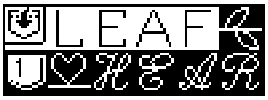
5 ◀ または ▶ を押し、１～５のポケットの中から登録するポケットを反転表示させます。

1 のポケットは模様が登録されていません。 1 のポケットは、すでに模様が登録されています。



6 OK （OK キー）を押します。

▶ 選択したポケットに記憶されている内容が下段に表示されます。



7 内容を確認し、 OK （OK キー）を押します。

1 のポケットに記憶されていた内容は上書きされます。

▶「記憶中」と表示され、模様がポケットに登録されます。

● 記憶中は、電源を切らないでください。途中で電源を切ると、模様データが消えることがあります。

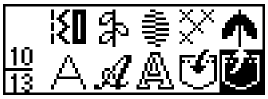
▶ 登録が終わると、最初の画面にもどります。

■ 模様の呼び出し

1 表示パネルの （模様選択キー）を押します。

▶ 模様のグループを選ぶ画面が表示されます。

2 ▲▼◀▶（矢印キー）を押して、 を反転表示させます。

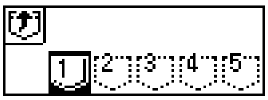


3 OK （OK キー）を押します。

▶ ポケットを選択する画面が表示されます。

4 ◀ または ▶ を押し、１～５のポケットの中から呼び出す模様が登録されているポケットを反転表示させます。

1 のポケットに模様が登録されています。



5 （OK キー）を押します。

▶ 選択したポケットに記憶されている内容が表示されます。

6 内容を確認し、（OK キー）を押します。



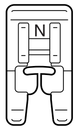
別のポケットを選択する場合は（もどるキー）を押します。

▶ 最初の画面にもどり、ポケットに登録されていた模様が呼び出されます。

模様を調整する

布地の種類やぬう速度などによって、模様が正しくぬえないことがあります。その場合は、実際にぬう布地のはぎれを用意し、試しぬいをして模様を調整します。

1 模様ぬい押え <N> を取り付けます。

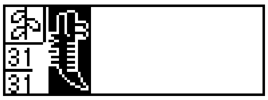


● 「押えを交換する」（→ P.39）を参照してください。

2 表示パネルの（模様選択キー）を押します。

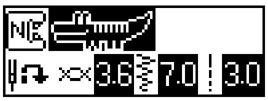
▶ 模様のグループを選ぶ画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶（矢印キー）を押して、を反転表示させ、を選択します。



▶ 調整用模様が選択されます。

4 ミシンをスタートさせます。

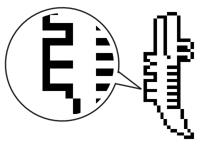


▶ 調整用模様がぬわれます。

▶ 模様が最後までぬわれると、ミシンが止まります。

5 ぬわれた模様を確認します。

正しい状態のときは、模様の図の部分が均等になっています。

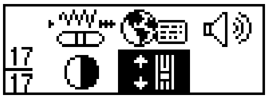


正しくぬえなかったときは、以下の手順に従って模様を調整します。

6 **表示パネルの (設定キー) を押します。**

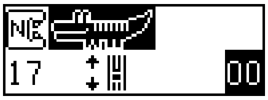
▷ 設定画面が表示されます。

7 **▲▼◀▶ (矢印キー) を押して、 を反転表示させます。**



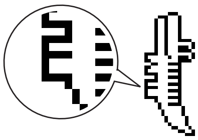
8 **(OK キー) を押します。**

▷ 模様の調整をする画面が表示されます。

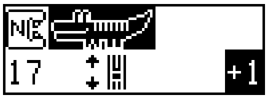


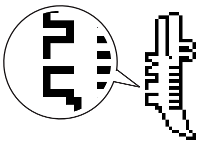
9 **◀ (−) または ▶ (+) を押します。**

ぬわれた模様の状態によって調整します。

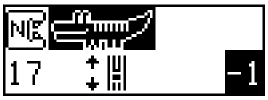


→ ▶ を押し、値を増やします。





→ ◀ を押し、値を減らします。



10 **もう一度ミシンをスタートさせ、模様を確認します。**

正しくぬえるようになるまで調整します。

11 **正しくぬえるようになったら、 (OK キー) を押します。**

▷ 最初の画面にもどります。

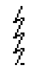
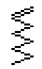
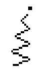
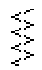
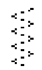
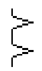
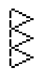
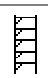
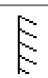
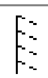
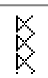
4 付録

ここでは、ミシンのお手入れと困ったときの対処方法などを紹介します。

模様設定一覧

模様の用途や振り幅・ぬい目の長さ、２本針が使用できるかなどを一覧にしています。

実用模様

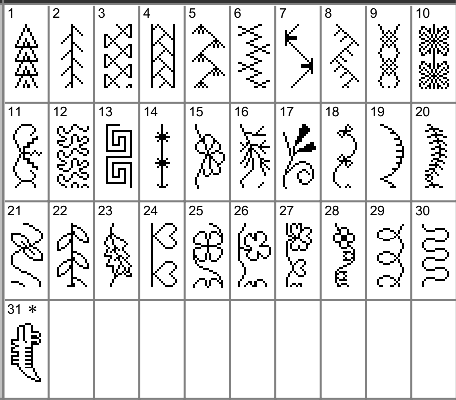
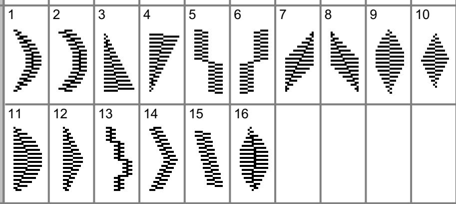
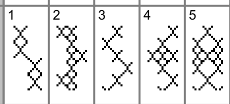
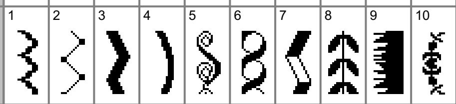
名称		模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		2本針	返しぬいスイッチ	プログラム糸切り	ウォーキングフット
					自動	手動	自動	手動				
直線	左	1	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	0.0	0.0~7.0	2.5	0.2~5.0	○	返しぬい	返しぬい＋糸切り	×
直線	左	2	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	0.0	0.0~7.0	2.5	0.2~5.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	○
直線	中	3	J／I	ファスナー付け、地ぬい、ギャザー、ピンタックなど	—	—	2.5	0.2~5.0	○	返しぬい	返しぬい＋糸切り	○（返しぬいはしないでください。）
三重ぬい		4 	J	袖つけ、股下ぬい、伸びる布地、飾りぬい	0.0	0.0~7.0	2.5	1.5~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
伸縮ぬい		5 	J	伸びる布地、飾りぬい	1.0	1.0~3.0	2.5	1.0~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
しつけぬい		6	J	仮止め	0.0	0.0~7.0	—	—	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
ジグザグ	中	7 	J	たち目かがり、アップリケ	3.5	0.0~7.0	1.4	0~4.0	○	返しぬい	返しぬい＋糸切り	×
ジグザグ	右	8 	J	針位置右からぬい始め	3.5	2.5~5.0	1.4	0.3~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	○
2点ジグザグ		9 	J	普通地・伸びる布地のたち目かがり、ゴムひも付け、つくろいぬいなど	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	○
3点ジグザグ		10 	J	普通地・伸びる布地のたち目かがり、ゴムひも付け、つくろいぬいなど	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
たち目かがり		11 	G	薄地・普通地のたち目かがり	3.5	2.5~5.0	2.0	1.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
たち目かがり		12 	G	厚地のたち目かがり	5.0	2.5~5.0	2.5	1.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
たち目かがり		13 	G	厚地のたち目かがり、飾りぬい	5.0	3.5~5.0	2.5	1.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
たち目かがり		14 	J	伸びる布地のたち目かがり	5.0	0.0~7.0	2.5	0.5~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
たち目かがり		15 	J	厚地・伸びる布地のたち目かがり	5.0	0.0~7.0	2.5	0.5~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
たち目かがり		16 	J	伸びる布地のたち目かがり、飾りぬい	4.0	0.0~7.0	4.0	1.0~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		2本針	返しぬいスイッチ	プログラム糸切り	ウォーキングフット
				自動	手動	自動	手動				
まつりぬい	17	R	普通地のまつりぬい	0	3←~3→	2.0	1.0~3.5	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	18	R	伸びる布地のまつりぬい	0	3←~3→	2.0	1.0~3.5	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
アップリケ	19	J	アップリケ	3.5	2.5~5.0	2.5	1.6~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
シェルタック	20	J	シェルタック	4.0	0.0~7.0	2.5	0.2~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
サテンスカラップ	21	N	スカラップ	5.0	2.5~7.0	0.5	0.1~1.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
つきあわせ	22	J	パッチワークや飾りぬい	4.0	0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	23	J	パッチワークや飾りぬい、トリコット地などのたち目かがり兼用地ぬい	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	24	J	パッチワークや飾りぬい	5.0	0.0~7.0	1.2	0.2~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
スモッキング	25	J	スモッキング、飾りぬい	5.0	0.0~7.0	1.6	1.0~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
ファゴティング	26	J	ファゴティング、飾りぬい	5.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	27	J	ファゴティング、飾りぬい	5.0	2.5~7.0	2.5	1.0~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
ゴムひもつけ	28	J	伸びる布地のゴムひも付け	4.0	0.0~7.0	1.0	0.2~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
飾りぬい	29	J	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	3.0	2.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	30	J	飾りぬい	4.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	31	J	飾りぬい	5.5	0.0~7.0	1.6	1.0~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	32	N	飾りぬい、ゴムひも付け	5.0	1.5~7.0	1.0	0.2~4.0	○	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	33	N	レース付け、ふち飾り、ヘアルームなど	3.5	1.5~7.0	2.5	1.6~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		2本針	返しぬいスイッチ	プログラム糸切り	ウォーキングフット
				自動	手動	自動	手動				
飾りぬい	34	N	ふち飾り、ヘアルームなど	6.0	1.5~7.0	3.0	1.5~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	35	N	薄地・普通地平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	3.5	1.5~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	36	N	薄地・普通地平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	4.0	1.5~4.0	◯	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	37	N	薄地・普通地平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	2.5	1.5~4.0	◯	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	38	N	薄地・普通地平織り布のふち飾り、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	2.0	1.5~4.0	◯	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	39	N	ふち飾り、リボン通し、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	3.0	1.5~4.0	◯	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	40	N	飾りぬい、スモッキング、ヘアルームなど	6.0	1.5~7.0	1.6	1.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
	41	N	飾りぬい、スモッキング、ヘアルームなど	5.0	1.5~7.0	1.6	1.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
ボタン穴かがり	42	A	薄地・普通地のねむり穴、横穴	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	×	自動止めぬい	糸切り	×
	43	A	力がかかるところの横穴	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	×	自動止めぬい	糸切り	×
	44	A	厚地の横穴	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	×	自動止めぬい	糸切り	×
	45	A	張りのある素材の両止め用	5.0	3.0~5.0	0.4	0.2~1.0	×	自動止めぬい	糸切り	×
	46	A	伸びる布地・編み地用	6.0	3.0~6.0	1.0	0.5~2.0	×	自動止めぬい	糸切り	×
	47	A	伸びる布地用	6.0	3.0~6.0	1.5	1.0~3.0	×	自動止めぬい	糸切り	×
	48	A	玉ぶち穴かがり（バウンドボタンホール）用	5.0	0.0~6.0	2.0	0.2~4.0	×	自動止めぬい	糸切り	×
	49	A	厚地・毛足の長い布地のはとめ穴	7.0	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0	×	自動止めぬい	糸切り	×
	50	A	普通地・厚地のはとめ穴	7.0	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0	×	自動止めぬい	糸切り	×
	51	A	厚地・毛足の長い布地の横穴	7.0	3.0~7.0	0.5	0.3~1.0	×	自動止めぬい	糸切り	×

名称	模様	押え	用途	振り幅		ぬい目の長さ		2本針	返しぬいスイッチ	プログラム糸切り	ウォーキングフット
				自動	手動	自動	手動				
ダーニング	52	A	普通地のつくろいぬい	7.0	2.5~7.0	2.0	0.4~2.5	×	自動止めぬい	糸切り	×
ダーニング	53	A	厚地のつくろいぬい	7.0	2.5~7.0	2.0	0.4~2.5	×	自動止めぬい	糸切り	×
かんどめ	54	A	ぬい目がほどけやすい箇所、あき止まり部分の補強用	2.0	1.0~3.0	0.4	0.3~1.0	×	自動止めぬい	糸切り	×
ボタン付け	55	M	ボタン付け	3.5	2.5~4.5	—	—	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
アイレット	56	N	ベルトの穴かがりなど	7.0	7.0／6.0／5.0	7.0	7.0／6.0／5.0	×	自動止めぬい	糸切り	×
ピーシング直線	57	J	ピーシング用直線（押え右端から7mmのぬいしろ）	5.0	0.0~7.0	1.6	0.2~5.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	○
ピーシング直線	58	J	ピーシング用直線（押え左端から7mmのぬいしろ）	2.0	0.0~7.0	1.6	0.2~5.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	○
手ぬい風直線（キルト用）	59	J	手ぬい風キルト直線	0.0	0.0~7.0	2.5	1.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
ジグザグ（キルト用）	60	J	アップリケキルト、フリーモーションキルト、サテンぬい	3.5	0.0~7.0	1.4	0.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	○
アップリケ（キルト用）	61	J	アップリケ、バインディング	1.5	0.5~5.0	1.2	1.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
キルティング模様（キルト用）	62	J	キルトの背景ぬい	7.0	1.0~7.0	1.6	1.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
サイドカッター	63	S	布地を切りながら直線ぬい	0.0	0.0~2.5	2.5	0.2~5.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
サイドカッター	64	S	布地を切りながらジグザグ	3.5	3.5~5.0	1.4	0.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
サイドカッター	65	S	布地を切りながら薄地・普通地のたち目かがり	3.5	3.5~5.0	2.0	1.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
サイドカッター	66	S	布地を切りながら厚地のたち目かがり	5.0	3.5~5.0	2.5	1.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×
サイドカッター	67	S	布地を切りながら普通地・厚地のたち目かがり	5.0	3.5~5.0	2.5	1.0~4.0	×	止めぬい	止めぬい＋糸切り	×

その他の模様

グループ	模様	押え	2本針	大きさ	密度	長さ・幅変更	左右反転
飾り	 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 *	N	×	大	×	○	○
サテンステッチ	 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	N	○	大	×	○	○
クロスステッチ	 1 2 3 4 5	N	×	大	×	○	○
飾りサテン	 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	N	×	大	○	○（長さのみ）	○
アルファベット（ゴシック体）	1 A, 2 B, 3 C, 4 D, 5 E, 6 F, 7 G, 8 H, 9 I, 10 J, 11 K, 12 L, 13 M, 14 N, 15 O, 16 P, 17 Q, 18 R, 19 S, 20 T, 21 U, 22 V, 23 W, 24 X, 25 Y, 26 Z, 27 &, 28 ?, 29 !, 30, 31 0, 32 1, 33 2, 34 3, 35 4, 36 5, 37 6, 38 7, 39 8, 40 9, 41 ’, 42 ,, 43 ., 44 (, 45), 46 —, 47 Ä, 48 Å, 49 Æ, 50 Ñ, 51 Ö, 52 Ø, 53 Ç, 54 Ü, 55 ß	N	×	大・小	×	×	○

＊ 調整用模様

グループ	模様	押え	2本針	大きさ	密度	長さ・幅変更	左右反転
アルファベット（筆記体）	1 A 2 B 3 C 4 D 5 E 6 F 7 G 8 H 9 I 10 J 11 K 12 L 13 M 14 N 15 O 16 P 17 Q 18 R 19 S 20 T 21 U 22 V 23 W 24 X 25 Y 26 Z 27 & 28 ? 29 ! 30 スペース 31 0 32 1 33 2 34 3 35 4 36 5 37 6 38 7 39 8 40 9 41 ' 42 , 43 . 44 (45) 46 - 47 Ä 48 Å 49 Æ 50 Ñ 51 Ö 52 Ø 53 Ç 54 Ü 55 ß	N	×	大	×	×	○
アルファベット（アウトライン）	1 A 2 B 3 C 4 D 5 E 6 F 7 G 8 H 9 I 10 J 11 K 12 L 13 M 14 N 15 O 16 P 17 Q 18 R 19 S 20 T 21 U 22 V 23 W 24 X 25 Y 26 Z 27 & 28 ? 29 ! 30 スペース 31 0 32 1 33 2 34 3 35 4 36 5 37 6 38 7 39 8 40 9 41 ' 42 , 43 . 44 (45) 46 - 47 Ä 48 Å 49 Æ 50 Ñ 51 Ö 52 Ø 53 Ç 54 Ü 55 ß	N	×	大・小	×	×	○
ひらがな	1 あ 2 い 3 う 4 え 5 お 6 ぁ 7 ぃ 8 ぅ 9 ぇ 10 ぉ 11 か 12 き 13 く 14 け 15 こ 16 が 17 ぎ 18 ぐ 19 げ 20 ご 21 さ 22 し 23 す 24 せ 25 そ 26 ざ 27 じ 28 ず 29 ぜ 30 ぞ 31 た 32 ち 33 つ 34 て 35 と 36 だ 37 ぢ 38 づ 39 で 40 ど 41 な 42 に 43 ぬ 44 ね 45 の 46 は 47 ひ 48 ふ 49 へ 50 ほ 51 ば 52 び 53 ぶ 54 べ 55 ぼ 56 ぱ 57 ぴ 58 ぷ 59 ぺ 60 ぽ 61 ま 62 み 63 む 64 め 65 も 66 や 67 ゆ 68 よ 69 ゃ 70 ゅ 71 ょ 72 っ 73 わ 74 を 75 ん 76 ら 77 り 78 る 79 れ 80 ろ 81 & 82 ? 83 ! 84 スペース 85 ー 86 0 87 1 88 2 89 3 90 4 91 5 92 6 93 7 94 8 95 9 96 (97) 98 ヴ	N	×	大・小	×	×	○

グループ	模様										押え	2本針	大きさ	密度	長さ・幅変更	左右反転
カタカナ	1 ア	2 イ	3 ウ	4 エ	5 オ	6 ァ	7 ィ	8 ゥ	9 ェ	10 ォ	N	×	大・小	×	×	○
	11 カ	12 キ	13 ク	14 ケ	15 コ	16 ガ	17 ギ	18 グ	19 ゲ	20 ゴ						
	21 サ	22 シ	23 ス	24 セ	25 ソ	26 ザ	27 ジ	28 ズ	29 ゼ	30 ゾ						
	31 タ	32 チ	33 ツ	34 テ	35 ト	36 ダ	37 ヂ	38 ヅ	39 デ	40 ド						
	41 ナ	42 ニ	43 ヌ	44 ネ	45 ノ	46 ハ	47 ヒ	48 フ	49 ヘ	50 ホ						
	51 バ	52 ビ	53 ブ	54 ベ	55 ボ	56 パ	57 ピ	58 プ	59 ペ	60 ポ						
	61 マ	62 ミ	63 ム	64 メ	65 モ	66 ヤ	67 ユ	68 ヨ	69 ャ	70 ュ						
	71 ョ	72 ッ	73 ワ	74 ヲ	75 ン	76 ラ	77 リ	78 ル	79 レ	80 ロ						
	81 &	82 ?	83 !	84 スペース	85 ー	86 0	87 1	88 2	89 3	90 4						
	91 5	92 6	93 7	94 8	95 9	96 (	97)	98 ヴ								
漢字	1 生	2 年	3 月	4 日	5 才	6 組	7 小	8 中	9 学	10 校	N	×	大・小	×	×	○
	11 火	12 水	13 木	14 金	15 土	16 &	17 ?	18 !	19 スペース	20 ー						
	21 0	22 1	23 2	24 3	25 4	26 5	27 6	28 7	29 8	30 9						
	31 〇	32 一	33 二	34 三	35 四	36 五	37 六	38 七	39 八	40 九						
	41 十	42 (	43)													

お手入れ

簡単なミシンのお手入れ方法を説明します。

本体表面の掃除

本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤を薄めて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤でふいたあとは、乾いた布でふき取ります。

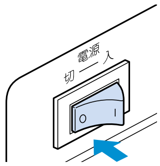
注意

- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

釜の掃除

針板の下にある釜を掃除します。
釜には糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。定期的に掃除してください。

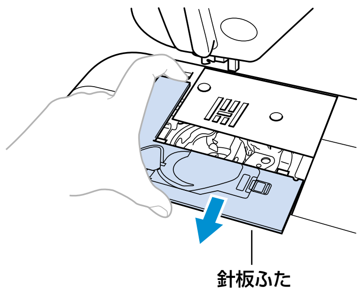
1 電源を切ります。



注意

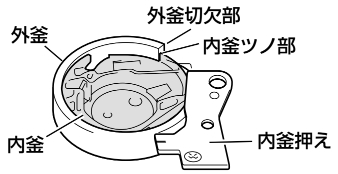
- 必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガ・感電の原因となります。

2 針板ふたの向こう側に指を引っかけ、手前にスライドさせます。



▷ 針板ふたが外れます。

3 プーリーを手前に回し、外釜の切欠部と内釜ツノ部を合わせます。

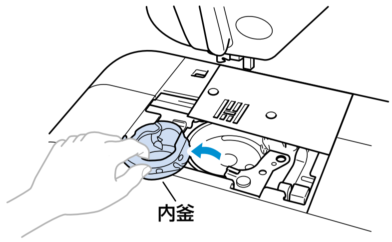


● プーリーは必ず手前に回してください。逆方向に回すと、故障の原因となります。

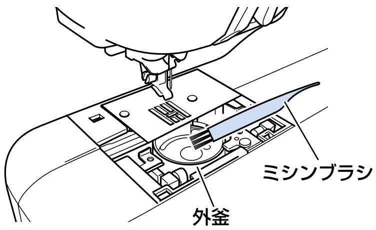
● 内釜押えは絶対に取り外さないでください。取り外すと、故障の原因になります。

4 内釜を取り出します。

内釜を奥側に押しながら上に持ち上げます。

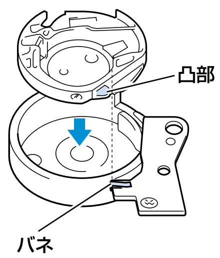


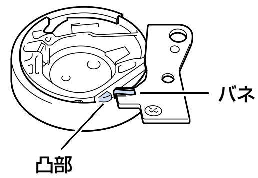
5 付属のミシンブラシや掃除機で、外釜周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



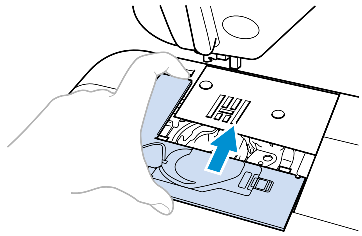
● 外釜や内釜に油をささないでください。

6 外釜切欠部が **3** と同じ位置にあることを確認し、内釜の凸部とバネが合うように内釜を取り付けます。





7 針板ふたのツメの部分を針板に差し込んでから、奥側にスライドさせます。



注意

● キズが付いた内釜は使用しないでください。万一、使用すると上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。内釜(部品コード:XC3153-051)は最寄りの販売店でお買い求めください。

● 内釜は正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に以下の項目を確認してください。
それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。

こんなとき	原因	対処の仕方	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていない。	電源を入れます。	P.15
	スタート／ストップスイッチを押していない。	スタート／ストップスイッチを押します。	P.51
	押えレバーが上がっている。	押えレバーを下げます。	–
	フットコントローラーを接続した状態で、スタート／ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。スタート／ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外します。	P.51
針が折れる	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	P.37
	針の止めネジがゆるんでいる。	ドライバーを使って止めネジをしっかりしめます。	
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	
	針が布地や糸に合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.36
	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P.124
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.56
	布地を無理に引っ張っている。	布地は軽く押さえます。	–
	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P.29
	針板の穴の周囲に傷がある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–
	押えの穴の周辺に傷がある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–
	内釜に傷がある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–
	本機専用のボビンを使用していない。	従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	P.22
上糸が切れる	上糸の通し方がまちがっている。（糸こまが正しくセットされていない、糸こま押えの大きさが合っていない、針棒糸かけから糸が外れているなど）	上糸を正しく通します。	P.28
	糸に結び目やこぶがある。	その部分を取り除きます。	–

こんなとき	原因	対処の仕方	参照ページ
上糸が切れる	針が糸に合っていない。	糸に合った針を使用します。	P.36
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	P.56
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P.131
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.37
	針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けます。	
	針板の穴の周囲に傷がある。	針板を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	−
	押えの穴の周辺に傷がある。	押えを交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	−
	内釜に傷がある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	−
	本機専用のボビンを使用していない。	従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	P.22
下糸がからまる 下糸が切れる	下糸のセットの仕方がまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.26
	ボビンに傷があり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	−
	糸がからまっている。	からんだ糸を取り除き、釜を掃除します。	P.131
	本機専用のボビンを使用していない。	従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	P.22
糸調子が合わない	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を正しく通します。	P.28
	下糸のセットの仕方がまちがっている。	下糸を正しくセットします。	P.26
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.36
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	P.41
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.56
	本機専用のボビンを使用していない。	従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	P.22
布地にしわがよる	上糸の通し方または下糸のセットの仕方がまちがっている。	上糸、下糸を正しくセットします。	P.26, 28
	糸こまが正しく取り付けられていない。	糸こまを正しく取り付けます。	P.29
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.36
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.37
	薄地の場合に、ぬい目があらすぎる。	ぬい目を細かくします。または布地の下にハトロン紙などを敷いてぬいます。	P.66
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.56

こんなとき	原因	対処の仕方	参照ページ
ぬい目がとぶ	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を正しく通します。	P.28
	布地に糸や針が合っていない。	布地に合った糸と針を使用します。	P.36
	針が曲がっている。針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	P.37
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	
	針板の下や釜にほこりなどがたまっている。	針板ふたを外して釜を掃除します。	P.131
ぬっているときの音が高い ガタガタと音がする	送り歯や釜にほこりがたまっている。	釜を掃除します。	
	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を正しく通します。	P.28
	内釜に傷がある。	内釜を交換します。 お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–
	本機専用のボビンを使用していない。	従来品では正しく動作しません。本機専用ボビンを使用してください。	P.22
自動糸通しができない	針が上に上がっていない。	針上下スイッチを押します。	–
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	P.37
模様がきれいにぬえない	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P.124
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	P.56
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P.129
布地を送らない	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを左に動かします。	P.96
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	P.59
	模様に合った押えを使用していない。	模様に合った押えを取り付けます。	P.124
	押え圧が弱い。	押え圧ダイヤルを右に動かして、圧力を強くします。	P.41
	糸がからまって、釜などに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。釜に詰まっていた場合は、掃除します。	P.131
手もとランプが点灯しない	ランプが故障した。	お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル0120-340-233）にご相談ください。	–
液晶画面に何も表示されない	液晶画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎる。	液晶画面の明るさを調節します。	P.137

エラーメッセージ

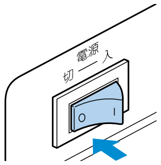
ミシンが正しく準備できていない状態で、スタート／ストップスイッチを押したときや、まちがった操作をしたときなどは、液晶画面にメッセージが表示されます。表示された内容に従ってください。
メッセージは OK （OK キー）または ↩ （もどるキー）を押すか、正しい操作をすると消えます。

表示	原因
	糸がらみなどで、モーターがロックしたとき
押えレバーを下げてください	押えが上がった状態で、スタート／ストップスイッチ・返しぬいスイッチ・糸切りスイッチのいずれかを押したとき
下糸巻軸を左にしてください	下糸巻き軸を右にした状態で、返しぬいスイッチ・針上下スイッチ・糸切りスイッチのいずれかを押したとき
コントローラーを外してください	フットコントローラーが取り付けられた状態で、スタート／ストップスイッチを押したとき
BHレバーを上げてください	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり・かんどめ・ダーニング以外の模様を選択して、スタート／ストップスイッチ・返しぬいスイッチを押したとき
BHレバーを下げてください	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがり・かんどめ・ダーニングを選択して、スタート／ストップスイッチ・返しぬいスイッチを押したとき
模様を選んでください	模様をがすべて削除された状態で、スタート／ストップスイッチ・返しぬいスイッチを押したとき
記憶中	模様の記憶中
下糸巻中	下糸巻き装置で下糸巻き動作中
これ以上組合せできません	71個以上の模様を組み合わせようとしたとき
振り幅調節をOFFしてください	振り幅コントロールがONの場合に、フットコントローラーを接続せずにスタート／ストップスイッチを押したとき
2本針モードです	2本針の設定がしてある場合に、2本針が使用できない模様を選択したとき
＋が押されていません 模様がきえます ↩ いいえ OK はい	2つ以上の模様を組み合わせた状態で、先頭の模様を選ぼうとしたとき
変更できません	選択した模様で、変更できない項目を押したとき

液晶画面に何も表示されないとき

電源を入れても液晶画面に何も表示されないときは、画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎるときです。その場合は、以下の操作をしてください。

1 **いったん電源を切ります。**



2 **表示パネルの（もどるキー）を押しながら、電源を入れます。**

3 **◀（－）または▶（＋）を押します。**

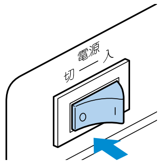
液晶画面に表示されている内容が見える明るさにします。

4 **いったん電源を切ってから、もう一度電源を入れ直します。**

糸調子を簡単に変えたいとき

上糸調子が簡単に調節ができるように、ミシンの設定を変更できます。

1 **いったん電源を切ります。**



2 **表示パネルの（設定キー）を押しながら、電源を入れます。**

3 **「ピッ」と音が鳴ったら、（設定キー）から手を離します。**

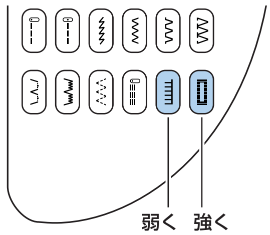
▶ ダイレクト選択キーで上糸調子が変更できるようになります。

■ **上糸調子を弱くするとき**

表示パネルのを押します。

■ **上糸調子を強くするとき**

表示パネルのを押します。



お知らせ

- この設定は、電源を切っても解除されません。
- この設定をすると、このキーで模様の選択はできなくなります。模様を選択するキーとして使用する場合は、もう一度上記の操作を行います。

付録

困ったとき

電子音

キーを操作しているときや、まちがった操作をしたときなどに、電子音が鳴ります。

■ **正しい操作をしたとき**

「ピッ」と鳴ります。

■ **まちがった操作をしたとき**

「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

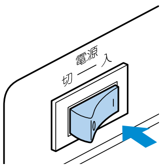
■ **糸がからむなど、ミシンがロックしたとき**

「ピッピッピッ・・・」と4秒間鳴り続けます。ミシンは自動的に止まり､4秒経過すると操作可能な状態にもどります。
必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

電子音を消したいとき

購入時は、表示パネルのキーを操作すると音が鳴るように設定されています。この音を鳴らないように変更できます。

1 **電源を入れます。**

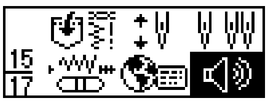


▷ 液晶画面が点灯します。

2 **表示パネルの ⓔ（設定キー）を押します。**

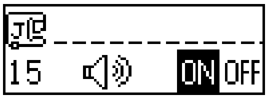
▷ 設定画面が表示されます。

3 **▲▼◀▶（矢印キー）を押して、🔈 を反転表示させます。**



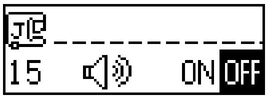
4 **OK（OK キー）を押します。**

▷ 電子音を設定する画面が表示されます。



5 **▶ を押して OFF を反転表示させます。**

◀ を押すと、ON にもどります。



▷ 電子音が鳴らないように設定されます。

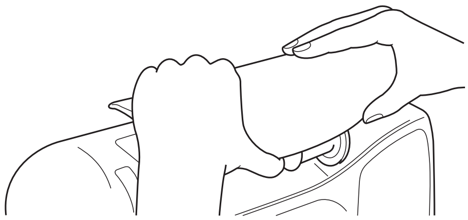
6 **OK（OK キー）を押します。**

▷ 最初の画面にもどります。

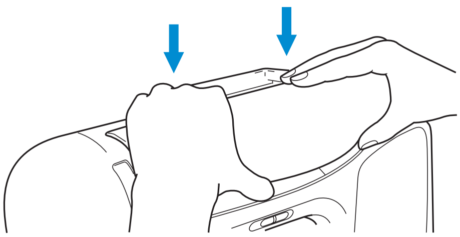
上ふたが外れたとき

本体上のふたが外れたときは、以下の手順で取り付けます。

1 **上ふたを水平に持ちます。**



2 **上ふたを上から押して、本体に取り付けます。**



アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「ミシン 119 番」(フリーダイヤル 0120-340-233)、お客様相談室にお問い合わせください。

■ 保証書について

ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。(保証書は外箱に付いています。)
また無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン 119 番」、お客様相談室にお問い合わせください。

■ ミシン 119 番

ミシンの使い方やトラブルに対するご相談、修理の受け付けは「ミシン119番」(フリーダイヤル0120-340-233)までお問い合わせください。

■ お客様相談室

本製品についての、使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの「販売店」または「お客様相談室(ミシン 119 番)」までお問い合わせください。

〒467-8577　愛知県名古屋市瑞穂区苗代町 15-1
お客様相談室(ミシン 119 番):TEL :0120-340-233
Fax :052-824-3031
営業時間:月曜日〜金曜日　9:00 〜 17:30
土曜日　9:00 〜 12:00/13:00 〜 17:00
(祝祭日、ブラザー販売(株)休日を除く)

お願い

- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「ミシン 119 番」、お客様相談室にご連絡ください。
- 上記の電話番号および住所は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

仕様

本体仕様

項目	仕様
本体寸法	幅435mm×高さ287mm×奥行201mm
ケースセット寸法	幅468mm×高さ306mm×奥行225mm
製品質量	8kg（ケース付き：9.5kg）
ぬい速度	毎分70～850針
使用ミシン針	家庭用ミシン針HA×1
ランプ	白色発光ダイオード
搭載模様数	実用：67 飾り：31 サテンステッチ：16 クロスステッチ：5 飾りサテン：10 アルファベット：55×3書体 ひらがな：98 カタカナ：98 漢字：43

索引

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

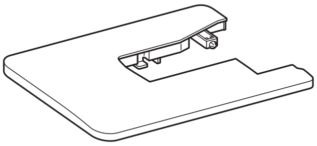
ト

別売オプション

オプション品として、以下の製品を用意しています。

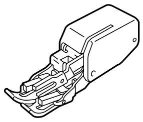
■ ワイドテーブル

大きな布地をぬうときに使用すると便利です。（部品コード：XC4541-051）



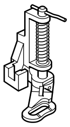
■ ウォーキングフット

ビニールや皮など、すべりにくい布地をぬうときに使用します。（部品コード：X81125-001）



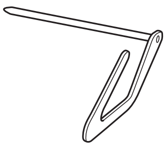
■ キルト押え

フリーモーションキルトをするときに使用します。（部品コード：XC1948-002）



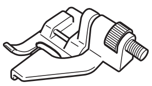
■ キルター

ウォーキングフットや押えホルダーのキルター用の穴に差し込んで使用します。キルティングをするときに、ぬい目を等間隔にそろえてぬうことができます。（部品コード：XC2215-002）



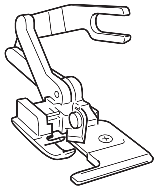
■ ガイド付押え

ガイドを布端に合わせて調節し、一定の幅のぬいしろでぬうことができます（部品コード：XC1957-002）



■ サイドカッター押え

布地の端を切りながら、たち目かがりなどをするときに使用します。（部品コード：XC3879-002）



お知らせ

- オプション品・部品については、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」（フリーダイヤル 0120-340-233）にお問い合わせください。

アフターサービス

●ご購入の際、販売店でお渡しする保証書は大切に保管してください。
●無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。詳しくは保証書をご覧ください。
それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン119番」、お客様相談室にご相談ください。
●当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
●アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の「ミシン119番」、お客様相談室へお問い合わせください。

ミシン119番　フリーダイヤル0120-340-233

●ブラザーミシンの使い方やアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または「ミシン119番」までお問い合わせください。
●「ミシン119番」ではミシンの使い方やトラブルに対するご相談、修理の受け付けを行っております。

お客様相談室

本製品についての、使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの「販売店」または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577　愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1
お客様相談室（ミシン119番）：TEL：0120-340-233
FAX：052-824-3031
営業時間：月曜日～金曜日　9：00～17：30
土曜日　9：00～12：00/13：00～17：00
(祝祭日、ブラザー販売（株）休日を除く)

● ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「ミシン119番」、お客様相談室にご連絡ください。
● 上記の電話番号および住所は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

ホームページ

●ブラザー工業のホームページでは、家庭用ミシンに関する様々な情報を掲載しております。
（URL）http://www.brother.co.jp

ブラザー工業株式会社

取扱店

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1　〒467-8561

114-S54, S56
XC4499-021②
Printed in China